

# 令和元年度まちづくりに関する アンケート結果報告書

令和2年3月  
日出町政策推進課

## 【 目 次 】

1 調査概要	P2
--------	----

2 回答者の属性	P3
----------	----

### 3 集計結果

(1) 日出町全体について	P11
---------------	-----

問2 あなたは、現在の日出町の住み良さをどのように感じていますか。

問3 あなたは、これからも日出町に住み続けたいと思いますか

問4 住み続けたいと回答された主な理由は何ですか

問5 転出したいと回答された主な理由は何ですか

問6 日出町が他に誇れる、地域の資源・強みは何だと思えますか

問7 あなたは、今後の日出町のまちづくりを進めていくにあたって、「目指すべき将来像」として特に重要だと思うのは次のうちどれですか。

問8 従来の施策に加え、町が新たに力を入れて取り組むべき施策は何だと思えますか

(2) 個別の施策分野について	P23
-----------------	-----

問9 町の人口は、平成24年をピークに減少傾向が続いていますが、今後もこうした傾向が続いた場合、将来に向けて気になることはどれですか。

問10 人口減少に歯止めをかけるために、どのようなことが必要だと思えますか

問11 町で子どもの数を増やしていくために、どのようなし支援・対策が有効と思えますか

問12 少子高齢化社会の進展により社会保障費が年々増大しています。今後限られた財源のなか、保健・福祉分野を充実させるため、どの部分に特に力を注ぐべきと思えますか

問13 教育・文化・スポーツ活動を活発にするため、どの部分に力を注ぐべきと思えますか

問14 安全・安心なまち（地域）をつくるため、今後どの部分に力を注ぐべきと思えますか

問15 産業振興について、今後、どのようなことに力を注ぐべきと思えますか

問16 現在の日出町は、町民と行政が協働してまちづくりに取り組んでいると思えますか

問17 だれもが住みよいまちづくりの実現のためには、地域活動や町民活動（区や自治会・公民館の活動やボランティア活動など）は大切だと思えますか

問18-1 これまで、どのような町民活動やボランティア活動に参加したことがありますか（参加の有無）

問18-2 これまで、どのような町民活動やボランティア活動に参加したことがありますか

問19-1 地域にあったほうがよいと思う町民活動やボランティア活動は何ですか（必要性の有無）

問19-2 地域にあったほうがよいと思う町民活動やボランティア活動は何ですか

問20 町民参加の取組について、現在の町政への意見・提言の機会や手段・方法に満足していますか

問21 町民参加を推進するうえで、今後どのようなことに力を注ぐべきだと思えますか

問22 町からの情報やお知らせを主にどのようにして受け取りたいですか

問23 あなたが、もっと町から発信してもらいたいと思う情報は何か

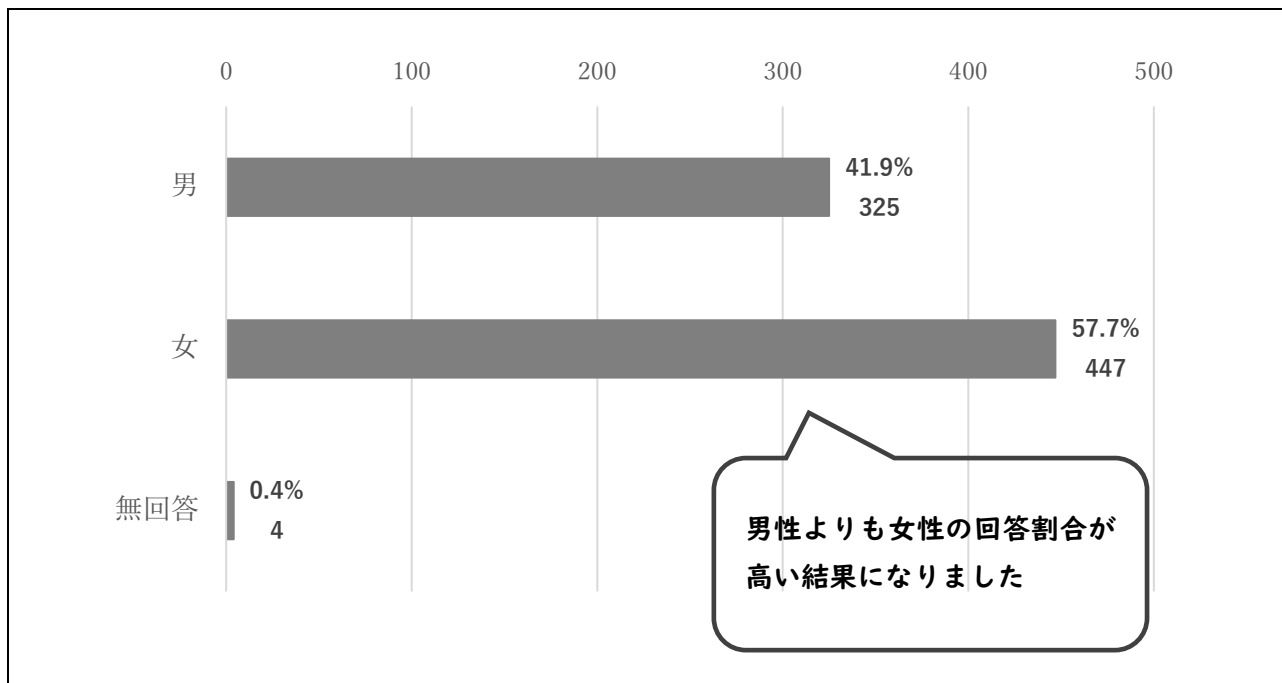
## 1 調査概要

項目	内容
(1) 調査の目的	次年度の総合計画の見直しと新たな総合戦略を策定にむけ、町民の皆様の考えを把握するために実施しました。
(2) 調査の期間	令和元年10月1日(火)～10月18日(金)
(3) 調査の対象	住民基本台帳に記載された18歳以上の町民2,000人(町内全域)
(4) 調査の方法	郵送による調査票の配布、回収(無記名回答)
(5) 調査の項目	1 調査概要 2 回答者の属性 3 日出町全体について 4 個別の施策分野について 5 自由意見
(6) 調査結果の活用	新たな総合戦略・総合計画の策定や、今後のまちづくりに活かします。
(7) 留意点	① 回答方法は回答総数を基数とした百分率で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合があります。 ② 複数回答の設問の場合、回答比率の合計は100%にならない場合があります。
(8) 回収状況	1 発送数：2,000件 2 回収数：776件 3 返送数：7件 4 有効回収率：38.8% ( = (回収数÷対象者2,000人) × 100 で算出 )

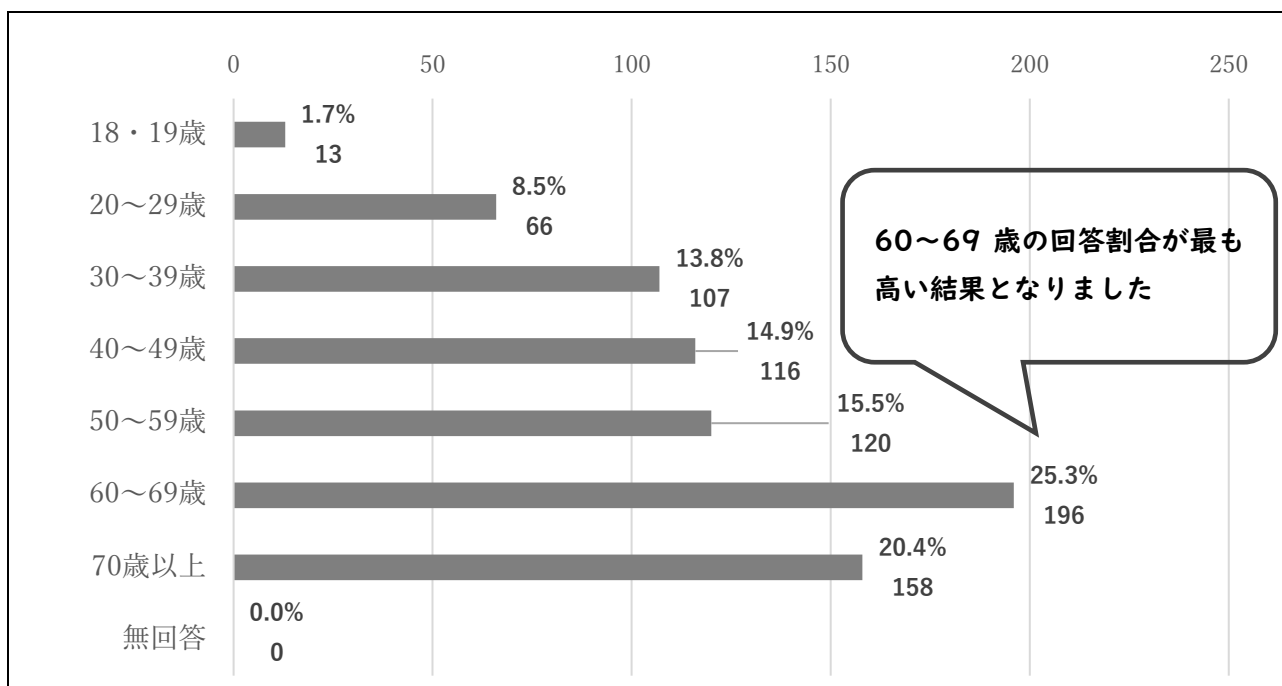
## 2 回答者の属性

## 2 回答者の属性

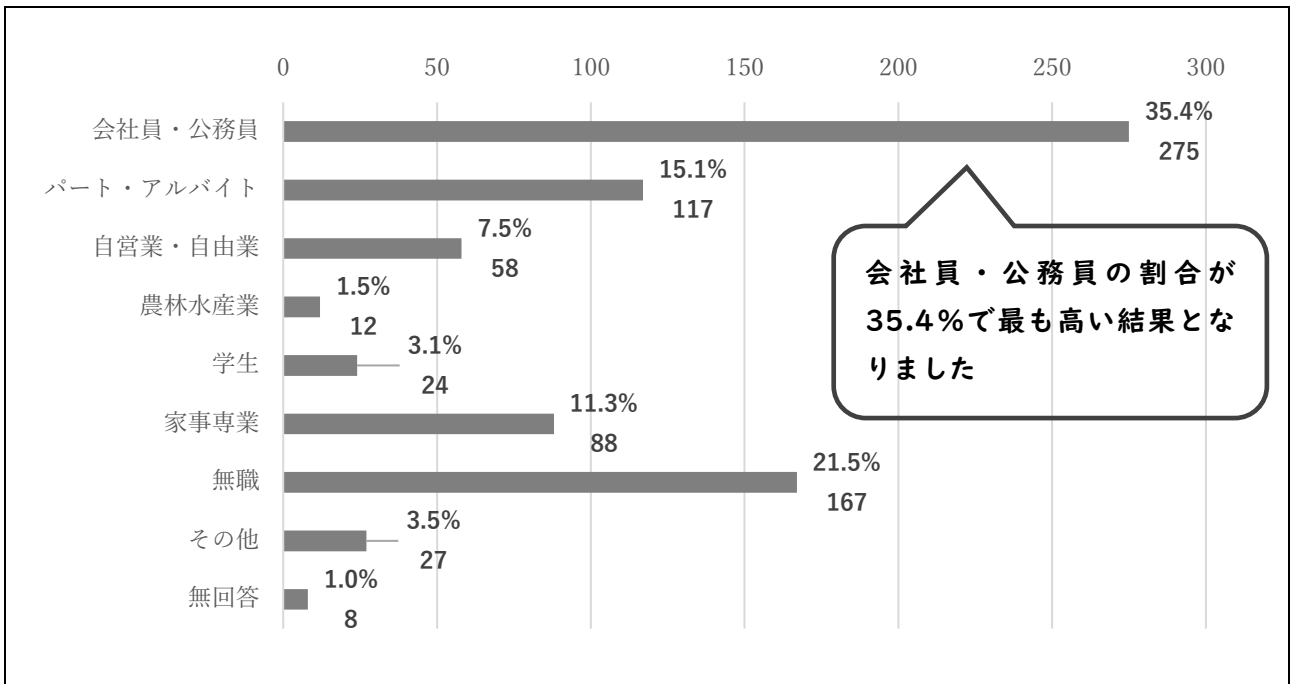
### 1. あなたの性別は？



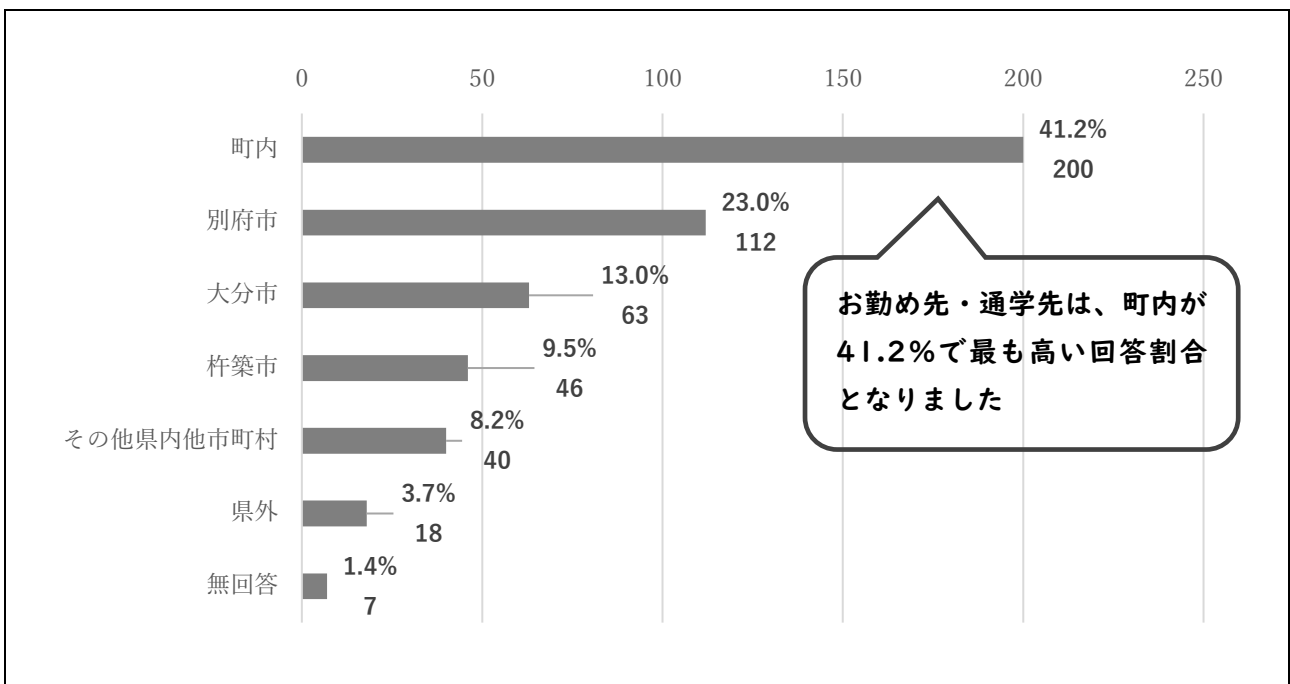
### 2. 現在の年齢は？



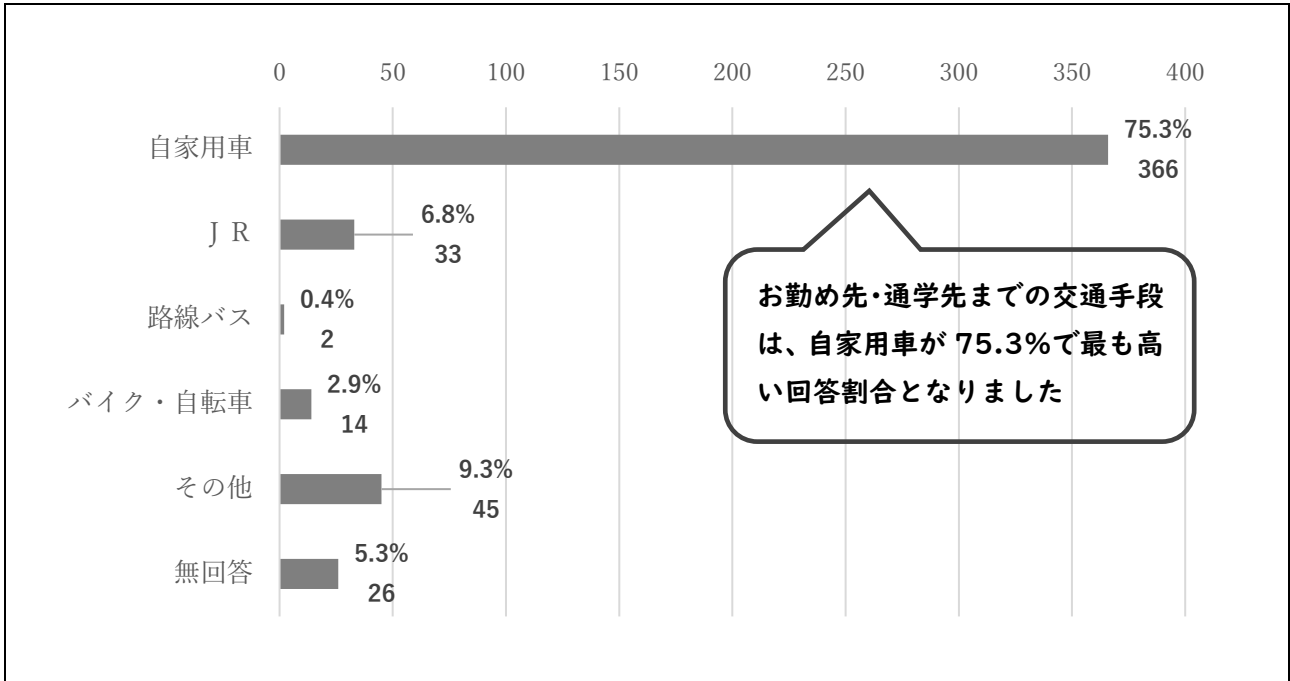
### 3. お勤め状況は？



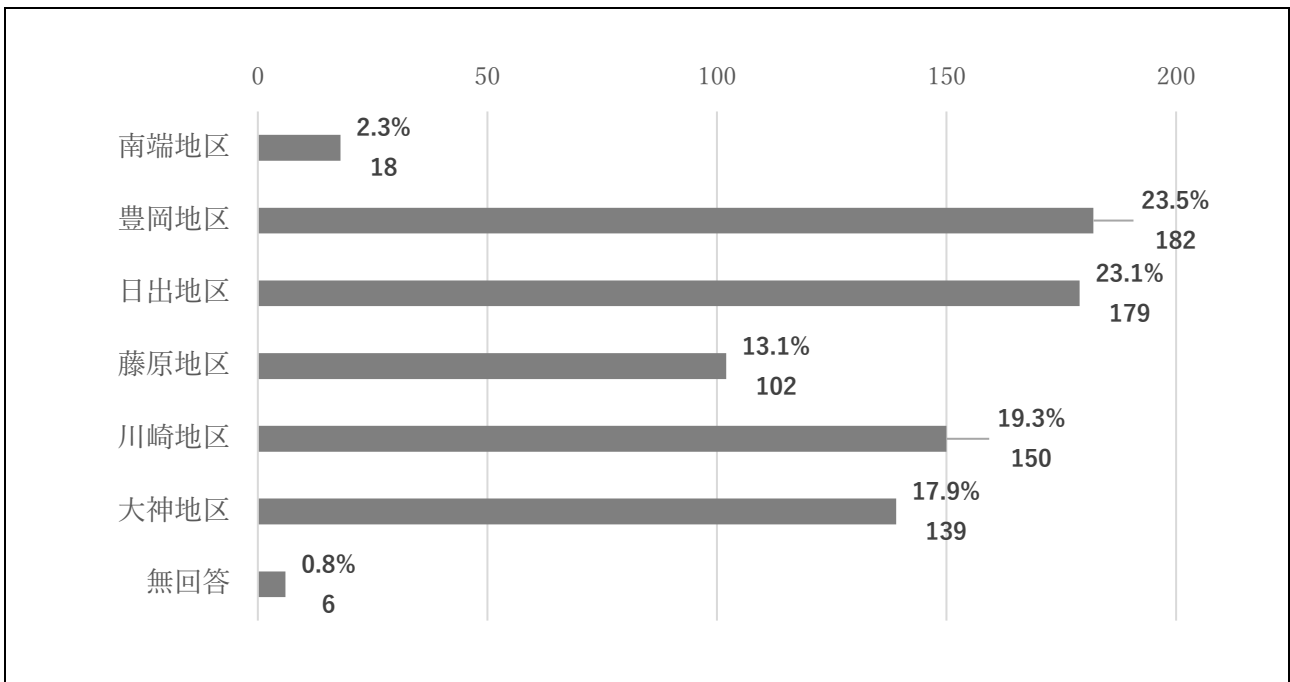
#### 3-1. お勤め先・通学先は？



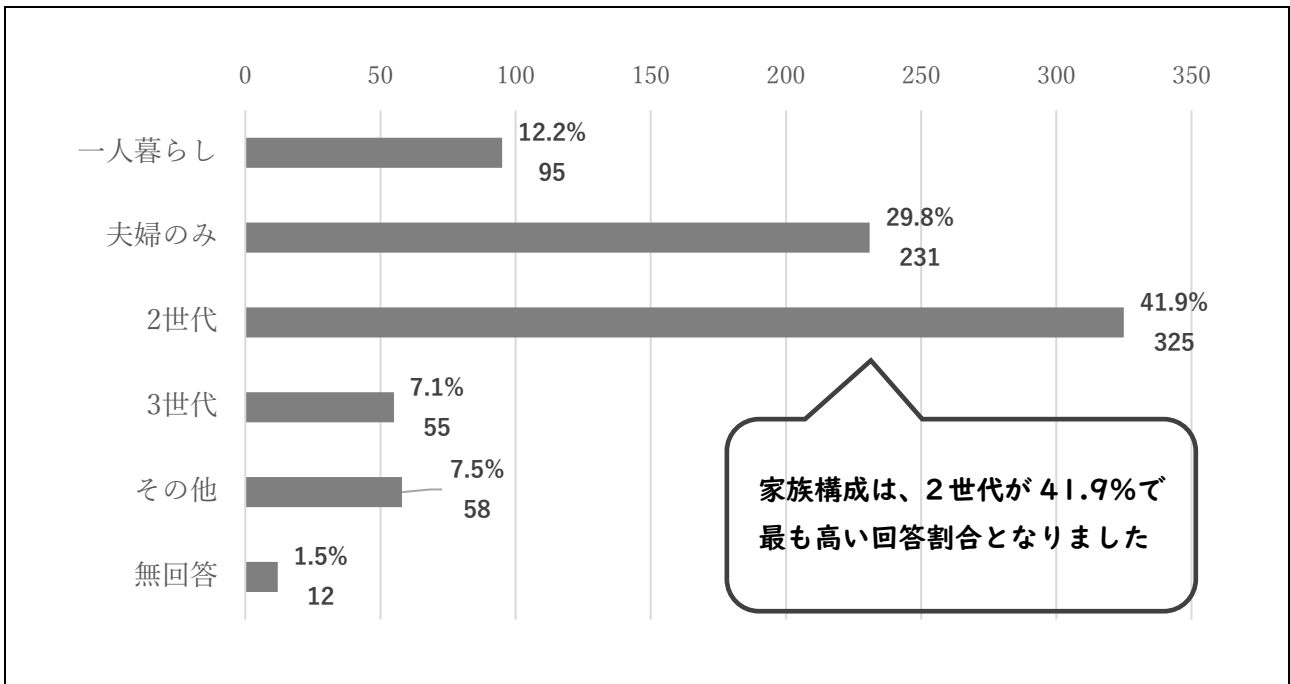
### 3-2. お勤め先等までの交通手段は？



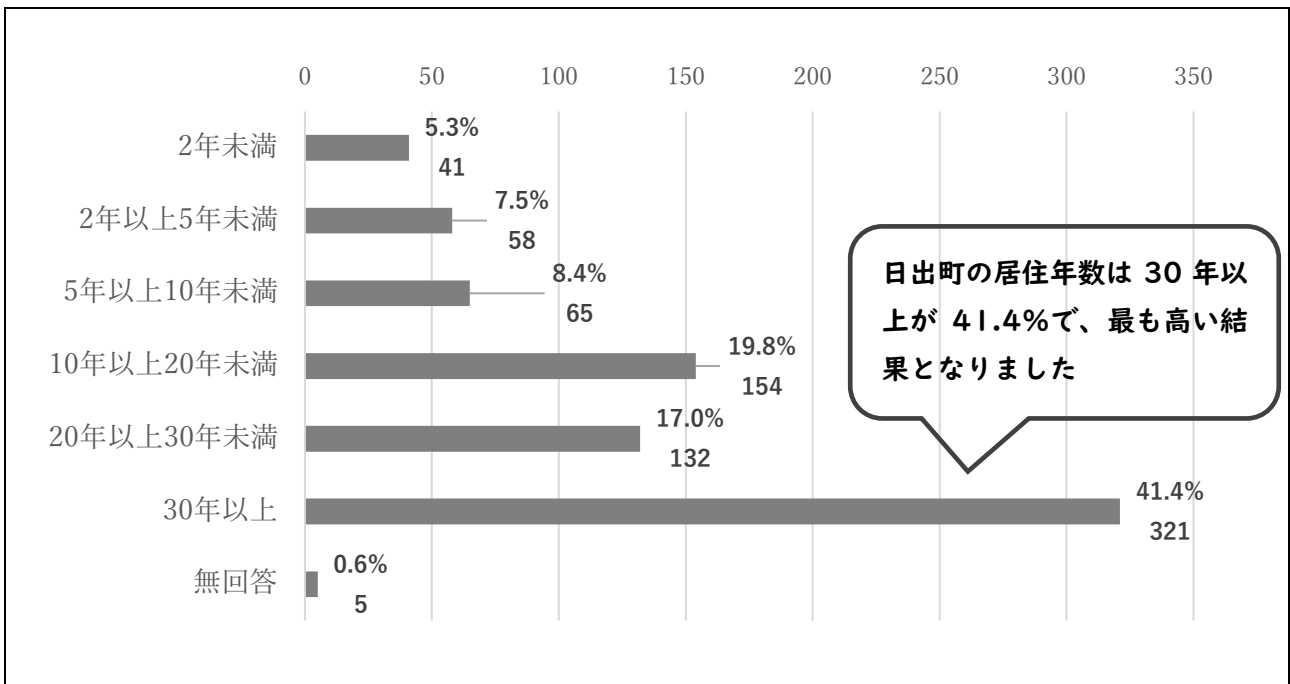
### 4. あなたの居住地は？



## 5. あなたの家族構成は？

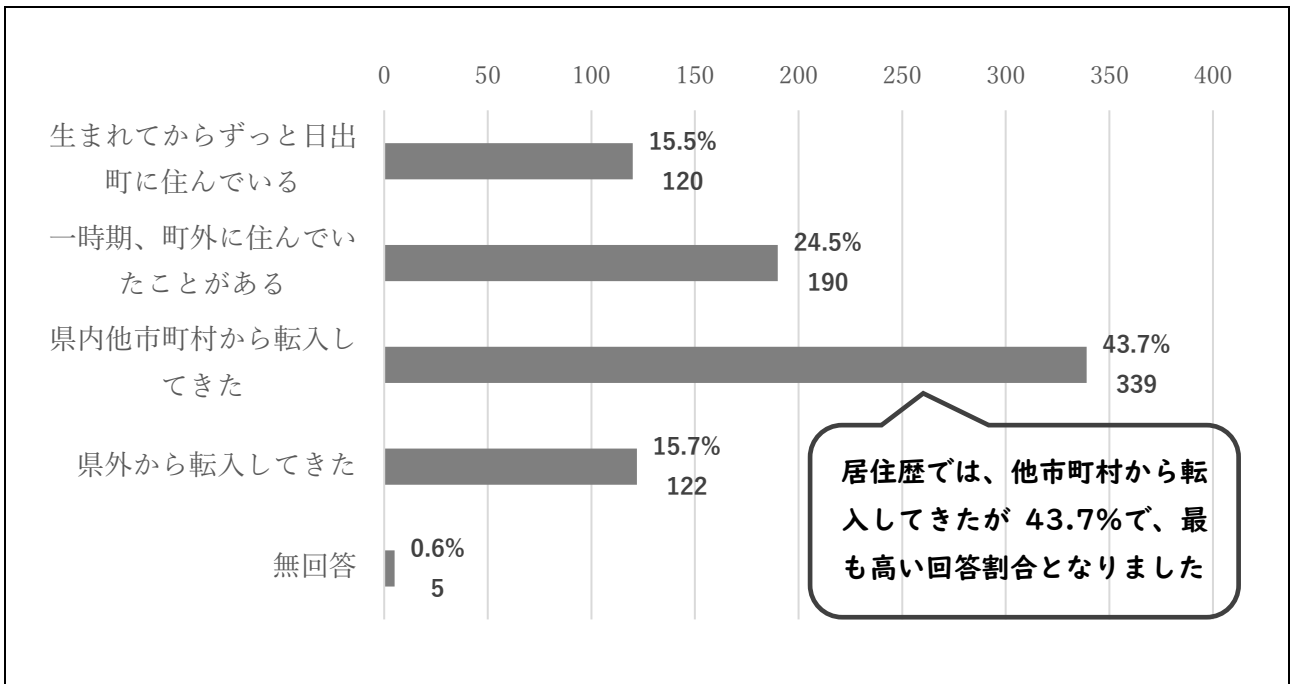


## 6. あなたの日出町での居住年数は？

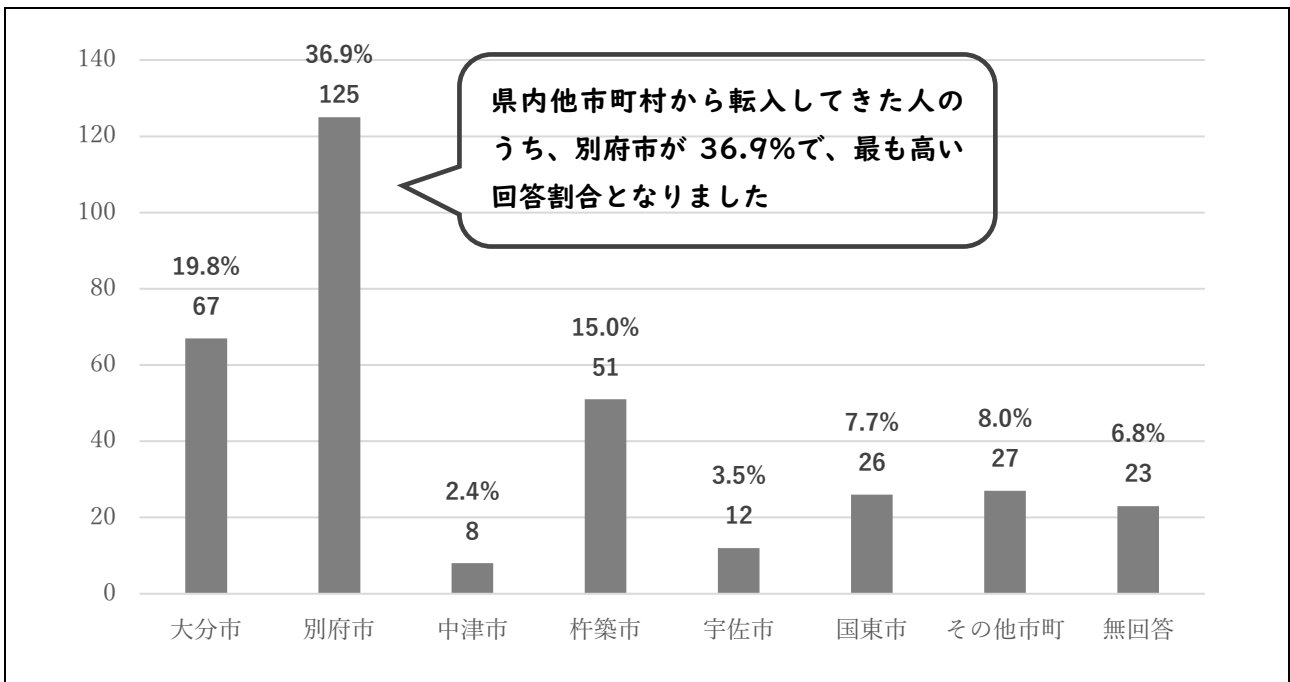




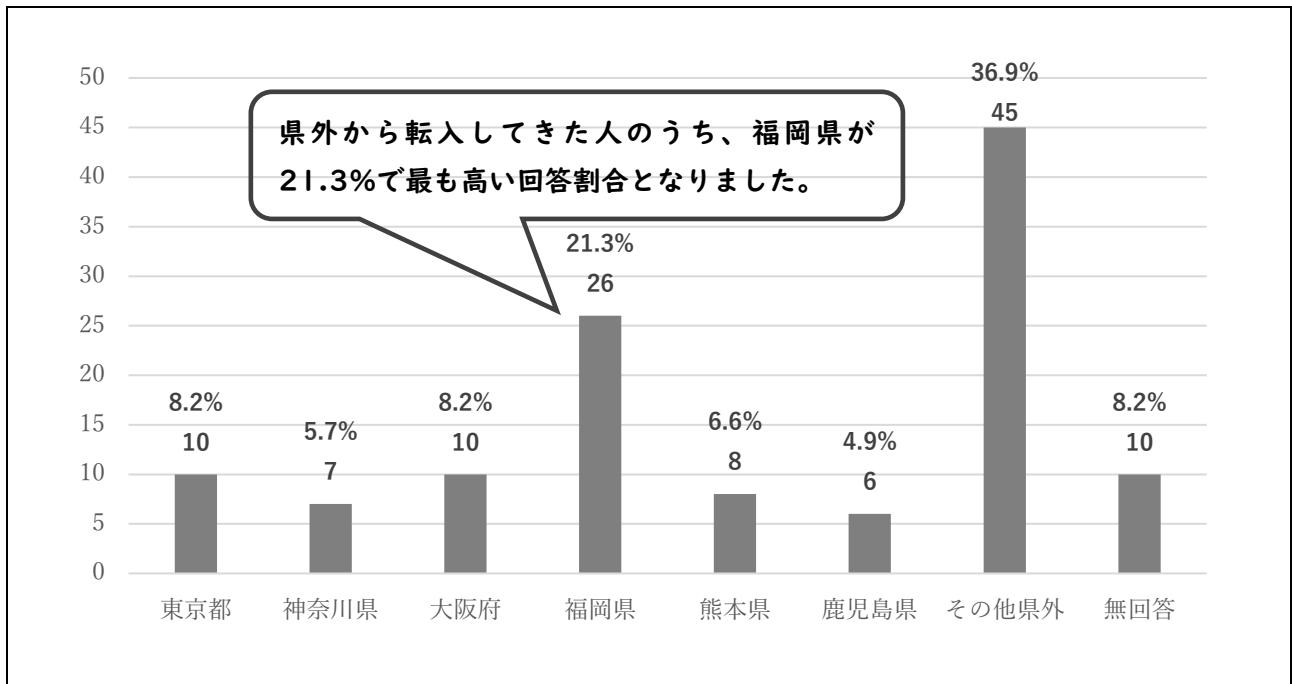
## 7-1. あなたの居住歴は？



## 7-2. 県内他市町村から転入してきた人の内訳



### 7-3. 県外から転入してきた人の内訳



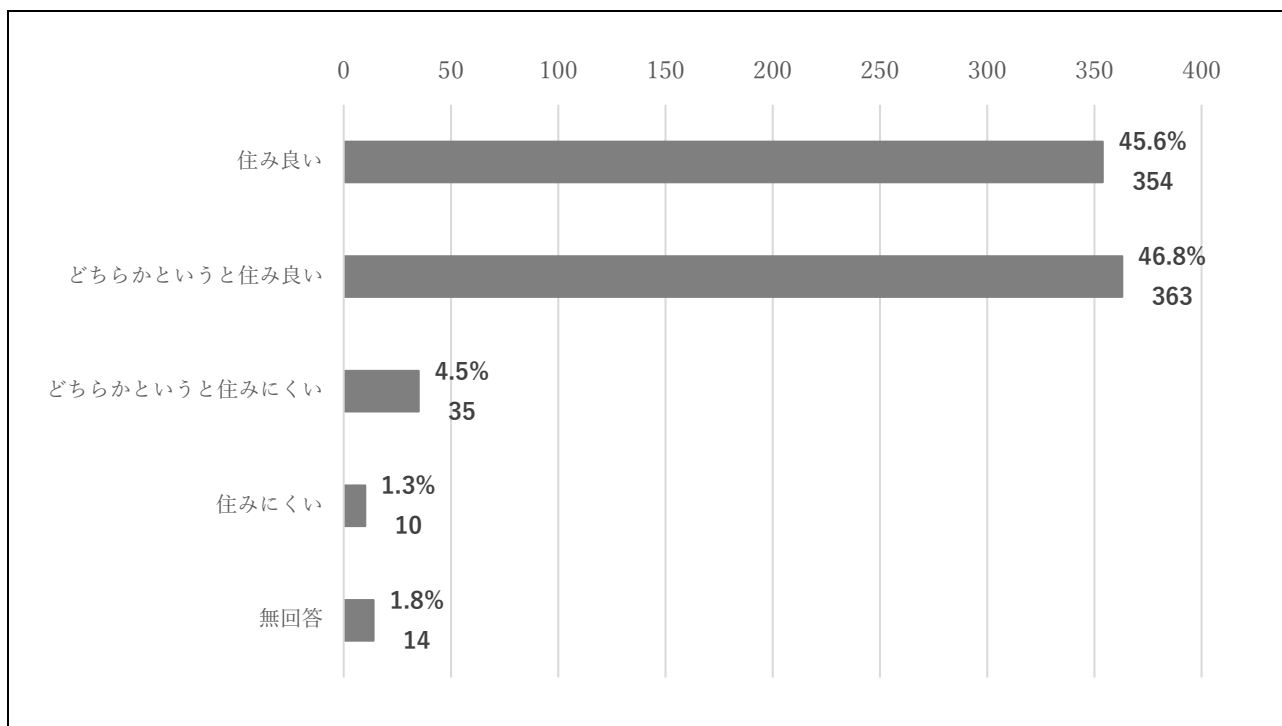
### **3 集計結果**

## 【日出町全体について】

### 問2 あなたは、現在の日出町の住み良さをどのように感じていますか。(○は1つ)

#### 【全体の傾向】

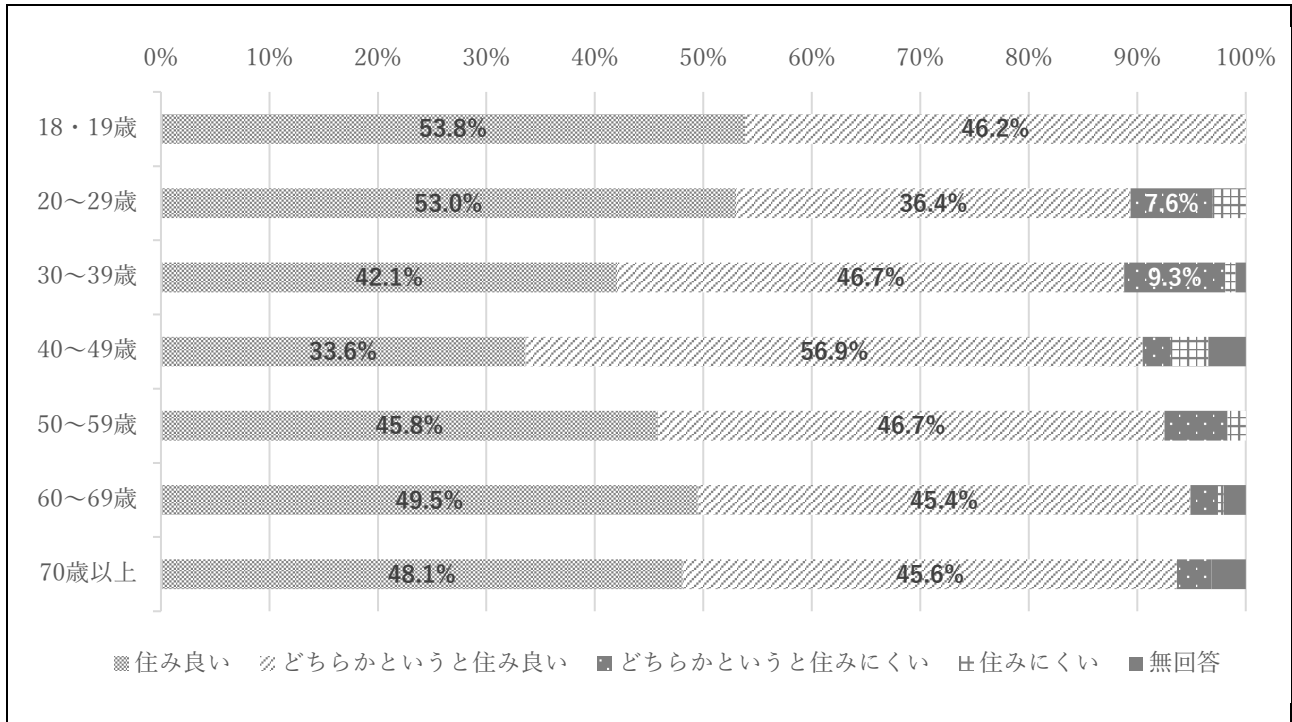
- ・「どちらかというに住み良い」と回答した割合が46.8%で最も高く、次いで「住み良い」と回答した割合が45.6%で、合わせて92.4%の人が「住み良い」と回答している
- ・「どちらかというに住みにくい」と回答した割合は4.5%、「住みにくい」と回答した割合が1.3%で、合わせて5.8%の人が住みにくいと回答している



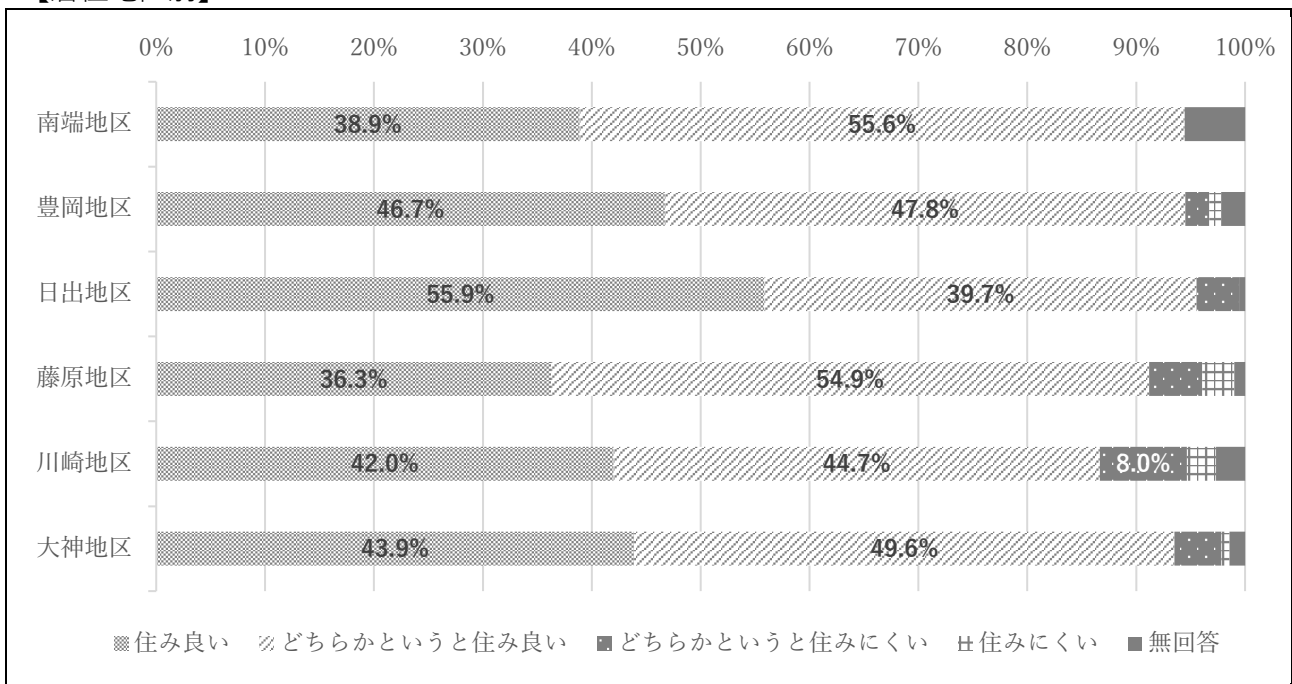
### 【属性別の傾向】

- ・年齢別では、18・19歳の「住み良い」と回答した割合が53.8%で、各年代の中で最も高く、次いで20～29歳の53.0%となっている。また、40～49歳で「住み良い」と回答した割合は33.6%で各年代の中で最も低い。
- ・居住地区別では、日出地区の「住み良い」と回答した割合が55.9%で、各地区の中で最も高く、次いで豊岡地区の46.7%となっている。

### 【年齢別】



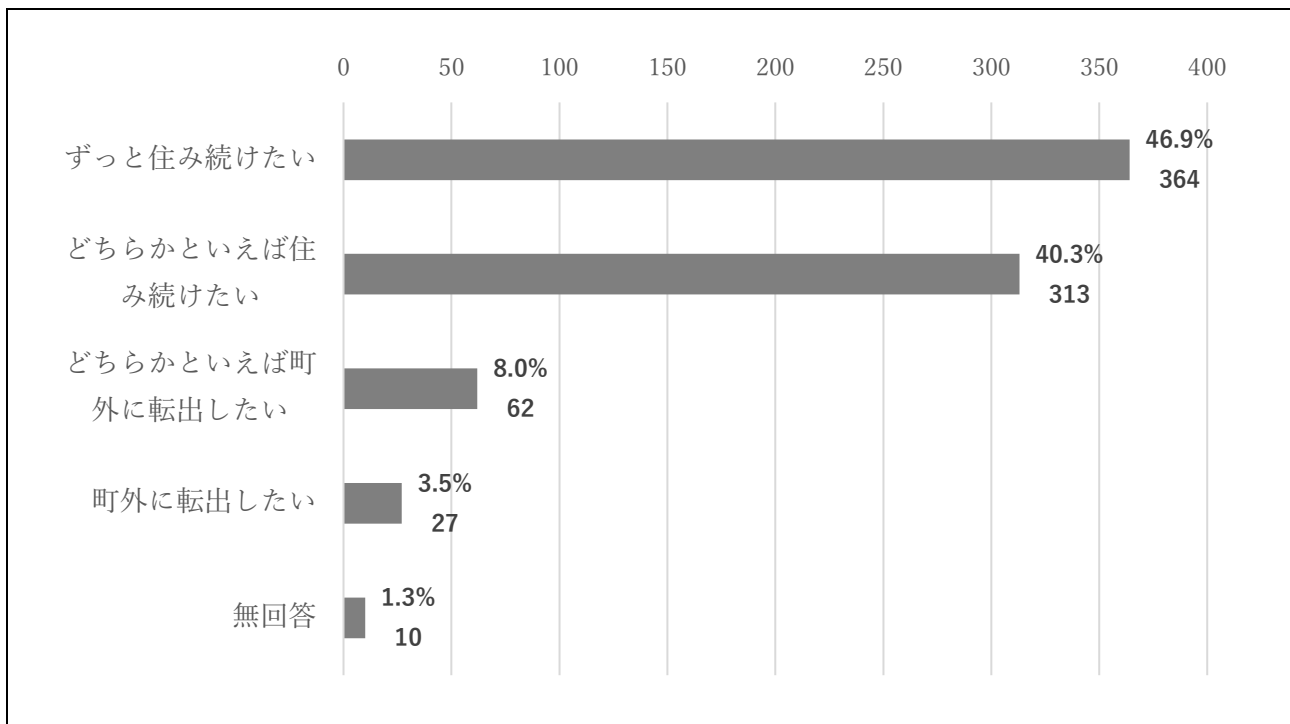
### 【居住地区別】



### 問 3 あなたは、これからも日出町に住み続けたいと思いますか (1つだけ○)

#### 【全体の傾向】

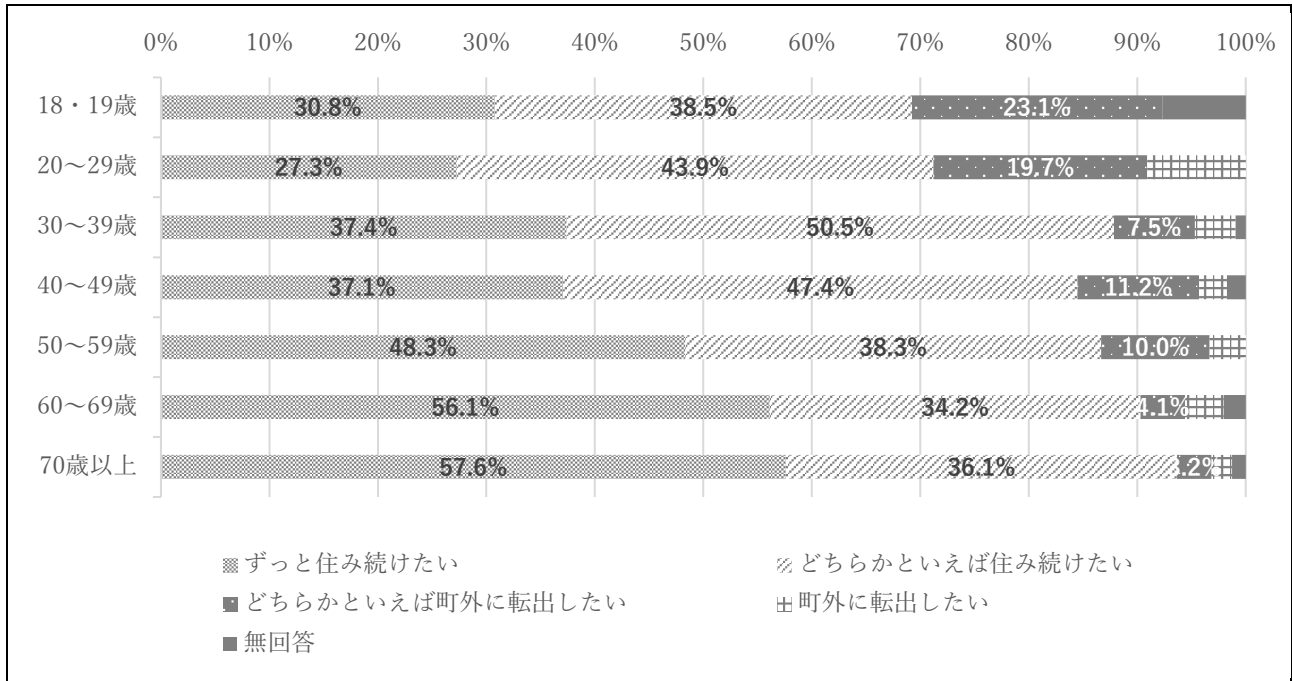
・「ずっと住み続けたい」と回答した割合が 46.9%で最も割合が高く、次いで「どちらかといえば住み続けたい」と回答した割合が 40.3%で、合わせると 87.2%が「住み続けたい」と回答している。



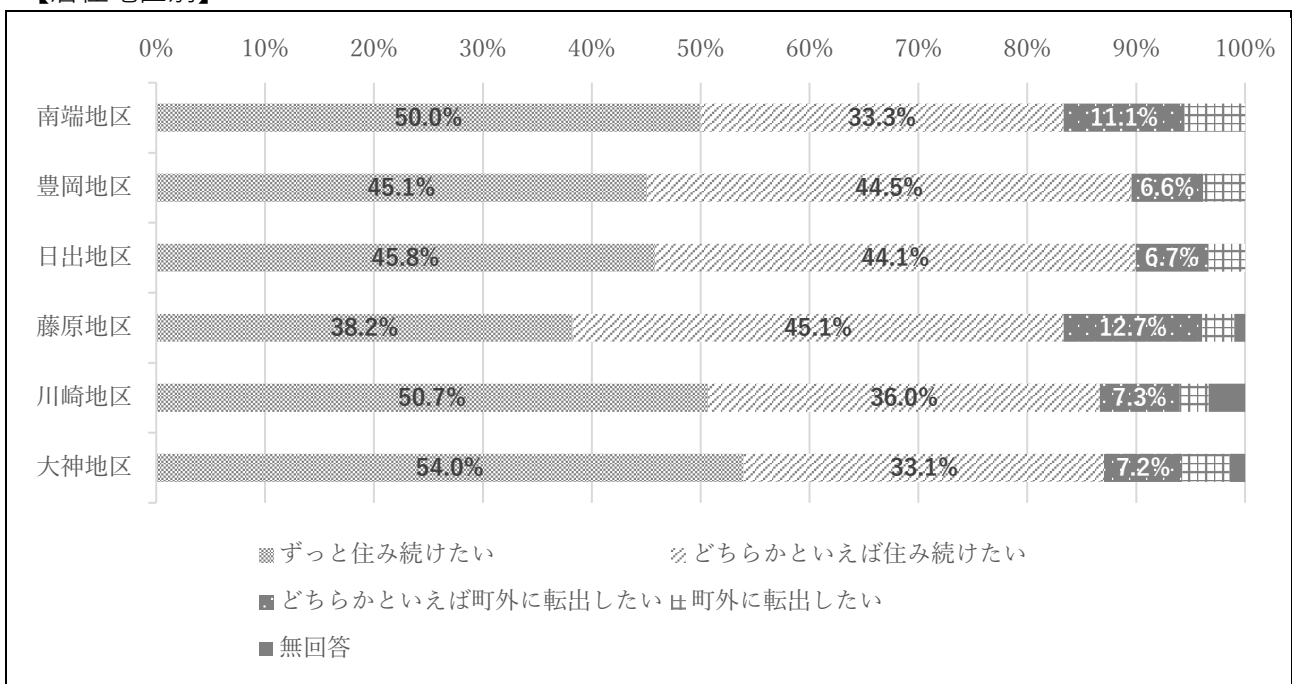
### 【属性別の傾向】

- ・年齢別では、70歳以上の「ずっと住みたい」と回答した割合が57.6%で、各年代の中で最も高く、次いで60～69歳の56.1%となっている。また、20～29歳の「ずっと住みたい」と回答した割合は27.3%で各年代の中で最も低い。
- ・居住地区別では、大神地区の「ずっと住みたい」と回答した割合が54.0%で、各地区の中で最も高く、次いで川崎地区の50.7%となっている。

### 【年齢別】



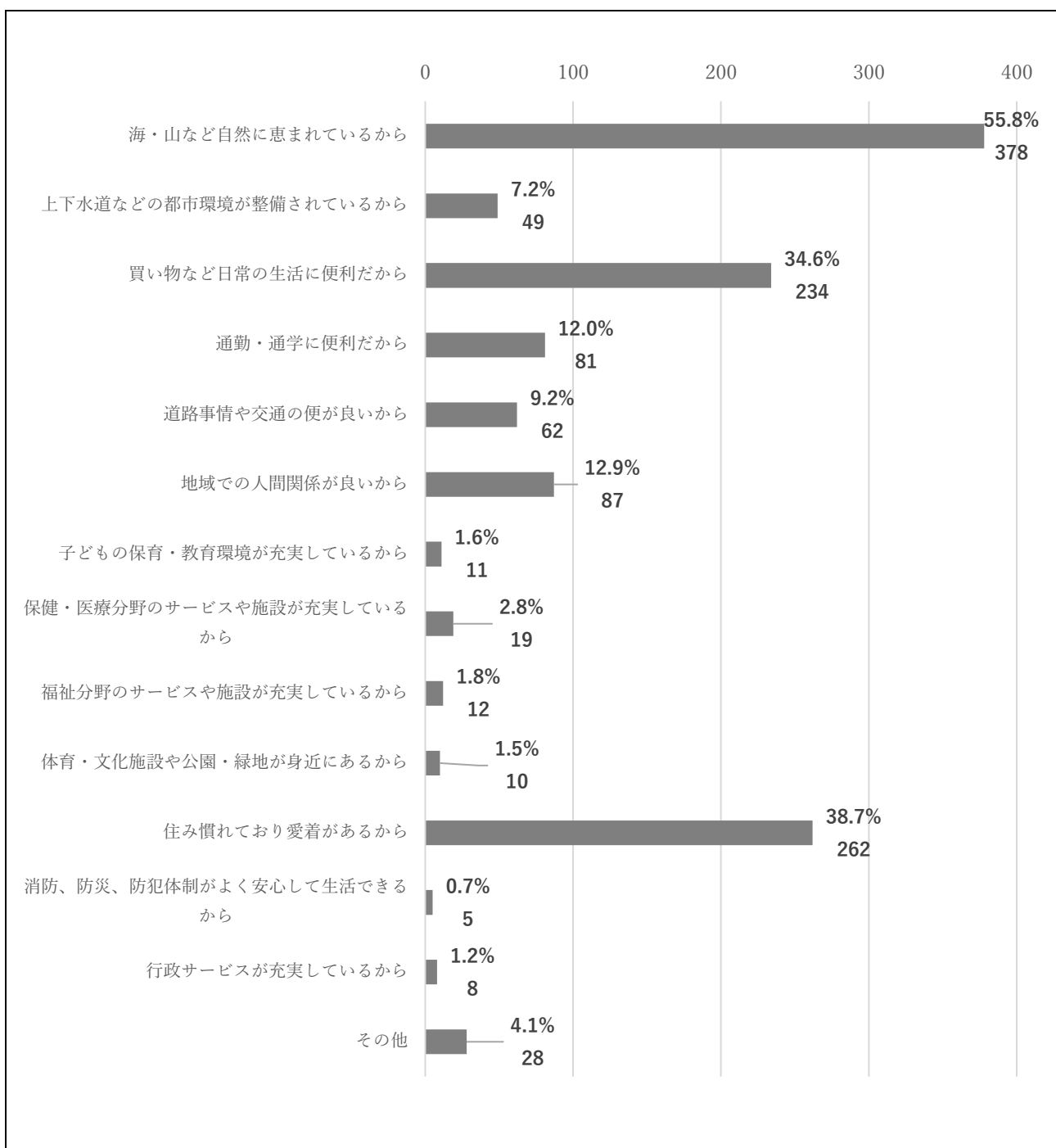
### 【居住地区別】



## 問4 住み続けたいと回答された主な理由は何ですか (2つまで○)

### 【全体の傾向】

・「海・山など自然に恵まれているから」と回答した割合が55.8%で最も割合が高く、次いで「住み慣れており愛着があるから」と回答した割合が38.7%、「買い物など日常の生活に便利だから」と回答した割合が34.6%となっている。





【属性別の傾向】

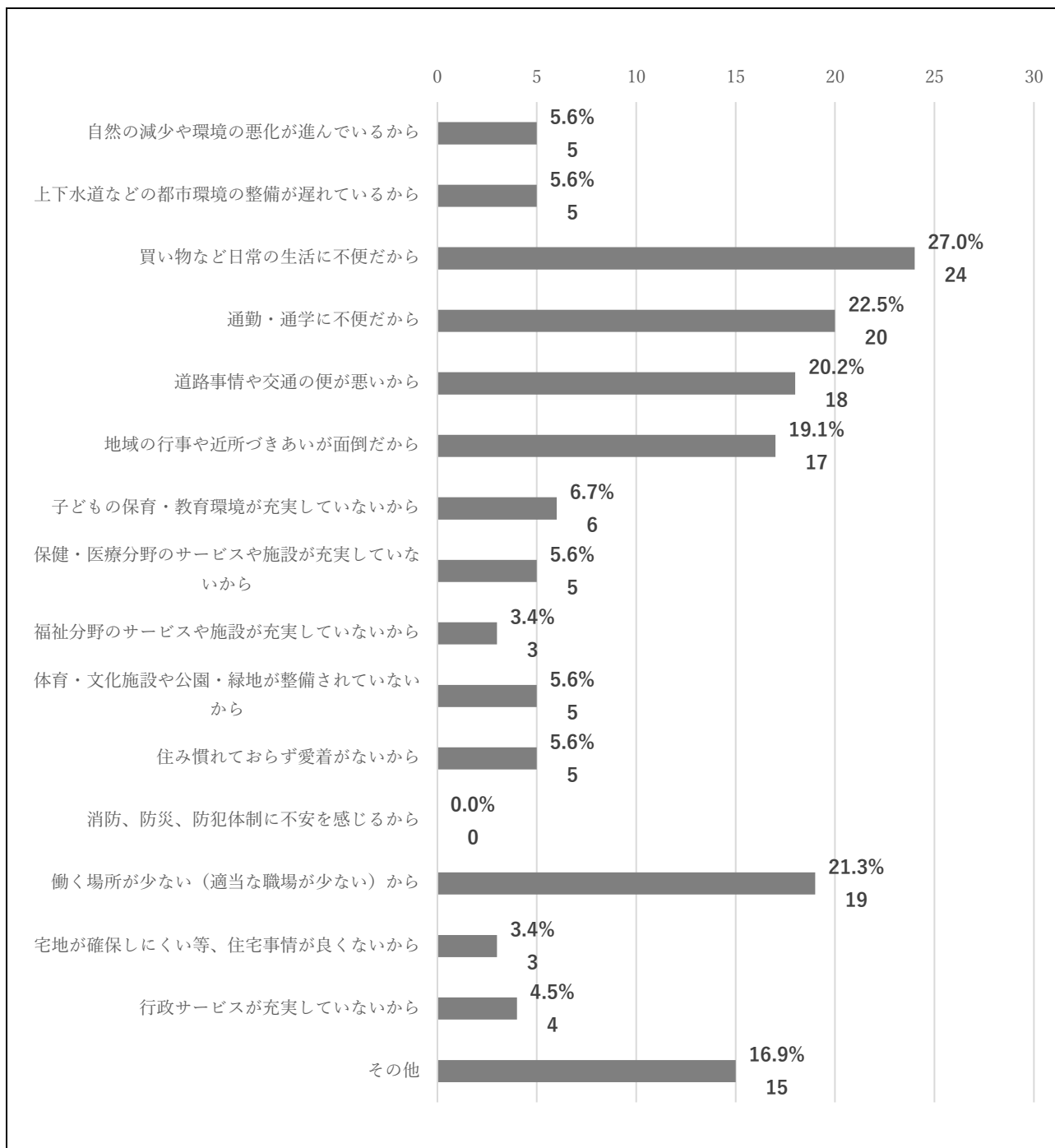
- ・年齢別でみると、30～39歳、40～49歳、50～59歳、60～69歳、70歳以上が「海・山など自然に恵まれているから」と回答した割合が最も高い一方で、18・19歳は、「住み慣れており愛着があるから」が77.8%、20～29歳が「買い物など日常の生活に便利だから」が46.8%で最も高い回答割合となっている。
- ・居住地区別でみると、全ての地区で「海・山など自然に恵まれているから」と回答した割合が最も高く、5割を超える回答割合となっている。

		1位		2位		3位	
全体		海・山など自然に恵まれているから	55.8%	住み慣れており愛着があるから	38.7%	買い物など日常の生活に便利だから	34.6%
年齢別	18・19歳	住み慣れており愛着があるから	77.8%	海・山など自然に恵まれているから	44.4%	買い物など日常の生活に便利だから	11.1%
	20～29歳	買い物など日常の生活に便利だから	46.8%	海・山など自然に恵まれているから	40.4%	住み慣れており愛着があるから	36.2%
	30～39歳	海・山など自然に恵まれているから	50.0%	買い物など日常の生活に便利だから	39.4%	通勤・通学に便利だから	27.7%
	40～49歳	海・山など自然に恵まれているから	45.9%	買い物など日常の生活に便利だから	36.7%	住み慣れており愛着があるから	31.6%
	50～59歳	海・山など自然に恵まれているから	57.7%	住み慣れており愛着があるから	39.4%	買い物など日常の生活に便利だから	36.5%
	60～69歳	海・山など自然に恵まれているから	68.9%	住み慣れており愛着があるから	43.5%	買い物など日常の生活に便利だから	30.5%
	70歳以上	海・山など自然に恵まれているから	54.7%	住み慣れており愛着があるから	44.6%	買い物など日常の生活に便利だから	31.1%
居住地区別	南端地区	海・山など自然に恵まれているから	60.0%	住み慣れており愛着があるから	46.7%	地域での人間関係が良いから	26.7%
	豊岡地区	海・山など自然に恵まれているから	60.7%	住み慣れており愛着があるから	36.8%	買い物など日常の生活に便利だから	32.5%
	日出地区	海・山など自然に恵まれているから	52.8%	買い物など日常の生活に便利だから	52.2%	住み慣れており愛着があるから	33.5%
	藤原地区	海・山など自然に恵まれているから	55.3%	住み慣れており愛着があるから	34.1%	買い物など日常の生活に便利だから	31.8%
	川崎地区	海・山など自然に恵まれているから	54.6%	買い物など日常の生活に便利だから	37.7%	住み慣れており愛着があるから	36.2%
	大神地区	海・山など自然に恵まれているから	55.4%	住み慣れており愛着があるから	52.1%	地域での人間関係が良いから	25.6%

## 問5 転出したいと回答された主な理由は何ですか（2つまで○）

### 【全体の傾向】

・「買い物など日常の生活に不便だから」と回答した割合が27.0%で最も高く、次いで「通勤・通学に不便だから」と回答した割合が22.5%、「働く場所が少ない（適当な職場が少ない）から」と回答した割合が21.3%となっている。



【属性別の傾向】

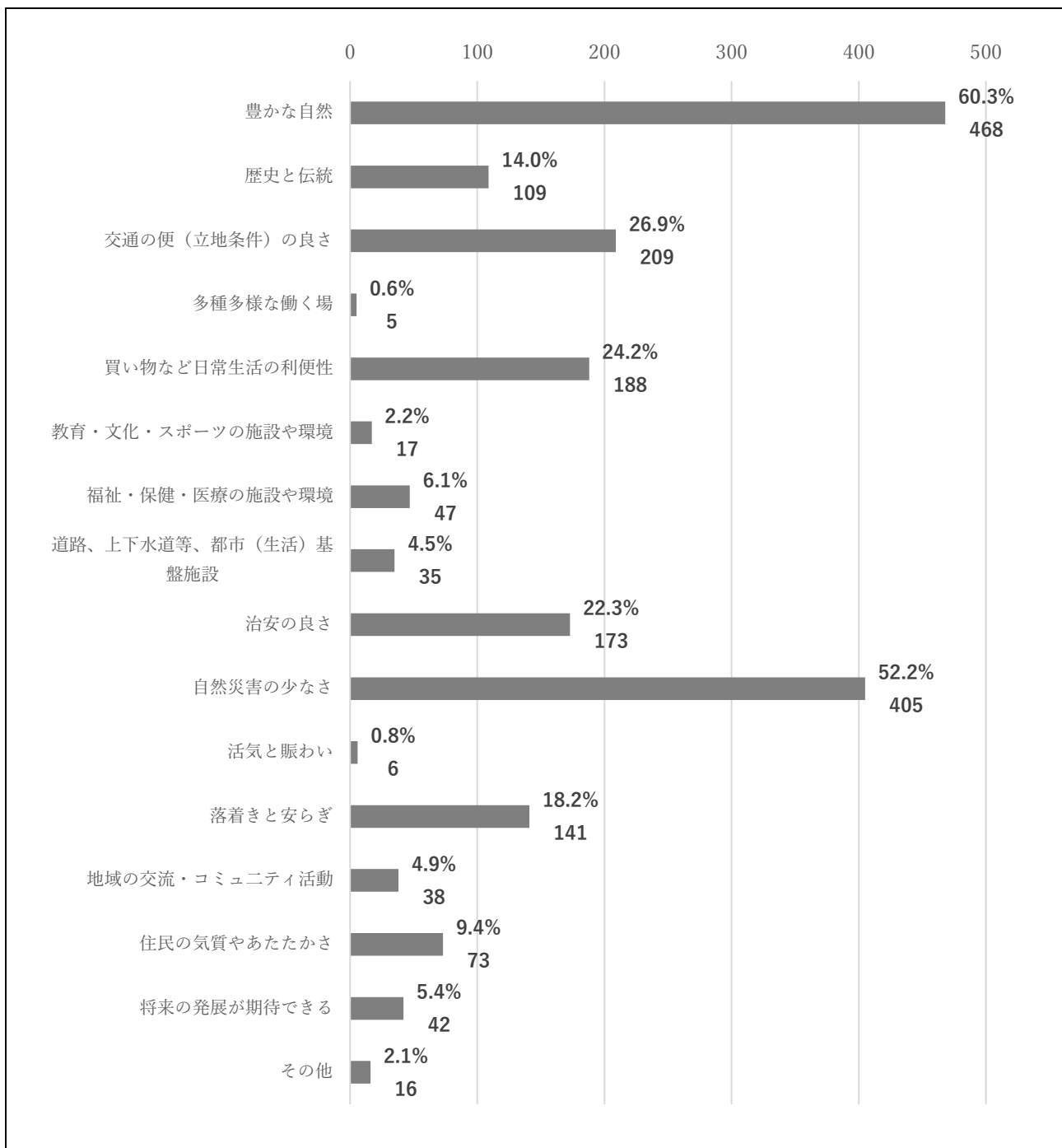
- ・年齢別で見ると、18・19歳及び20～29歳が「通勤・通学に不便だから」と回答した割合が最も高い一方で、30～39歳、40～49歳、60～69歳は、「買い物など日常の生活に不便だから」と回答した割合が最も高くなっている。
- ・居住地区別で見ると、南端地区と豊岡地区が「買い物など日常の生活に不便だから」と回答した割合が最も高くなっている。

		1位		2位		3位	
全体		買い物など日常の生活に不便だから	27.0%	通勤・通学に不便だから	22.5%	働く場所が少ない（適当な職場が少ない）から	21.3%
年齢別	18・19歳	通勤・通学に不便だから	100.0%	働く場所が少ない（適当な職場が少ない）から	33.3%		
	20～29歳	通勤・通学に不便だから	52.6%	買い物など日常の生活に不便だから	42.1%	働く場所が少ない（適当な職場が少ない）から	36.8%
	30～39歳	買い物など日常の生活に不便だから	25.0%	道路事情や交通の便が悪いから	25.0%	その他	25.0%
	40～49歳	買い物など日常の生活に不便だから	31.3%	通勤・通学に不便だから	25.0%	子どもの保育・教育環境が充実していないから	25.0%
	50～59歳	地域の行事や近所づきあいが面倒だから	37.5%	働く場所が少ない（適当な職場が少ない）から	31.3%	その他	25.0%
	60～69歳	買い物など日常の生活に不便だから	33.3%	地域の行事や近所づきあいが面倒だから	33.3%	道路事情や交通の便が悪いから	26.7%
	70歳以上	上下水道などの都市環境の整備が遅れているから	25.0%	買い物など日常の生活に不便だから	25.0%	道路事情や交通の便が悪いから	25.0%
居住地区別	南端地区	買い物など日常の生活に不便だから	66.7%	上下水道などの都市環境の整備が遅れているから	33.3%	体育・文化施設や公園・緑地が整備されていないから	33.3%
	豊岡地区	買い物など日常の生活に不便だから	36.8%	通勤・通学に不便だから	36.8%	道路事情や交通の便が悪いから	36.8%
	日出地区	その他	33.3%	買い物など日常の生活に不便だから	22.2%	働く場所が少ない（適当な職場が少ない）から	22.2%
	藤原地区	働く場所が少ない（適当な職場が少ない）から	31.3%	通勤・通学に不便だから	25.0%	買い物など日常の生活に不便だから	18.8%
	川崎地区	地域の行事や近所づきあいが面倒だから	40.0%	買い物など日常の生活に不便だから	20.0%	道路事情や交通の便が悪いから	20.0%
	大神地区	道路事情や交通の便が悪いから	31.3%	その他	31.3%	買い物など日常の生活に不便だから	25.0%

## 問6 日出町が他に誇れる、地域の資源・強みは何だと思いますか (3つまで○)

### 【全体の傾向】

・「豊かな自然」と回答した割合が60.3%で最も高く、次いで「自然災害の少なさ」と回答した割合が52.2%、「交通の便（立地条件）の良さ」と回答した割合が26.9%となっている。



【属性別の傾向】

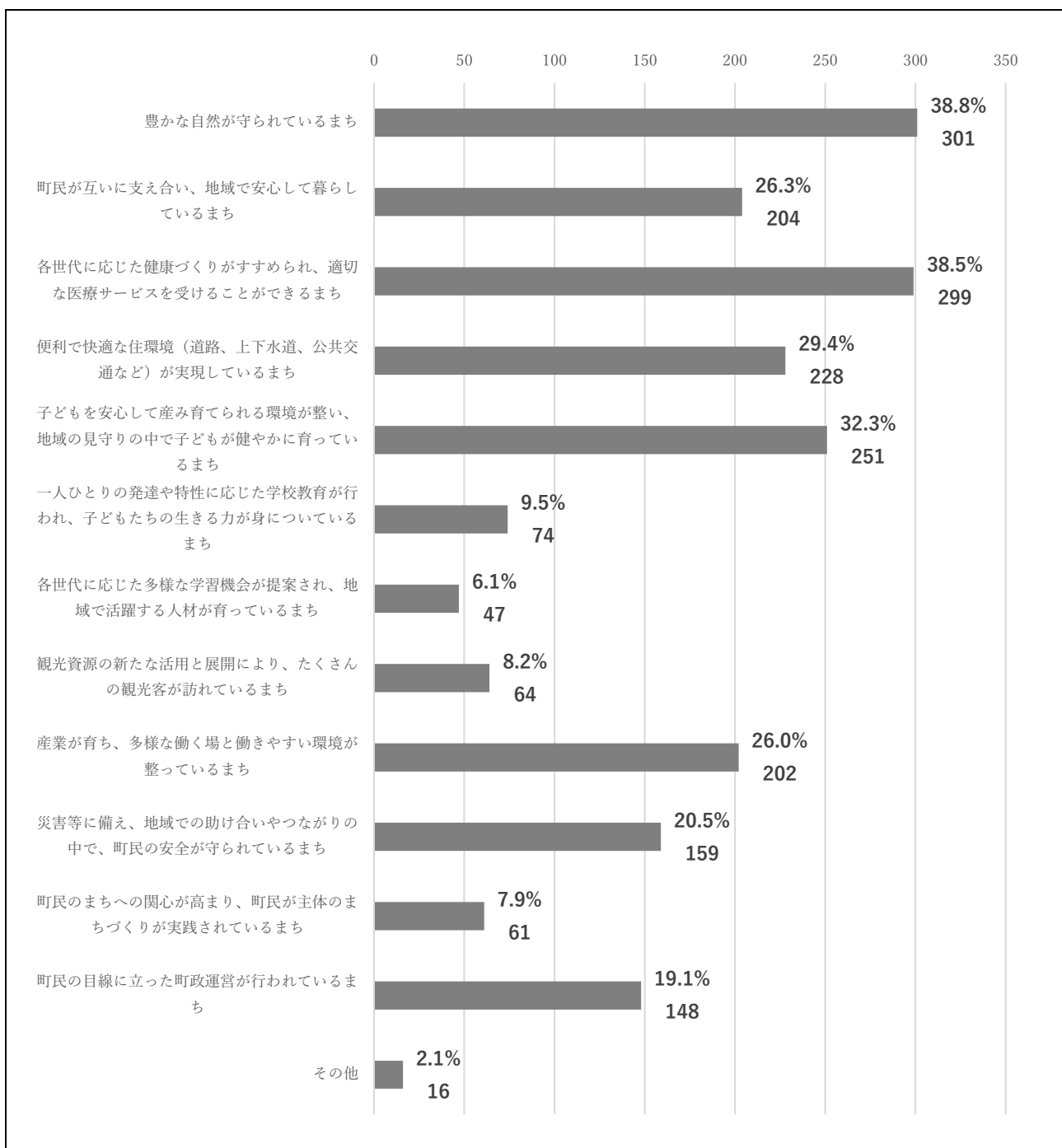
- ・年齢別で見ると、70歳以上を除く年代が「豊かな自然」と回答した割合が最も高い一方で、70歳以上では、「自然災害の少なさ」と回答した割合が67.1%で最も高くなっている。
- ・居住地区別で見ると、大神地区を除く地区が「豊かな自然」と回答した割合が最も高い一方で、大神地区では、「自然災害の少なさ」と回答した割合が62.6%で最も高くなっている。

		1位		2位		3位	
全体		豊かな自然	60.3%	自然災害の少なさ	52.2%	交通の便（立地条件）の良さ	26.9%
年齢別	18・19歳	豊かな自然	61.5%	治安の良さ	46.2%	自然災害の少なさ	38.5%
	20～29歳	豊かな自然	59.1%	落ち着きと安らぎ	37.9%	治安の良さ	34.8%
	30～39歳	豊かな自然	50.5%	自然災害の少なさ	43.0%	治安の良さ	26.2%
	40～49歳	豊かな自然	54.3%	自然災害の少なさ	43.1%	交通の便（立地条件）の良さ	30.2%
	50～59歳	豊かな自然	58.3%	自然災害の少なさ	52.5%	交通の便（立地条件）の良さ	32.5%
	60～69歳	豊かな自然	68.4%	自然災害の少なさ	60.7%	交通の便（立地条件）の良さ	25.0%
	70歳以上	自然災害の少なさ	67.1%	豊かな自然	63.3%	買い物など日常生活の利便性	27.8%
居住地区別	南端地区	豊かな自然	66.7%	落ち着きと安らぎ	38.9%	治安の良さ	33.3%
	豊岡地区	豊かな自然	65.9%	自然災害の少なさ	46.7%	買い物など日常生活の利便性	24.2%
	日出地区	豊かな自然	56.4%	自然災害の少なさ	47.5%	交通の便（立地条件）の良さ	38.5%
	藤原地区	豊かな自然	57.8%	自然災害の少なさ	54.9%	交通の便（立地条件）の良さ	29.4%
	川崎地区	豊かな自然	58.7%	自然災害の少なさ	56.0%	交通の便（立地条件）の良さ	29.3%
	大神地区	自然災害の少なさ	62.6%	豊かな自然	61.2%	治安の良さ	24.5%

## 問7 あなたは、今後の日出町のまちづくりを進めていくにあたって、「目指すべき将来像」として、特に重要だと思うのは次のうちどれですか。（3つまで○）

### 【全体の傾向】

・「豊かな自然が守られているまち」と回答した割合が38.8%で最も高く、次いで「各世代に応じた健康づくりがすすめられ、適切な医療サービスを受けることができるまち」と回答した割合が38.5%、「子どもを安心して産み育てられる環境が整い、地域の見守りの中で子どもが健やかに育っているまち」と回答した割合が32.3%となっている。



【属性別の傾向】

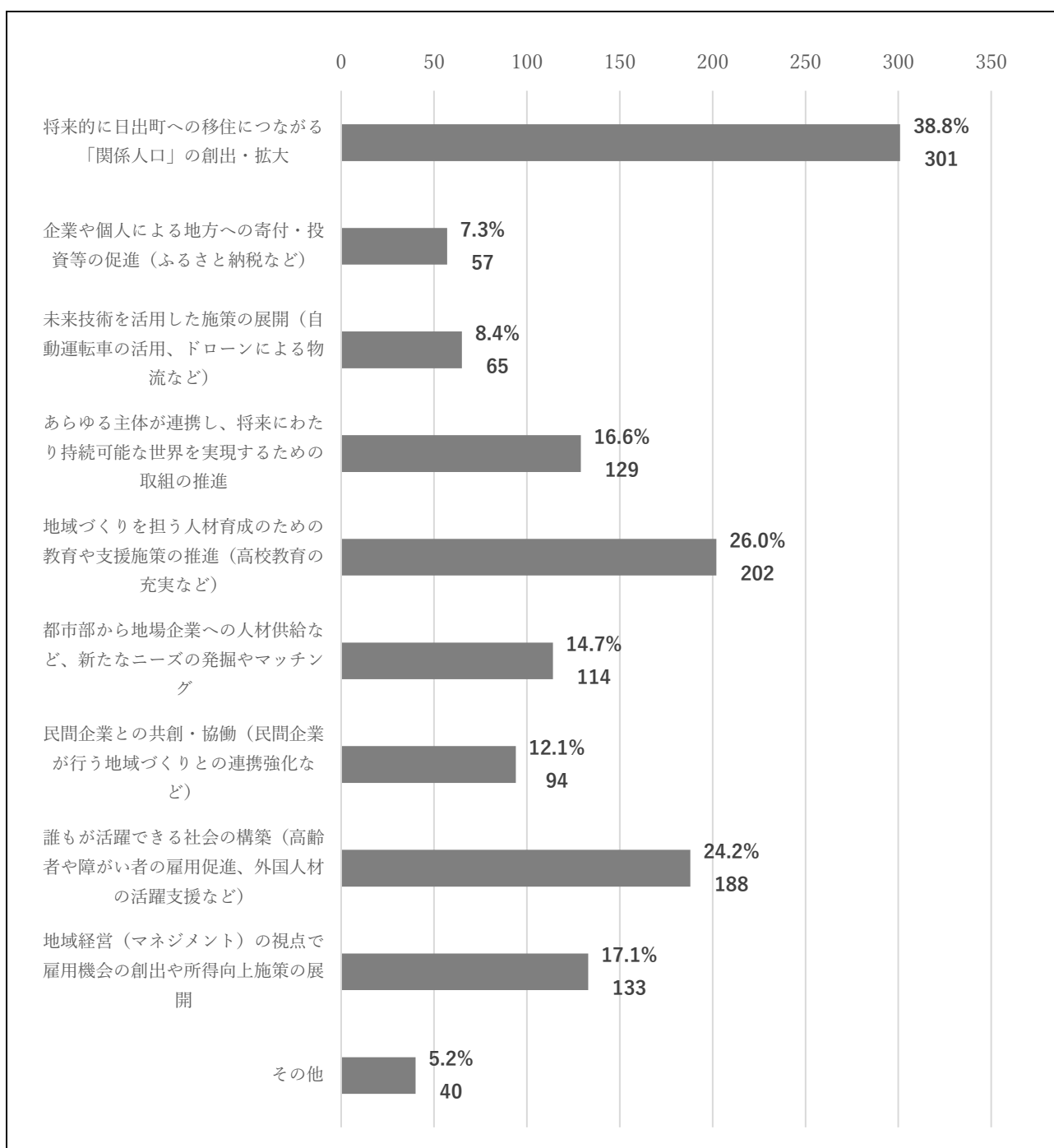
- ・年齢別でみると、20～29歳、30～39歳、40～49歳が「子どもを安心して産み育てられる環境が整い、地域の見守りの中で子どもが健やかに育っているまち」と回答した割合が最も高い。
- ・居住地区別でみると、豊岡地区、日出地区、藤原地区が「各世代に応じた健康づくりがすすめられ、適切な医療サービスを受けることができるまち」と回答した割合が最も高くなっている。

		1位		2位		3位	
全体		豊かな自然が守られているまち	38.8%	各世代に応じた健康づくりがすすめられ、適切な医療サービスを受けることができるまち	38.5%	子どもを安心して産み育てられる環境が整い、地域の見守りの中で子どもが健やかに育っているまち	32.3%
年齢別	18・19歳	豊かな自然が守られているまち	38.5%	町民が互いに支え合い、地域で安心して暮らしているまち	23.1%	各世代に応じた健康づくりがすすめられ、適切な医療サービスを受けることができるまち	23.1%
	20～29歳	子どもを安心して産み育てられる環境が整い、地域の見守りの中で子どもが健やかに育っているまち	59.1%	豊かな自然が守られているまち	42.4%	便利で快適な住環境（道路、上下水道、公共交通など）が実現しているまち	34.8%
	30～39歳	子どもを安心して産み育てられる環境が整い、地域の見守りの中で子どもが健やかに育っているまち	55.1%	豊かな自然が守られているまち	29.0%	各世代に応じた健康づくりがすすめられ、適切な医療サービスを受けることができるまち	29.0%
	40～49歳	子どもを安心して産み育てられる環境が整い、地域の見守りの中で子どもが健やかに育っているまち	36.2%	各世代に応じた健康づくりがすすめられ、適切な医療サービスを受けることができるまち	33.6%	便利で快適な住環境（道路、上下水道、公共交通など）が実現しているまち	27.6%
	50～59歳	各世代に応じた健康づくりがすすめられ、適切な医療サービスを受けることができるまち	44.2%	便利で快適な住環境（道路、上下水道、公共交通など）が実現しているまち	35.0%	豊かな自然が守られているまち	33.3%
	60～69歳	豊かな自然が守られているまち	43.4%	各世代に応じた健康づくりがすすめられ、適切な医療サービスを受けることができるまち	40.8%	便利で快適な住環境（道路、上下水道、公共交通など）が実現しているまち	30.6%
	70歳以上	豊かな自然が守られているまち	51.9%	各世代に応じた健康づくりがすすめられ、適切な医療サービスを受けることができるまち	48.1%	町民が互いに支え合い、地域で安心して暮らしているまち	34.2%
居住地区別	南端地区	豊かな自然が守られているまち	50.0%	各世代に応じた健康づくりがすすめられ、適切な医療サービスを受けることができるまち	38.9%	町民が互いに支え合い、地域で安心して暮らしているまち	27.8%
	豊岡地区	各世代に応じた健康づくりがすすめられ、適切な医療サービスを受けることができるまち	41.8%	豊かな自然が守られているまち	38.5%	便利で快適な住環境（道路、上下水道、公共交通など）が実現しているまち	30.2%
	日出地区	各世代に応じた健康づくりがすすめられ、適切な医療サービスを受けることができるまち	48.0%	豊かな自然が守られているまち	39.7%	子どもを安心して産み育てられる環境が整い、地域の見守りの中で子どもが健やかに育っているまち	34.6%
	藤原地区	各世代に応じた健康づくりがすすめられ、適切な医療サービスを受けることができるまち	37.3%	産業が育ち、多様な働く場と働きやすい環境が整っているまち	36.3%	子どもを安心して産み育てられる環境が整い、地域の見守りの中で子どもが健やかに育っているまち	35.3%
	川崎地区	子どもを安心して産み育てられる環境が整い、地域の見守りの中で子どもが健やかに育っているまち	40.0%	豊かな自然が守られているまち	37.3%	町民が互いに支え合い、地域で安心して暮らしているまち	30.0%
	大神地区	豊かな自然が守られているまち	43.9%	各世代に応じた健康づくりがすすめられ、適切な医療サービスを受けることができるまち	38.8%	産業が育ち、多様な働く場と働きやすい環境が整っているまち	31.7%

## 問8 従来の施策に加え、町が新たに力を入れて取り組むべき施策は何だと思いますか（2つまで○）

### 【全体の傾向】

・「将来的に日出町への移住につながる「関係人口」の創出・拡大」と回答した割合が38.8%で最も高く、次いで「地域づくりを担う人材育成のための教育や支援施策の推進（高校教育の充実など）」と回答した割合が26.0%、「誰もが活躍できる社会の構築（高齢者や障がい者の雇用促進、外国人材の活躍支援など）」と回答した割合が24.2%となっている。





【属性別の傾向】

- ・年齢別でみると、全体と同様の項目が上位に上げられており、その中で70歳以上が「将来的に日出町への移住につながる「関係人口」の創出・拡大」と回答した割合が最も高い50.6%となっている。
- ・居住地区別でみると、南端地区を除く地区が「将来的に日出町への移住につながる「関係人口」の創出・拡大」と回答した割合が最も高い一方で、南端地区では、「地域づくりを担う人材育成のための教育や支援施策の推進（高校教育の充実など）」と回答した割合が38.9%で最も高い割合となっている。

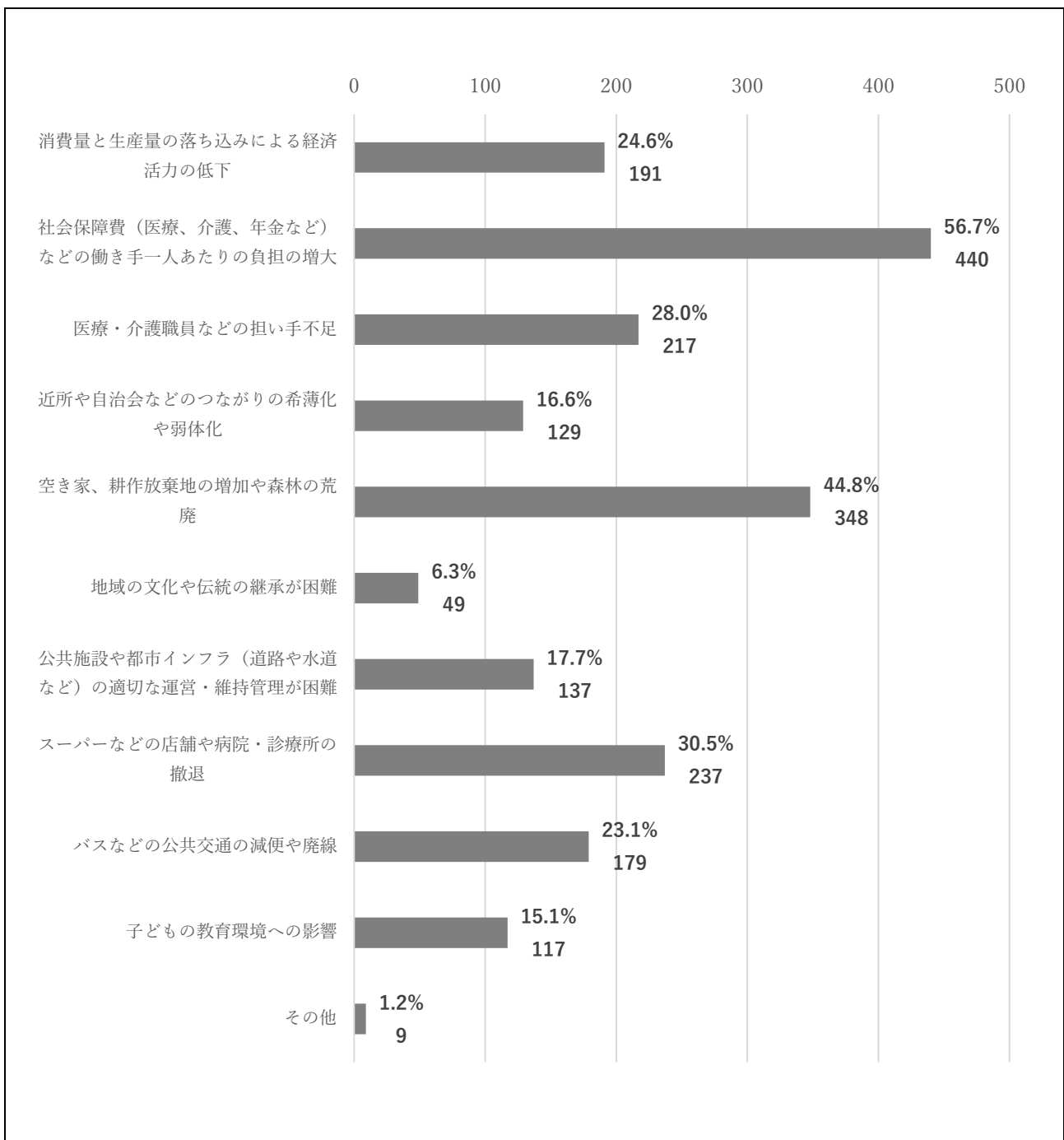
		1位		2位		3位	
全体		将来的に日出町への移住につながる「関係人口」の創出・拡大	38.8%	地域づくりを担う人材育成のための教育や支援施策の推進（高校教育の充実など）	26.0%	誰もが活躍できる社会の構築（高齢者や障がい者の雇用促進、外国人材の活躍支援など）	24.2%
年齢別	18・19歳	誰もが活躍できる社会の構築（高齢者や障がい者の雇用促進、外国人材の活躍支援など）	30.8%	都市部から地場企業への人材供給など、新たなニーズの発掘やマッチング	23.1%	将来的に日出町への移住につながる「関係人口」の創出・拡大	23.1%
	20～29歳	地域づくりを担う人材育成のための教育や支援施策の推進（高校教育の充実など）	33.3%	将来的に日出町への移住につながる「関係人口」の創出・拡大	30.3%	誰もが活躍できる社会の構築（高齢者や障がい者の雇用促進、外国人材の活躍支援など）	22.7%
	30～39歳	将来的に日出町への移住につながる「関係人口」の創出・拡大	36.4%	地域づくりを担う人材育成のための教育や支援施策の推進（高校教育の充実など）	25.2%	誰もが活躍できる社会の構築（高齢者や障がい者の雇用促進、外国人材の活躍支援など）	19.6%
	40～49歳	地域づくりを担う人材育成のための教育や支援施策の推進（高校教育の充実など）	32.8%	誰もが活躍できる社会の構築（高齢者や障がい者の雇用促進、外国人材の活躍支援など）	25.0%	将来的に日出町への移住につながる「関係人口」の創出・拡大	23.3%
	50～59歳	将来的に日出町への移住につながる「関係人口」の創出・拡大	40.0%	誰もが活躍できる社会の構築（高齢者や障がい者の雇用促進、外国人材の活躍支援など）	25.0%	地域づくりを担う人材育成のための教育や支援施策の推進（高校教育の充実など）	20.0%
	60～69歳	将来的に日出町への移住につながる「関係人口」の創出・拡大	42.9%	地域づくりを担う人材育成のための教育や支援施策の推進（高校教育の充実など）	25.0%	誰もが活躍できる社会の構築（高齢者や障がい者の雇用促進、外国人材の活躍支援など）	24.5%
	70歳以上	将来的に日出町への移住につながる「関係人口」の創出・拡大	50.6%	誰もが活躍できる社会の構築（高齢者や障がい者の雇用促進、外国人材の活躍支援など）	25.9%	地域づくりを担う人材育成のための教育や支援施策の推進（高校教育の充実など）	25.3%
居住地区別	南端地区	地域づくりを担う人材育成のための教育や支援施策の推進（高校教育の充実など）	38.9%	将来的に日出町への移住につながる「関係人口」の創出・拡大	33.3%	民間企業との共創・協働（民間企業が行う地域づくりとの連携強化など）	22.2%
	豊岡地区	将来的に日出町への移住につながる「関係人口」の創出・拡大	44.5%	誰もが活躍できる社会の構築（高齢者や障がい者の雇用促進、外国人材の活躍支援など）	24.7%	地域づくりを担う人材育成のための教育や支援施策の推進（高校教育の充実など）	21.4%
	日出地区	将来的に日出町への移住につながる「関係人口」の創出・拡大	38.5%	地域づくりを担う人材育成のための教育や支援施策の推進（高校教育の充実など）	29.1%	誰もが活躍できる社会の構築（高齢者や障がい者の雇用促進、外国人材の活躍支援など）	23.5%
	藤原地区	将来的に日出町への移住につながる「関係人口」の創出・拡大	31.4%	地域づくりを担う人材育成のための教育や支援施策の推進（高校教育の充実など）	29.4%	誰もが活躍できる社会の構築（高齢者や障がい者の雇用促進、外国人材の活躍支援など）	28.4%
	川崎地区	将来的に日出町への移住につながる「関係人口」の創出・拡大	32.7%	地域づくりを担う人材育成のための教育や支援施策の推進（高校教育の充実など）	24.7%	誰もが活躍できる社会の構築（高齢者や障がい者の雇用促進、外国人材の活躍支援など）	22.0%
	大神地区	将来的に日出町への移住につながる「関係人口」の創出・拡大	45.3%	地域づくりを担う人材育成のための教育や支援施策の推進（高校教育の充実など）	26.6%	誰もが活躍できる社会の構築（高齢者や障がい者の雇用促進、外国人材の活躍支援など）	25.9%

## 【個別の施策分野について】

**問9 町の人口は、平成24年をピークに減少傾向が続いていますが、今後もこうした傾向が続いた場合、将来に向けて気になることはどれですか。（3つまで○）**

### 【全体の傾向】

・「社会保障費（医療、介護、年金など）などの働き手一人あたりの負担の増大」と回答した割合が56.7%で最も高く、次いで「空き家、耕作放棄地の増加や森林の荒廃」と回答した割合が44.8%、「スーパーなどの店舗や病院・診療所の撤退」と回答した割合が30.5%となっている。



【属性別の傾向】

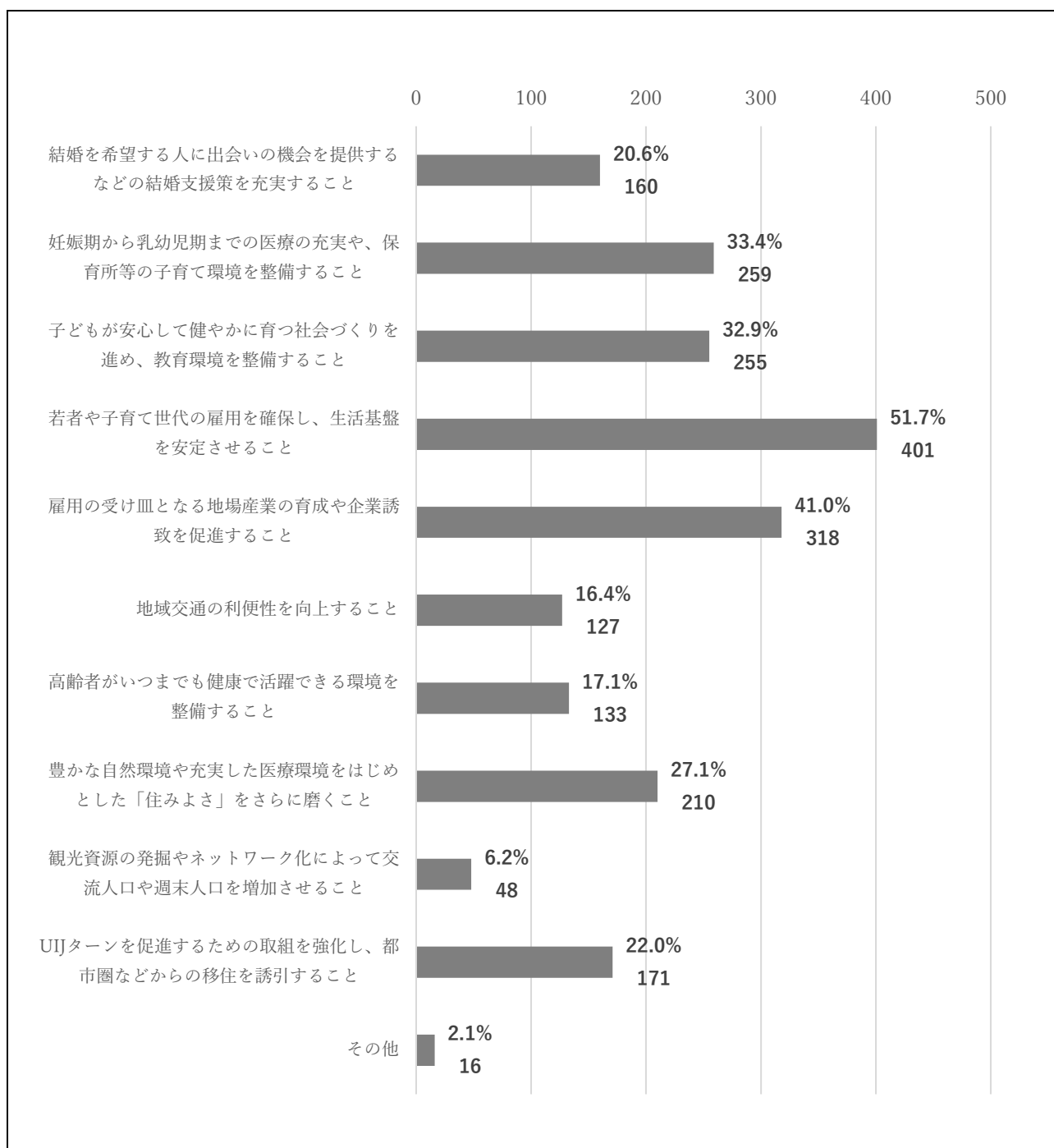
- ・年齢別でみると、全体と同様の項目が上位に上げられており、その中で50～59歳及び60～69歳が「社会保障費（医療、介護、年金など）などの働き手一人あたりの負担の増大」と回答した割合が6割を超える結果となっている。
- ・居住地区別でみると、大神地区を除く地区が「社会保障費（医療、介護、年金など）などの働き手一人あたりの負担の増大」と回答した割合が最も高い一方で、大神地区では、「空き家、耕作放棄地の増加や森林の荒廃」と回答した割合が56.1%で最も高くなっている

		1位		2位		3位	
全体		社会保障費（医療、介護、年金など）などの働き手一人あたりの負担の増大	56.7%	空き家、耕作放棄地の増加や森林の荒廃	44.8%	スーパーなどの店舗や病院・診療所の撤退	30.5%
年齢別	18・19歳	医療・介護職員などの担い手不足	46.2%	社会保障費（医療、介護、年金など）などの働き手一人あたりの負担の増大	38.5%	空き家、耕作放棄地の増加や森林の荒廃	30.8%
	20～29歳	社会保障費（医療、介護、年金など）などの働き手一人あたりの負担の増大	59.1%	消費量と生産量の落ち込みによる経済活力の低下	33.3%	スーパーなどの店舗や病院・診療所の撤退	28.8%
	30～39歳	社会保障費（医療、介護、年金など）などの働き手一人あたりの負担の増大	56.1%	スーパーなどの店舗や病院・診療所の撤退	50.5%	空き家、耕作放棄地の増加や森林の荒廃	34.6%
	40～49歳	社会保障費（医療、介護、年金など）などの働き手一人あたりの負担の増大	57.8%	空き家、耕作放棄地の増加や森林の荒廃	37.1%	スーパーなどの店舗や病院・診療所の撤退	36.2%
	50～59歳	社会保障費（医療、介護、年金など）などの働き手一人あたりの負担の増大	60.0%	空き家、耕作放棄地の増加や森林の荒廃	47.5%	スーパーなどの店舗や病院・診療所の撤退	32.5%
	60～69歳	社会保障費（医療、介護、年金など）などの働き手一人あたりの負担の増大	60.2%	空き家、耕作放棄地の増加や森林の荒廃	49.0%	スーパーなどの店舗や病院・診療所の撤退	26.5%
	70歳以上	空き家、耕作放棄地の増加や森林の荒廃	60.1%	社会保障費（医療、介護、年金など）などの働き手一人あたりの負担の増大	50.0%	医療・介護職員などの担い手不足	31.0%
居住地区別	南端地区	社会保障費（医療、介護、年金など）などの働き手一人あたりの負担の増大	72.2%	空き家、耕作放棄地の増加や森林の荒廃	33.3%	消費量と生産量の落ち込みによる経済活力の低下	27.8%
	豊岡地区	社会保障費（医療、介護、年金など）などの働き手一人あたりの負担の増大	63.7%	空き家、耕作放棄地の増加や森林の荒廃	35.7%	スーパーなどの店舗や病院・診療所の撤退	31.9%
	日出地区	社会保障費（医療、介護、年金など）などの働き手一人あたりの負担の増大	60.3%	空き家、耕作放棄地の増加や森林の荒廃	47.5%	スーパーなどの店舗や病院・診療所の撤退	28.5%
	藤原地区	社会保障費（医療、介護、年金など）などの働き手一人あたりの負担の増大	50.0%	空き家、耕作放棄地の増加や森林の荒廃	48.0%	医療・介護職員などの担い手不足	32.4%
	川崎地区	社会保障費（医療、介護、年金など）などの働き手一人あたりの負担の増大	57.3%	空き家、耕作放棄地の増加や森林の荒廃	42.7%	スーパーなどの店舗や病院・診療所の撤退	35.3%
	大神地区	空き家、耕作放棄地の増加や森林の荒廃	56.1%	社会保障費（医療、介護、年金など）などの働き手一人あたりの負担の増大	46.8%	スーパーなどの店舗や病院・診療所の撤退	28.8%

## 問 10 人口減少に歯止めをかけるために、どのようなことが必要だと思いますか（3つまで○）

### 【全体の傾向】

- ・「若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること」と回答した割合が 51.7%で最も高く、次いで「雇用の受け皿となる地場産業の育成や企業誘致を促進すること」と回答した割合が 41.0%、「妊娠期から乳幼児期までの医療の充実や、保育所等の子育て環境を整備すること」と回答した割合が 33.4%となっている。



【属性別の傾向】

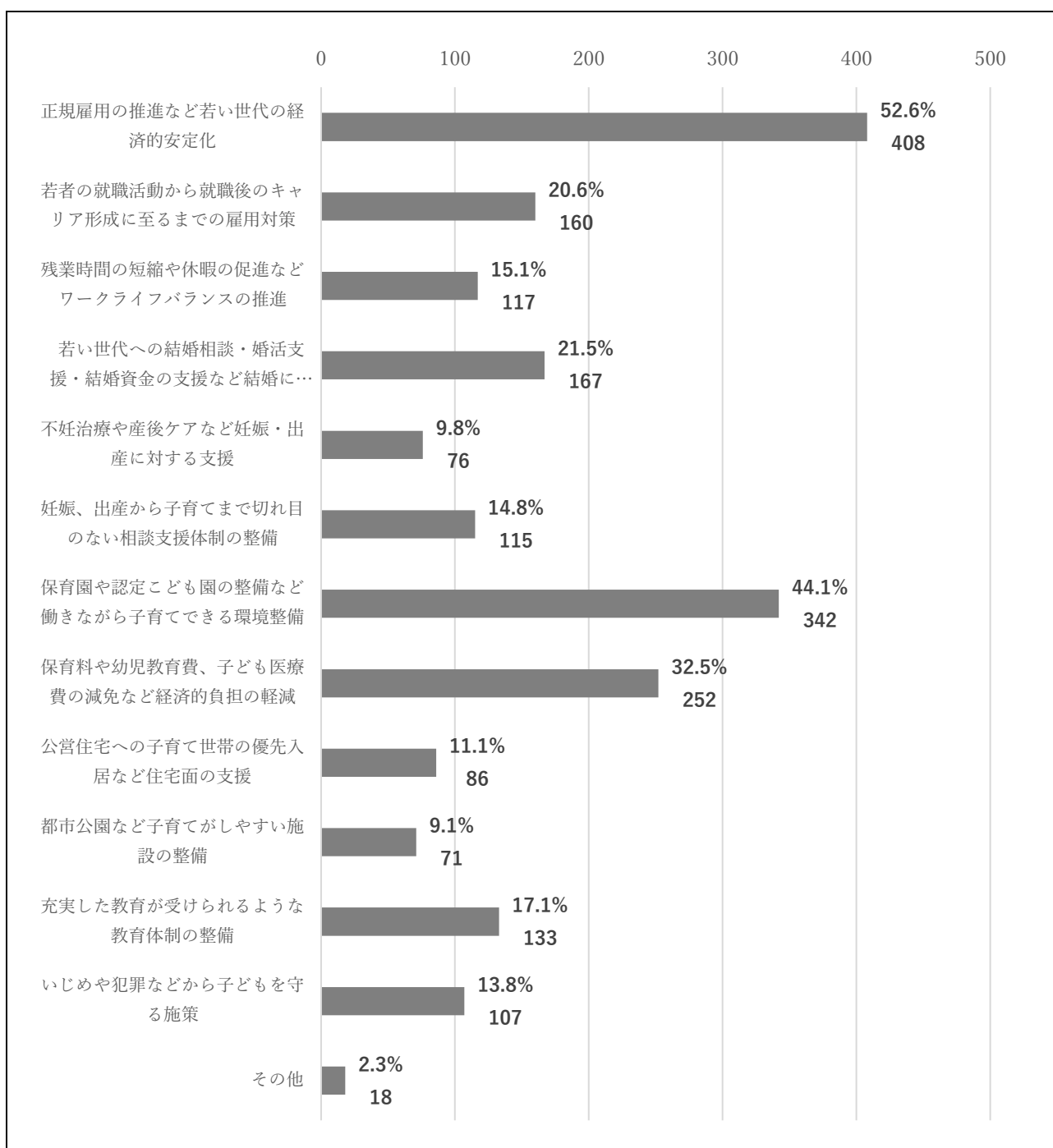
- ・年齢別でみると、20～29歳を除く年代が「若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること」と回答した割合が最も高い一方で、20～29歳では、「妊娠期から乳幼児期までの医療の充実や、保育所等の子育て環境を整備すること」と回答した割合が59.1%で最も高くなっている。
- ・居住地区別でみると、全ての地区で「若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること」と回答した割合が最も高い。

		1位		2位		3位	
全体		若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること	51.7%	雇用の受け皿となる地場産業の育成や企業誘致を促進すること	41.0%	妊娠期から乳幼児期までの医療の充実や、保育所等の子育て環境を整備すること	33.4%
年齢別	18・19歳	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること	53.8%	地域交通の利便性を向上すること	38.5%	子どもが安心して健やかに育つ社会づくりを進め、教育環境を整備すること	30.8%
	20～29歳	妊娠期から乳幼児期までの医療の充実や、保育所等の子育て環境を整備すること	59.1%	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること	53.0%	子どもが安心して健やかに育つ社会づくりを進め、教育環境を整備すること	42.4%
	30～39歳	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること	49.5%	妊娠期から乳幼児期までの医療の充実や、保育所等の子育て環境を整備すること	47.7%	子どもが安心して健やかに育つ社会づくりを進め、教育環境を整備すること	44.9%
	40～49歳	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること	57.8%	雇用の受け皿となる地場産業の育成や企業誘致を促進すること	45.7%	子どもが安心して健やかに育つ社会づくりを進め、教育環境を整備すること	37.1%
	50～59歳	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること	51.7%	雇用の受け皿となる地場産業の育成や企業誘致を促進すること	44.2%	妊娠期から乳幼児期までの医療の充実や、保育所等の子育て環境を整備すること	40.8%
	60～69歳	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること	49.0%	雇用の受け皿となる地場産業の育成や企業誘致を促進すること	44.4%	UIJターンを促進するための取組を強化し、都市圏などからの移住を誘引すること	30.1%
	70歳以上	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること	51.3%	雇用の受け皿となる地場産業の育成や企業誘致を促進すること	43.7%	豊かな自然環境や充実した医療環境をはじめとした「住みよさ」をさらに磨くこと	32.3%
居住地区別	南端地区	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること	44.4%	豊かな自然環境や充実した医療環境をはじめとした「住みよさ」をさらに磨くこと	38.9%	雇用の受け皿となる地場産業の育成や企業誘致を促進すること	33.3%
	豊岡地区	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること	50.5%	雇用の受け皿となる地場産業の育成や企業誘致を促進すること	41.8%	妊娠期から乳幼児期までの医療の充実や、保育所等の子育て環境を整備すること	31.9%
	日出地区	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること	57.5%	雇用の受け皿となる地場産業の育成や企業誘致を促進すること	39.7%	子どもが安心して健やかに育つ社会づくりを進め、教育環境を整備すること	35.8%
	藤原地区	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること	49.0%	雇用の受け皿となる地場産業の育成や企業誘致を促進すること	42.2%	妊娠期から乳幼児期までの医療の充実や、保育所等の子育て環境を整備すること	34.3%
	川崎地区	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること	48.7%	雇用の受け皿となる地場産業の育成や企業誘致を促進すること	40.0%	子どもが安心して健やかに育つ社会づくりを進め、教育環境を整備すること	38.0%
	大神地区	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること	52.5%	雇用の受け皿となる地場産業の育成や企業誘致を促進すること	42.4%	妊娠期から乳幼児期までの医療の充実や、保育所等の子育て環境を整備すること	34.5%

## 問 11 町で子どもの数を増やしていくために、どのような支援・対策が有効と思いますか（3つまで○）

### 【全体の傾向】

・「正規雇用の推進など若い世代の経済的安定化」と回答した割合が 52.6%で最も高く、次いで「保育園や認定こども園の整備など働きながら子育てできる環境整備」と回答した割合が 44.1%、「保育料や幼児教育費、子ども医療費の減免など経済的負担の軽減」と回答した割合が 32.5%となっている。



【属性別の傾向】

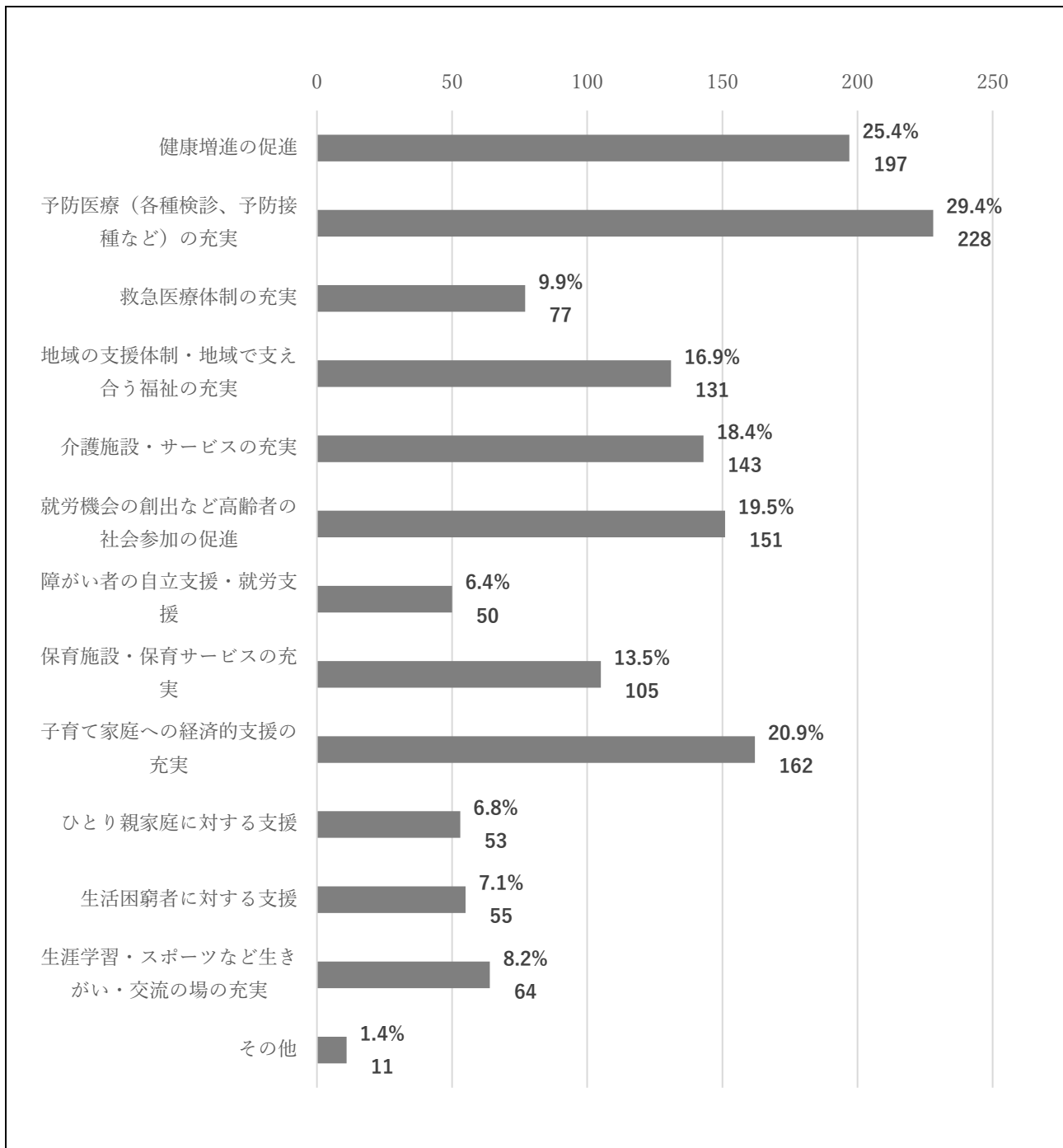
- ・年齢別でみると、18・19歳を除く年代が「正規雇用の推進など若い世代の経済的安定化」と回答した割合が最も高い一方で、18・19歳では、「充実した教育が受けられるような教育体制の整備」と回答した割合が46.2%で最も高くなっている。
- ・居住地区別でみると、全体と同様の項目が上位に上げられており、その中で藤原地区の「正規雇用の推進など若い世代の経済的安定化」が58.8%で最も高い割合となっている。

		1位		2位		3位	
全体		正規雇用の推進など若い世代の経済的安定化	52.6%	保育園や認定こども園の整備など働きながら子育てできる環境整備	44.1%	保育料や幼児教育費、子ども医療費の減免など経済的負担の軽減	32.5%
年齢別	18・19歳	充実した教育が受けられるような教育体制の整備	46.2%	正規雇用の推進など若い世代の経済的安定化	30.8%	若者の就職活動から就職後のキャリア形成に至るまでの雇用対策	30.8%
	20～29歳	正規雇用の推進など若い世代の経済的安定化	50.0%	保育園や認定こども園の整備など働きながら子育てできる環境整備	45.5%	保育料や幼児教育費、子ども医療費の減免など経済的負担の軽減	40.9%
	30～39歳	正規雇用の推進など若い世代の経済的安定化	41.1%	保育園や認定こども園の整備など働きながら子育てできる環境整備	40.2%	保育料や幼児教育費、子ども医療費の減免など経済的負担の軽減	37.4%
	40～49歳	正規雇用の推進など若い世代の経済的安定化	45.7%	保育園や認定こども園の整備など働きながら子育てできる環境整備	45.7%	保育料や幼児教育費、子ども医療費の減免など経済的負担の軽減	34.5%
	50～59歳	正規雇用の推進など若い世代の経済的安定化	47.5%	保育料や幼児教育費、子ども医療費の減免など経済的負担の軽減	45.0%	保育園や認定こども園の整備など働きながら子育てできる環境整備	43.3%
	60～69歳	正規雇用の推進など若い世代の経済的安定化	59.7%	保育園や認定こども園の整備など働きながら子育てできる環境整備	46.9%	保育料や幼児教育費、子ども医療費の減免など経済的負担の軽減	28.1%
	70歳以上	正規雇用の推進など若い世代の経済的安定化	63.3%	保育園や認定こども園の整備など働きながら子育てできる環境整備	43.0%	若い世代への結婚相談・婚活支援・結婚資金の支援など結婚に対する支援	30.4%
居住地区別	南端地区	正規雇用の推進など若い世代の経済的安定化	50.0%	保育園や認定こども園の整備など働きながら子育てできる環境整備	33.3%	保育料や幼児教育費、子ども医療費の減免など経済的負担の軽減	33.3%
	豊岡地区	正規雇用の推進など若い世代の経済的安定化	49.5%	保育園や認定こども園の整備など働きながら子育てできる環境整備	48.9%	保育料や幼児教育費、子ども医療費の減免など経済的負担の軽減	31.3%
	日出地区	正規雇用の推進など若い世代の経済的安定化	53.1%	保育園や認定こども園の整備など働きながら子育てできる環境整備	41.9%	保育料や幼児教育費、子ども医療費の減免など経済的負担の軽減	29.1%
	藤原地区	正規雇用の推進など若い世代の経済的安定化	58.8%	保育園や認定こども園の整備など働きながら子育てできる環境整備	42.2%	保育料や幼児教育費、子ども医療費の減免など経済的負担の軽減	36.3%
	川崎地区	正規雇用の推進など若い世代の経済的安定化	52.7%	保育園や認定こども園の整備など働きながら子育てできる環境整備	47.3%	保育料や幼児教育費、子ども医療費の減免など経済的負担の軽減	30.7%
	大神地区	正規雇用の推進など若い世代の経済的安定化	51.8%	保育園や認定こども園の整備など働きながら子育てできる環境整備	41.0%	保育料や幼児教育費、子ども医療費の減免など経済的負担の軽減	38.8%

**問 12 少子高齢化社会の進展により、社会保障費が年々増大しています。今後限られた財源のなか、保健・福祉分野を充実させるため、どの部分に特に力を注ぐべきと思いますか  
(2つまで○)**

**【全体の傾向】**

・「予防医療（各種検診、予防接種など）の充実」と回答した割合が 29.4%で最も高く、次いで「健康増進の促進」と回答した割合が 25.4%、「子育て家庭への経済的支援の充実」と回答した割合が 20.9%となっている。





【属性別の傾向】

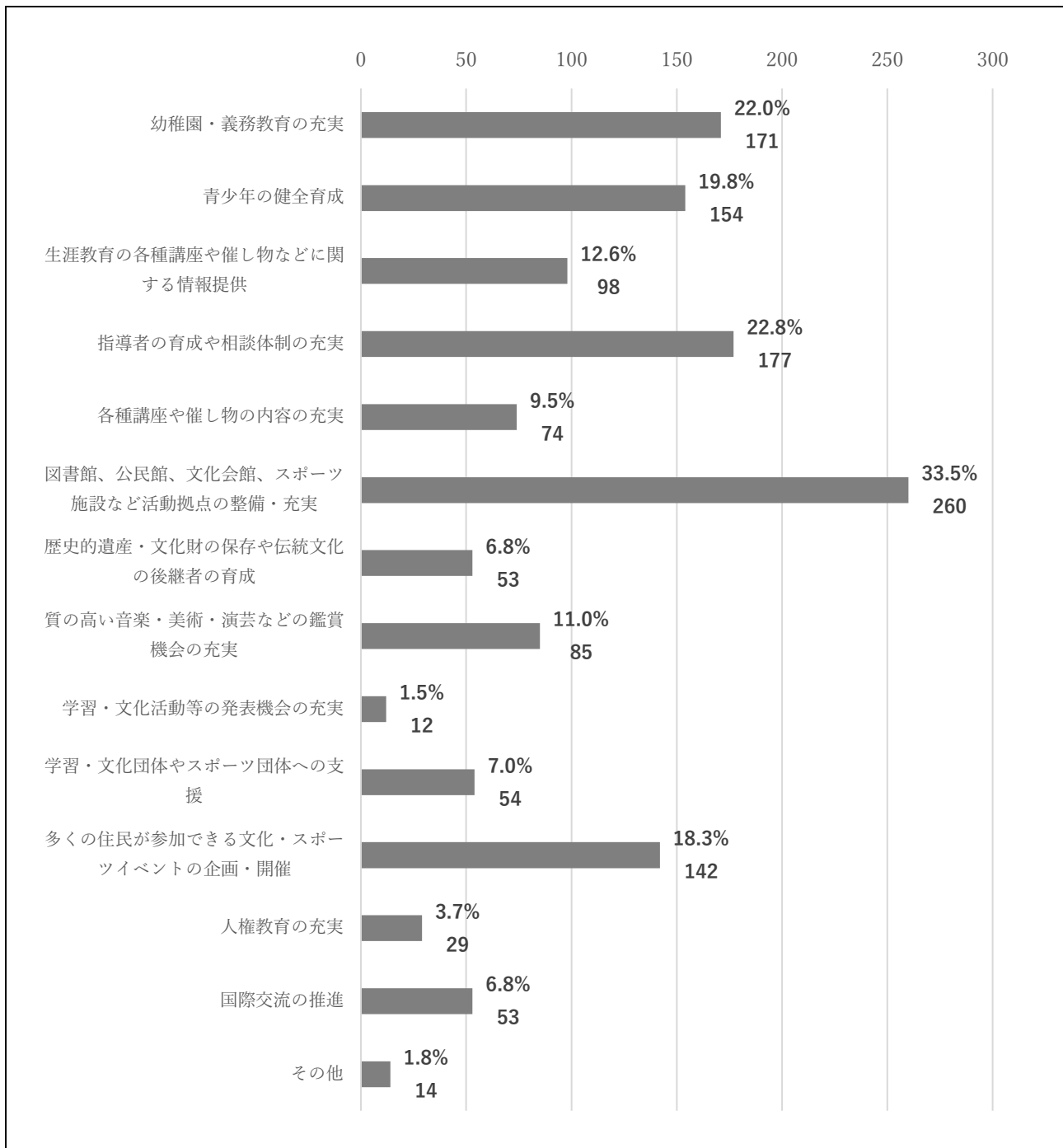
- ・年齢別でみると、20～29歳が「子育て家庭への経済的支援の充実」と回答した割合が48.5%で最も高くなっている。
- ・居住地区別でみると、南端地区では「地域の支援体制・地域で支え合う福祉の充実」が27.8%で最も高く、豊岡地区では「健康増進の促進」が29.1%で最も高くなっている。

		1位		2位		3位	
全体		予防医療（各種検診、予防接種など）の充実	29.4%	健康増進の促進	25.4%	子育て家庭への経済的支援の充実	20.9%
年齢別	18・19歳	健康増進の促進	23.1%	予防医療（各種検診、予防接種など）の充実	23.1%	地域の支援体制・地域で支え合う福祉の充実	23.1%
	20～29歳	子育て家庭への経済的支援の充実	48.5%	健康増進の促進	24.2%	予防医療（各種検診、予防接種など）の充実	24.2%
	30～39歳	予防医療（各種検診、予防接種など）の充実	37.4%	子育て家庭への経済的支援の充実	33.6%	保育施設・保育サービスの充実	23.4%
	40～49歳	予防医療（各種検診、予防接種など）の充実	31.0%	子育て家庭への経済的支援の充実	22.4%	就労機会の創出など高齢者の社会参加の促進	21.6%
	50～59歳	予防医療（各種検診、予防接種など）の充実	32.5%	就労機会の創出など高齢者の社会参加の促進	25.0%	介護施設・サービスの充実	22.5%
	60～69歳	予防医療（各種検診、予防接種など）の充実	28.1%	健康増進の促進	27.0%	地域の支援体制・地域で支え合う福祉の充実	22.4%
	70歳以上	健康増進の促進	38.6%	地域の支援体制・地域で支え合う福祉の充実	25.3%	予防医療（各種検診、予防接種など）の充実	24.7%
居住地区別	南端地区	地域の支援体制・地域で支え合う福祉の充実	27.8%	介護施設・サービスの充実	27.8%	健康増進の促進	22.2%
	豊岡地区	健康増進の促進	29.1%	予防医療（各種検診、予防接種など）の充実	27.5%	子育て家庭への経済的支援の充実	20.3%
	日出地区	予防医療（各種検診、予防接種など）の充実	30.7%	健康増進の促進	25.1%	就労機会の創出など高齢者の社会参加の促進	21.8%
	藤原地区	予防医療（各種検診、予防接種など）の充実	34.3%	健康増進の促進	22.5%	就労機会の創出など高齢者の社会参加の促進	18.6%
	川崎地区	予防医療（各種検診、予防接種など）の充実	32.0%	子育て家庭への経済的支援の充実	29.3%	健康増進の促進	24.0%
	大神地区	予防医療（各種検診、予防接種など）の充実	26.6%	健康増進の促進	24.5%	子育て家庭への経済的支援の充実	20.9%

## 問 13 教育・文化・スポーツ活動を活発にするため、どの部分に力を注ぐべきと思いますか（2つまで○）

### 【全体の傾向】

・「図書館、公民館、文化会館、スポーツ施設など活動拠点の整備・充実」と回答した割合が 33.5% で最も高く、次いで「指導者の育成や相談体制の充実」と回答した割合が 22.8%、「幼稚園・義務教育の充実」と回答した割合が 22.0%となっている。



【属性別の傾向】

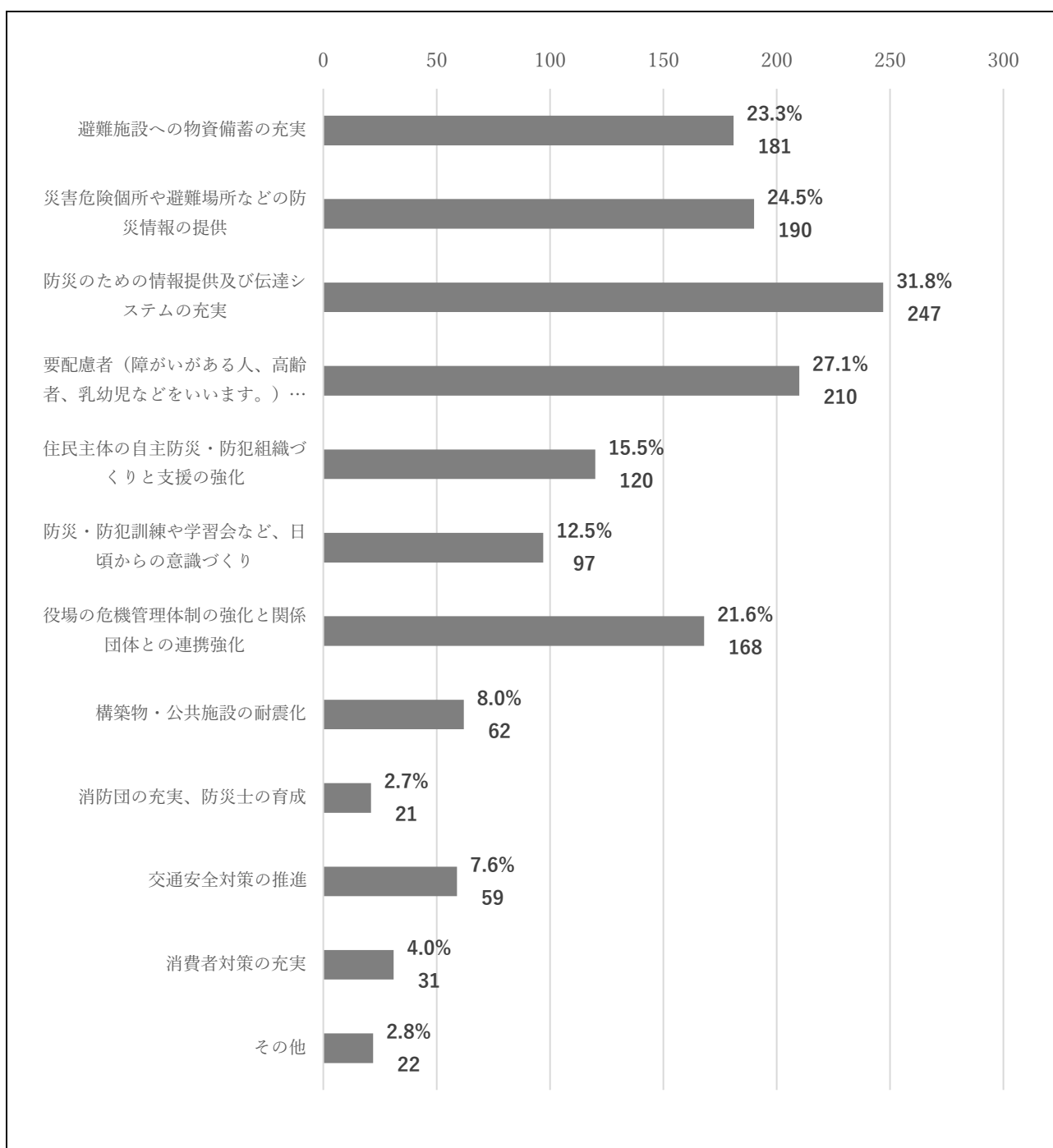
- ・年齢別でみると、全体と同様の項目が上位に上げられているが、20～29歳及び30～39歳は、「幼稚園・義務教育の充実」と回答した割合が4割を超える結果となっている。
- ・居住地区別でみると、全体と同様の項目が上位に上げられており、南端地区の「図書館、公民館、文化会館、スポーツ施設など活動拠点の整備・充実」と回答した割合が38.9%で最も高い。

		1位		2位		3位	
全体		図書館、公民館、文化会館、スポーツ施設など活動拠点の整備・充実	33.5%	指導者の育成や相談体制の充実	22.8%	幼稚園・義務教育の充実	22.0%
年齢別	18・19歳	図書館、公民館、文化会館、スポーツ施設など活動拠点の整備・充実	30.8%	多くの住民が参加できる文化・スポーツイベントの企画・開催	30.8%	幼稚園・義務教育の充実	15.4%
	20～29歳	幼稚園・義務教育の充実	40.9%	図書館、公民館、文化会館、スポーツ施設など活動拠点の整備・充実	37.9%	多くの住民が参加できる文化・スポーツイベントの企画・開催	19.7%
	30～39歳	幼稚園・義務教育の充実	40.2%	図書館、公民館、文化会館、スポーツ施設など活動拠点の整備・充実	27.1%	指導者の育成や相談体制の充実	25.2%
	40～49歳	図書館、公民館、文化会館、スポーツ施設など活動拠点の整備・充実	42.2%	幼稚園・義務教育の充実	24.1%	多くの住民が参加できる文化・スポーツイベントの企画・開催	18.1%
	50～59歳	図書館、公民館、文化会館、スポーツ施設など活動拠点の整備・充実	35.0%	指導者の育成や相談体制の充実	27.5%	幼稚園・義務教育の充実	26.7%
	60～69歳	図書館、公民館、文化会館、スポーツ施設など活動拠点の整備・充実	38.3%	指導者の育成や相談体制の充実	24.0%	青少年の健全育成	22.4%
	70歳以上	青少年の健全育成	29.7%	指導者の育成や相談体制の充実	27.2%	図書館、公民館、文化会館、スポーツ施設など活動拠点の整備・充実	22.8%
居住地区別	南端地区	図書館、公民館、文化会館、スポーツ施設など活動拠点の整備・充実	38.9%	多くの住民が参加できる文化・スポーツイベントの企画・開催	38.9%	指導者の育成や相談体制の充実	27.8%
	豊岡地区	図書館、公民館、文化会館、スポーツ施設など活動拠点の整備・充実	35.7%	幼稚園・義務教育の充実	23.1%	多くの住民が参加できる文化・スポーツイベントの企画・開催	21.4%
	日出地区	図書館、公民館、文化会館、スポーツ施設など活動拠点の整備・充実	31.3%	幼稚園・義務教育の充実	24.0%	指導者の育成や相談体制の充実	24.0%
	藤原地区	図書館、公民館、文化会館、スポーツ施設など活動拠点の整備・充実	35.3%	指導者の育成や相談体制の充実	25.5%	青少年の健全育成	22.5%
	川崎地区	図書館、公民館、文化会館、スポーツ施設など活動拠点の整備・充実	34.7%	幼稚園・義務教育の充実	26.0%	指導者の育成や相談体制の充実	24.0%
	大神地区	図書館、公民館、文化会館、スポーツ施設など活動拠点の整備・充実	30.9%	青少年の健全育成	24.5%	指導者の育成や相談体制の充実	23.7%

## 問 14 安全・安心なまち（地域）をつくるため、今後どの部分に力を注ぐべきと思いますか（2つまで○）

### 【全体の傾向】

・「防災のための情報提供及び伝達システムの充実」と回答した割合が 31.8%で最も高く、次いで「要配慮者の実態の把握や緊急連絡体制、避難誘導などの防災体制の整備」と回答した割合が 27.1%、「災害危険個所や避難場所などの防災情報の提供」と回答した割合が 24.5%となっている。



【属性別の傾向】

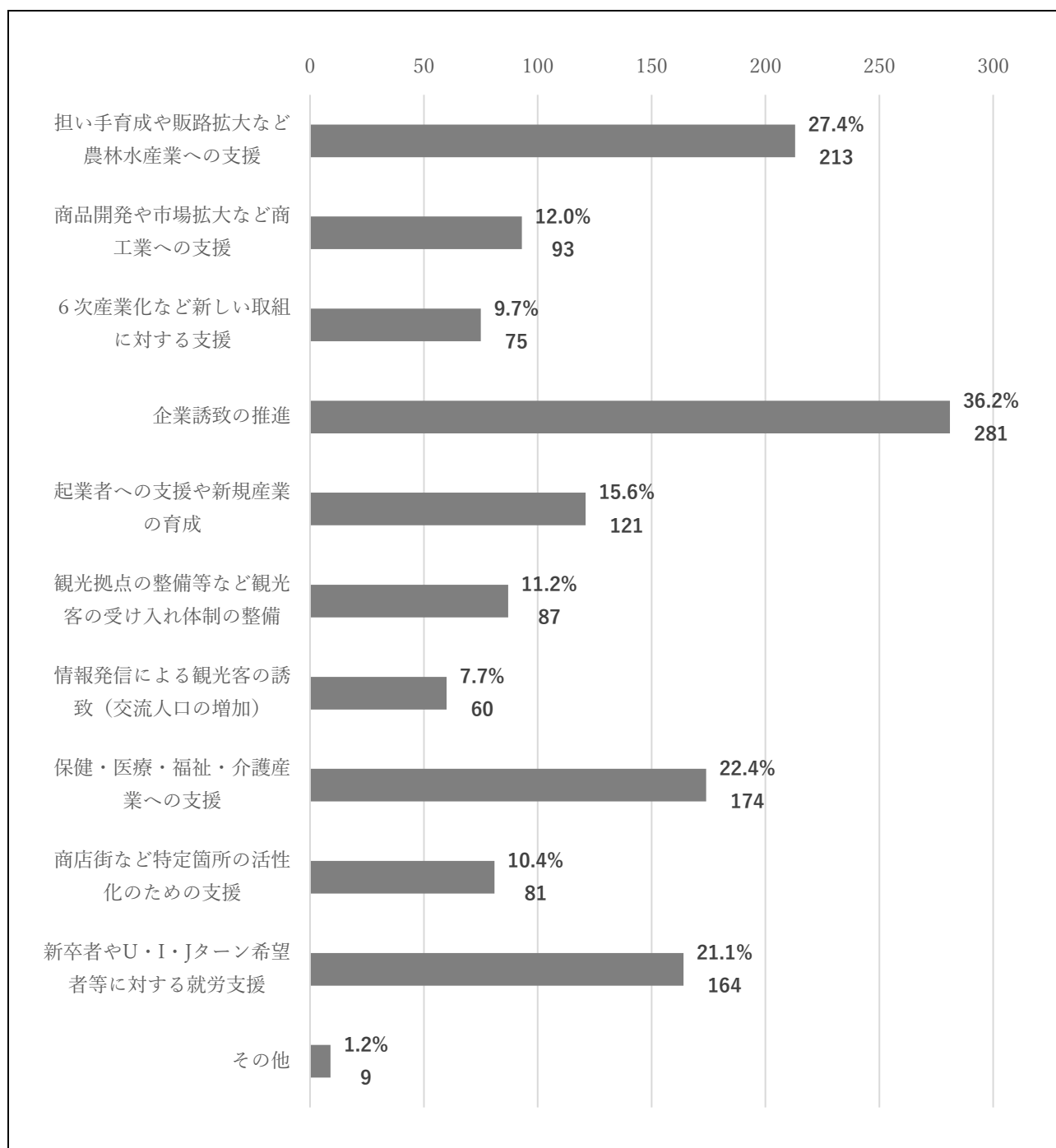
- ・年齢別でみると、20～29歳、30～39歳、40～49歳が「避難施設への物資備蓄の充実」が最も高い回答割合に対し、50～59歳、60～69歳、70歳以上は「防災のための情報提供及び伝達システムの充実」が最も高くなっている。
- ・居住地区別でみると、南端地区を除く地区が「防災のための情報提供及び伝達システムの充実」と回答した割合が最も高い一方で、南端地区では、「役場の危機管理体制の強化と関係団体との連携強化」と回答した割合が44.4%で最も高くなっている。

		1位		2位		3位	
全体		防災のための情報提供及び伝達システムの充実	31.8%	要配慮者（障がいがある人、高齢者、乳幼児などをいいます。）の実態の把握や緊急連絡体制、避難誘導などの防災体制の整備	27.1%	災害危険個所や避難場所などの防災情報の提供	24.5%
年齢別	18・19歳	防災のための情報提供及び伝達システムの充実	30.8%	交通安全対策の推進	30.8%	避難施設への物資備蓄の充実	23.1%
	20～29歳	避難施設への物資備蓄の充実	34.8%	防災のための情報提供及び伝達システムの充実	27.3%	災害危険個所や避難場所などの防災情報の提供	24.2%
	30～39歳	避難施設への物資備蓄の充実	29.9%	防災のための情報提供及び伝達システムの充実	26.2%	災害危険個所や避難場所などの防災情報の提供	19.6%
	40～49歳	避難施設への物資備蓄の充実	29.3%	防災のための情報提供及び伝達システムの充実	28.4%	災害危険個所や避難場所などの防災情報の提供	23.3%
	50～59歳	防災のための情報提供及び伝達システムの充実	36.7%	役場の危機管理体制の強化と関係団体との連携強化	30.0%	災害危険個所や避難場所などの防災情報の提供	29.2%
	60～69歳	防災のための情報提供及び伝達システムの充実	33.2%	災害危険個所や避難場所などの防災情報の提供	24.0%	役場の危機管理体制の強化と関係団体との連携強化	23.5%
	70歳以上	防災のための情報提供及び伝達システムの充実	34.8%	災害危険個所や避難場所などの防災情報の提供	27.2%	役場の危機管理体制の強化と関係団体との連携強化	22.8%
居住地区別	南端地区	役場の危機管理体制の強化と関係団体との連携強化	44.4%	災害危険個所や避難場所などの防災情報の提供	33.3%	避難施設への物資備蓄の充実	16.7%
	豊岡地区	防災のための情報提供及び伝達システムの充実	31.9%	災害危険個所や避難場所などの防災情報の提供	26.9%	避難施設への物資備蓄の充実	25.8%
	日出地区	防災のための情報提供及び伝達システムの充実	35.2%	災害危険個所や避難場所などの防災情報の提供	24.6%	避難施設への物資備蓄の充実	23.5%
	藤原地区	防災のための情報提供及び伝達システムの充実	30.4%	役場の危機管理体制の強化と関係団体との連携強化	23.5%	避難施設への物資備蓄の充実	21.6%
	川崎地区	防災のための情報提供及び伝達システムの充実	32.7%	避難施設への物資備蓄の充実	26.0%	災害危険個所や避難場所などの防災情報の提供	20.7%
	大神地区	防災のための情報提供及び伝達システムの充実	31.7%	災害危険個所や避難場所などの防災情報の提供	26.6%	役場の危機管理体制の強化と関係団体との連携強化	22.3%

## 問 15 産業振興について、今後、どのようなことに力を注ぐべき と思いますか (2つまで○)

### 【全体の傾向】

・「企業誘致の推進」と回答した割合が 36.2%で最も高く、次いで「担い手育成や販路拡大など農林水産業への支援」と回答した割合が 27.4%、「保健・医療・福祉・介護産業への支援」と回答した割合が 22.4%となっている。



【属性別の傾向】

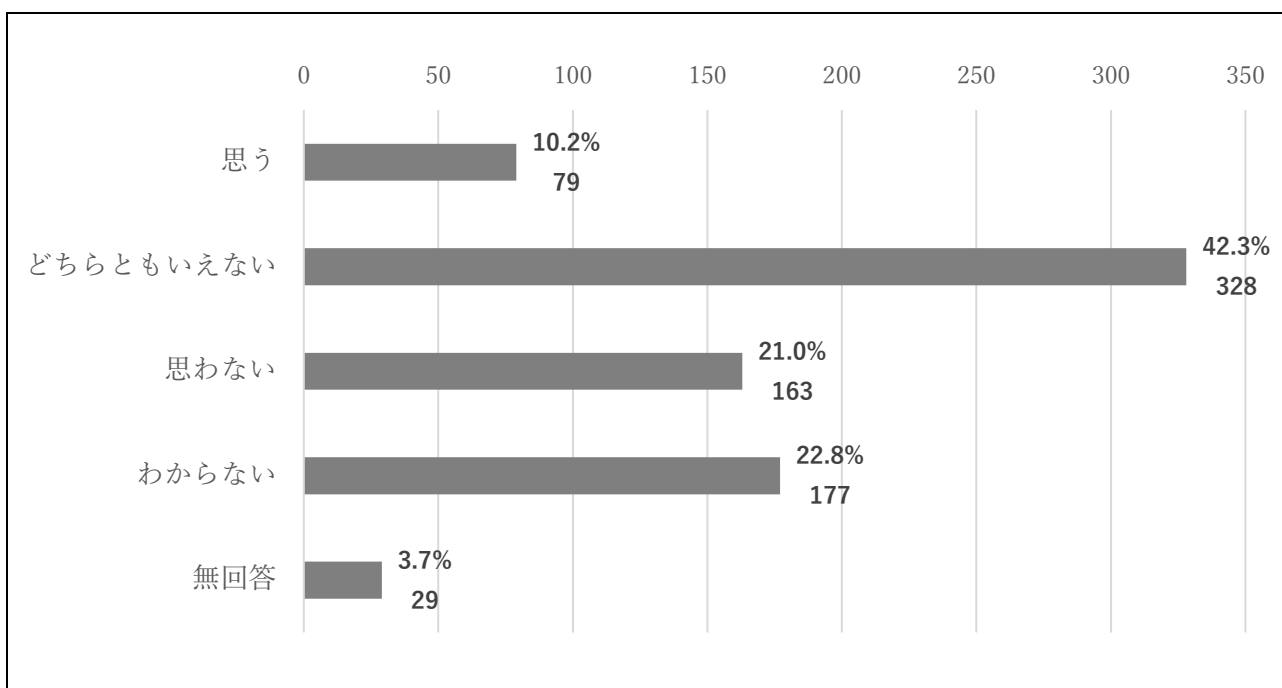
- ・年齢別でみると、全体と同様の項目が上位に上げられており、40～49歳、50～59歳、60～69歳、70歳以上は、「企業誘致の推進」と回答した割合が最も高くなっている。
- ・居住地区別でみると、南端地区および藤原地区は、「担い手育成や販路拡大など農林水産業への支援」が最も高い回答割合に対し、それ以外の地区は、「企業誘致の推進」が最も高くなっている。

		1位		2位		3位	
全体		企業誘致の推進	36.2%	担い手育成や販路拡大など農林水産業への支援	27.4%	保健・医療・福祉・介護産業への支援	22.4%
年齢別	18・19歳	観光拠点の整備等など観光客の受け入れ体制の整備	38.5%	新卒者やU・I・Jターン希望者等に対する就労支援	30.8%	企業誘致の推進	23.1%
	20～29歳	担い手育成や販路拡大など農林水産業への支援	40.9%	保健・医療・福祉・介護産業への支援	28.8%	企業誘致の推進	19.7%
	30～39歳	保健・医療・福祉・介護産業への支援	32.7%	企業誘致の推進	31.8%	担い手育成や販路拡大など農林水産業への支援	29.0%
	40～49歳	企業誘致の推進	39.7%	保健・医療・福祉・介護産業への支援	21.6%	担い手育成や販路拡大など農林水産業への支援	19.0%
	50～59歳	企業誘致の推進	40.8%	担い手育成や販路拡大など農林水産業への支援	31.7%	保健・医療・福祉・介護産業への支援	22.5%
	60～69歳	企業誘致の推進	38.3%	担い手育成や販路拡大など農林水産業への支援	26.5%	新卒者やU・I・Jターン希望者等に対する就労支援	24.5%
	70歳以上	企業誘致の推進	38.6%	担い手育成や販路拡大など農林水産業への支援	25.9%	新卒者やU・I・Jターン希望者等に対する就労支援	22.8%
居住地区別	南端地区	担い手育成や販路拡大など農林水産業への支援	33.3%	企業誘致の推進	27.8%	6次産業化など新しい取組に対する支援	27.8%
	豊岡地区	企業誘致の推進	29.7%	保健・医療・福祉・介護産業への支援	26.9%	担い手育成や販路拡大など農林水産業への支援	26.4%
	日出地区	企業誘致の推進	37.4%	担い手育成や販路拡大など農林水産業への支援	26.8%	新卒者やU・I・Jターン希望者等に対する就労支援	21.2%
	藤原地区	担い手育成や販路拡大など農林水産業への支援	29.4%	企業誘致の推進	28.4%	保健・医療・福祉・介護産業への支援	25.5%
	川崎地区	企業誘致の推進	43.3%	新卒者やU・I・Jターン希望者等に対する就労支援	24.0%	保健・医療・福祉・介護産業への支援	23.3%
	大神地区	企業誘致の推進	41.7%	担い手育成や販路拡大など農林水産業への支援	33.8%	新卒者やU・I・Jターン希望者等に対する就労支援	22.3%

## 問 16 現在の日出町は、町民と行政が協働してまちづくりに取り組んでいると思いますか（1つだけ○）

### 【全体の傾向】

- ・「現在の日出町は、町民と行政が協働してまちづくりに取り組んでいると思う」と回答した割合は10.2%で、「思わない」と回答した割合の21.0%よりも低い結果となっている。
- ・最も高い回答割合は、「どちらともいえない」で42.3%となっており、次いで「わからない」の22.8%となっている。

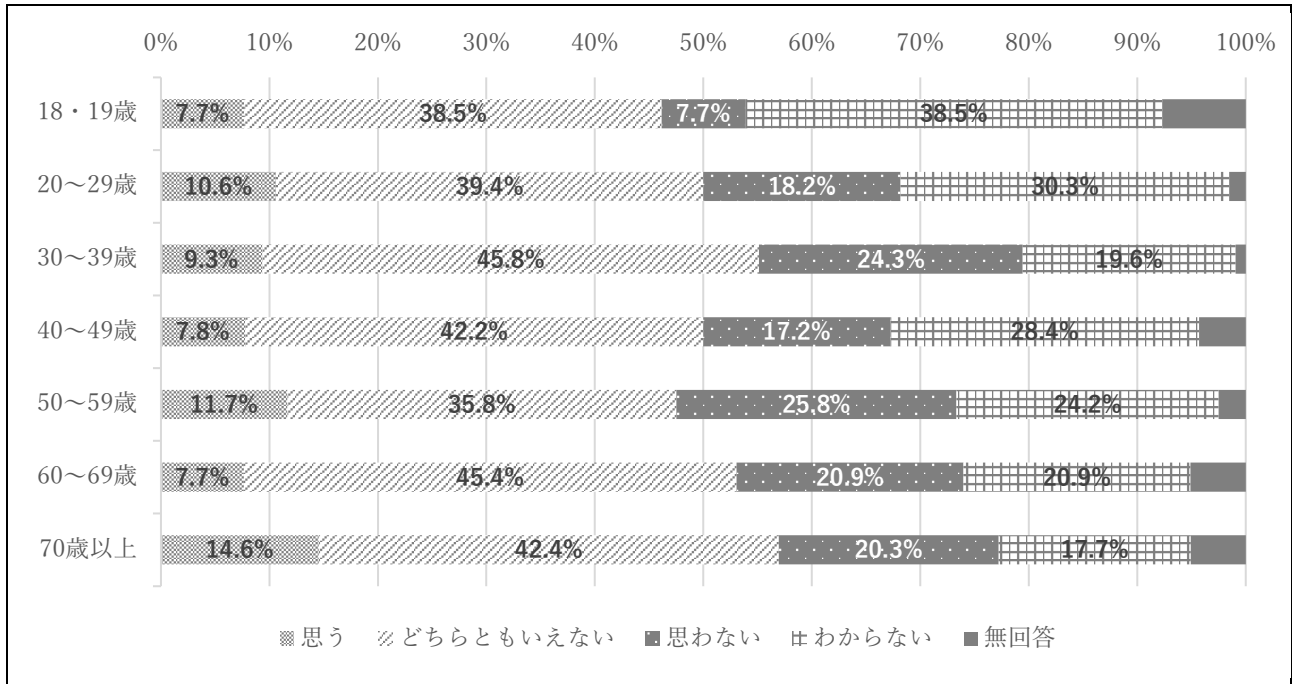




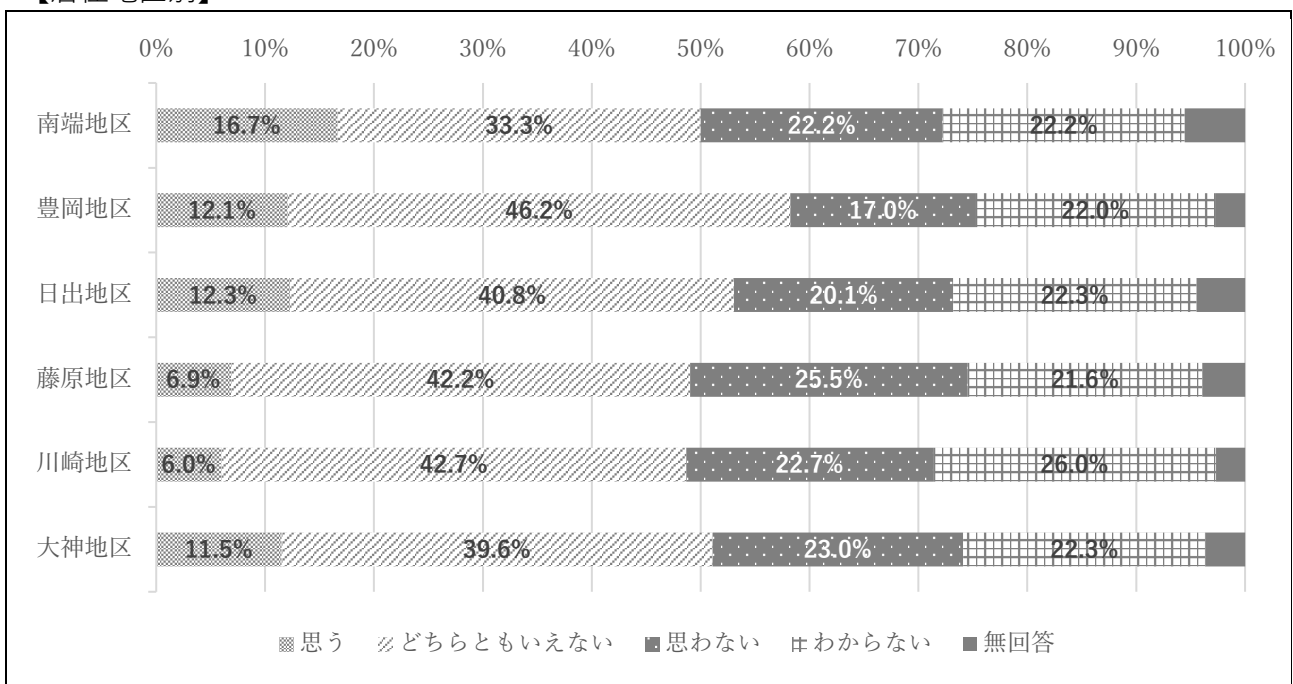
### 【属性別の傾向】

- ・年齢別でみると、70歳以上が「現在の日出町は、町民と行政が協働してまちづくりに取り組んでいると思う」と回答した割合が14.6%で、各年代の中で最も高い。
- ・居住地区別でみると、「現在の日出町は、町民と行政が協働してまちづくりに取り組んでいると思う」と回答した割合が最も高かった地区は南端地区で16.7%、「思わない」と回答した割合が最も高かった地区は、藤原地区の25.5%となっている。

### 【年齢別】



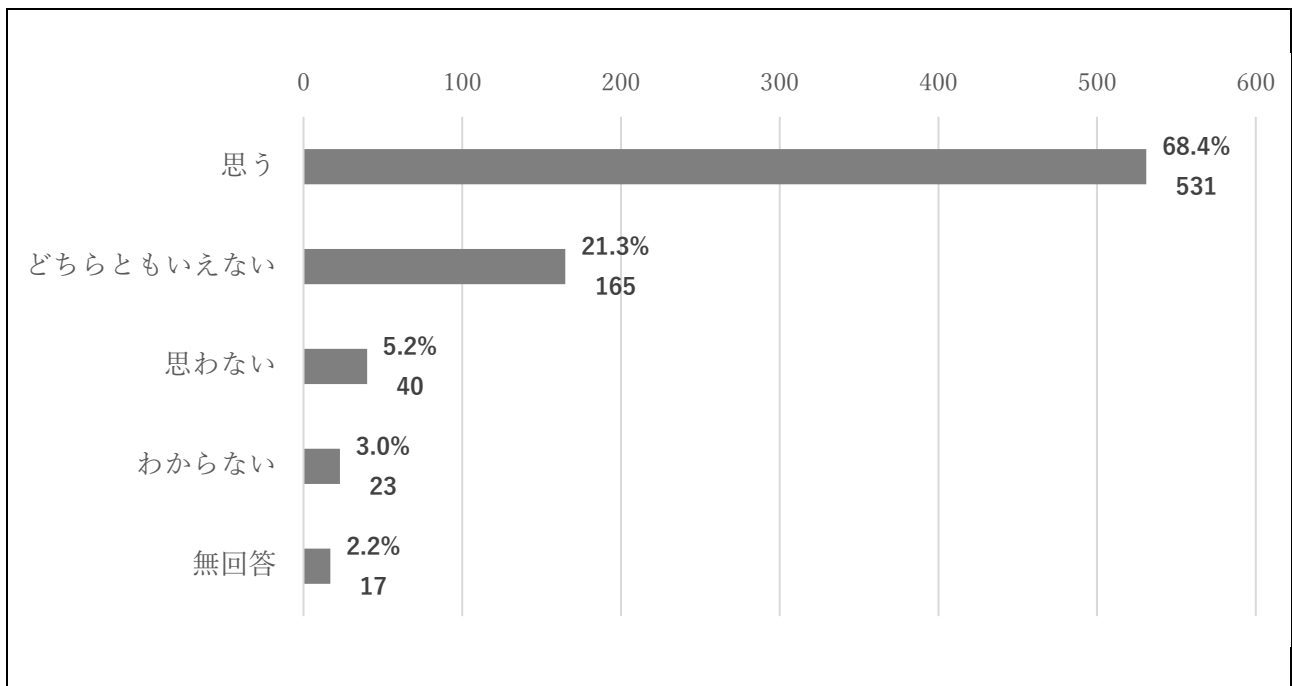
### 【居住地区別】



**問 17 だれもが住みよいまちづくりの実現のためには、地域活動や町民活動（区や自治会・公民館の活動やボランティア活動など）は大切だと思いますか（1つだけ○）**

**【全体の傾向】**

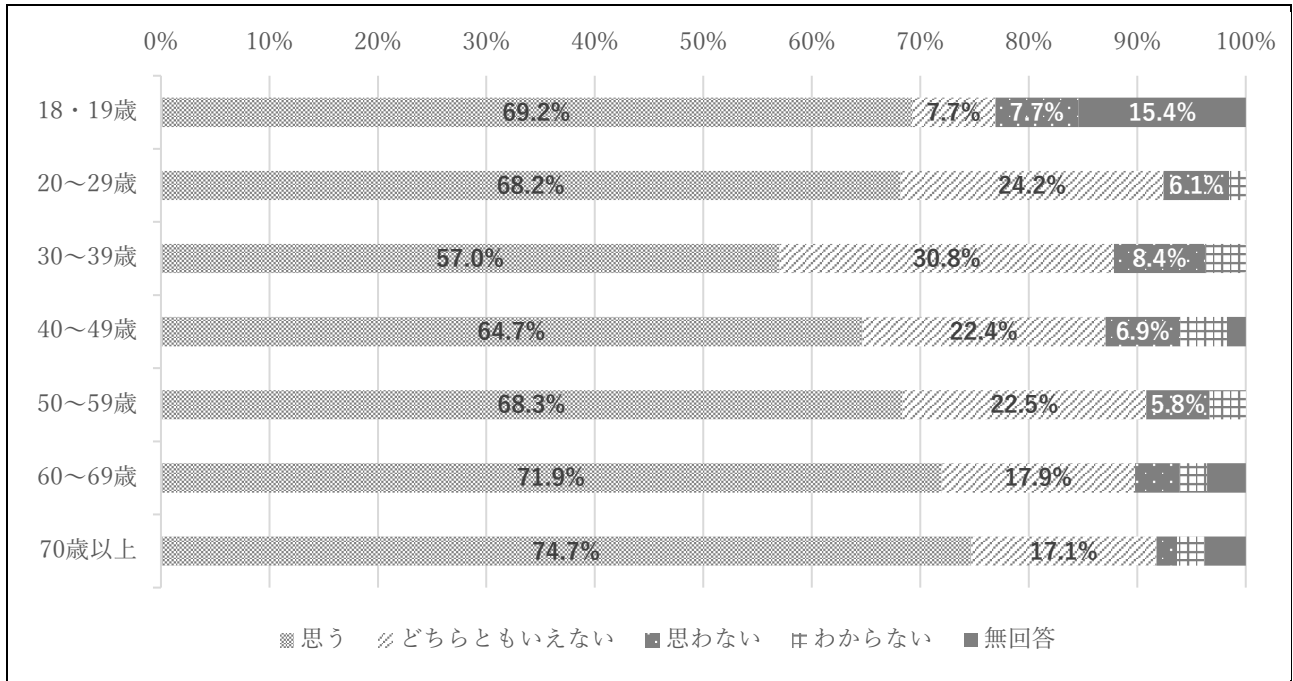
・「地域活動や町民活動（区や自治会・公民館の活動やボランティア活動など）は大切だと思う」と回答した割合は 68.4%で最も高く、「思わない」と回答した割合は 5.2%となっている。



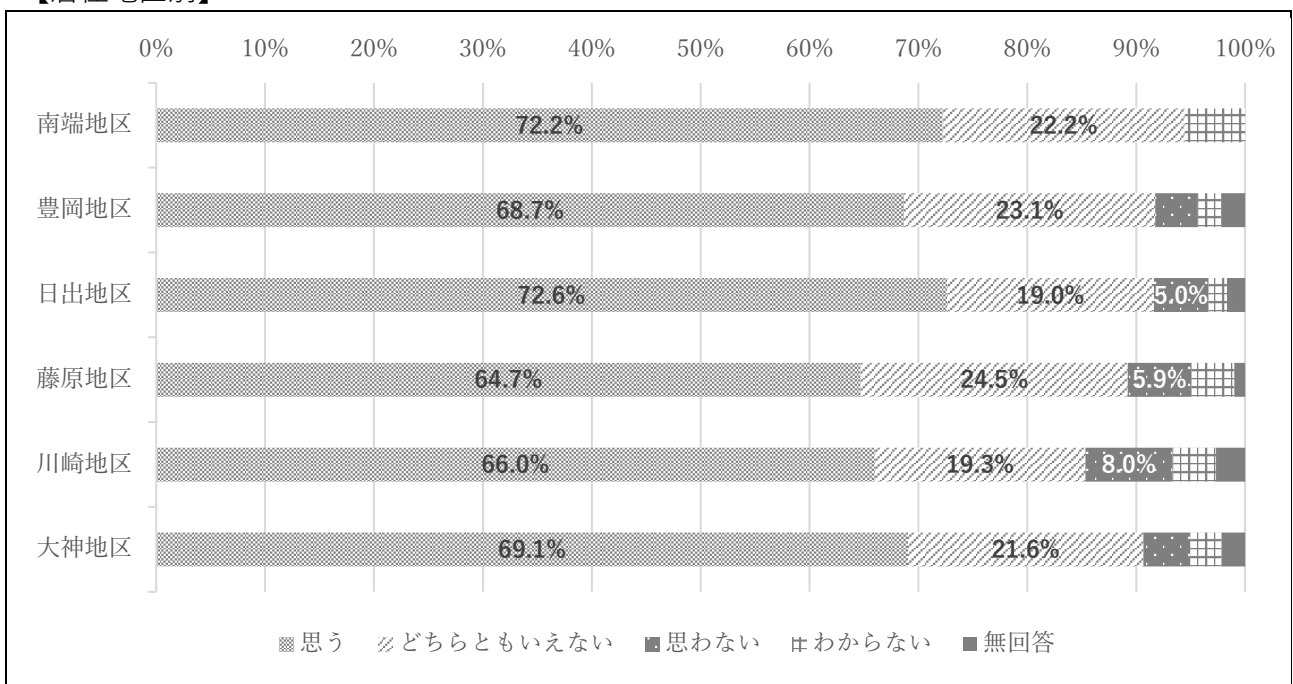
### 【属性別の傾向】

- ・年齢別で見ると、70歳以上の「地域活動や町民活動（区や自治会・公民館の活動やボランティア活動など）は大切だと思う」と回答した割合が74.7%で最も高いのに対し、30～39歳は、57.0%で各年代の中で最も低い。
- ・居住地区別で見ると、日出地区の「地域活動や町民活動（区や自治会・公民館の活動やボランティア活動など）は大切だと思う」と回答した割合が72.6%で最も高い。

### 【年齢別】



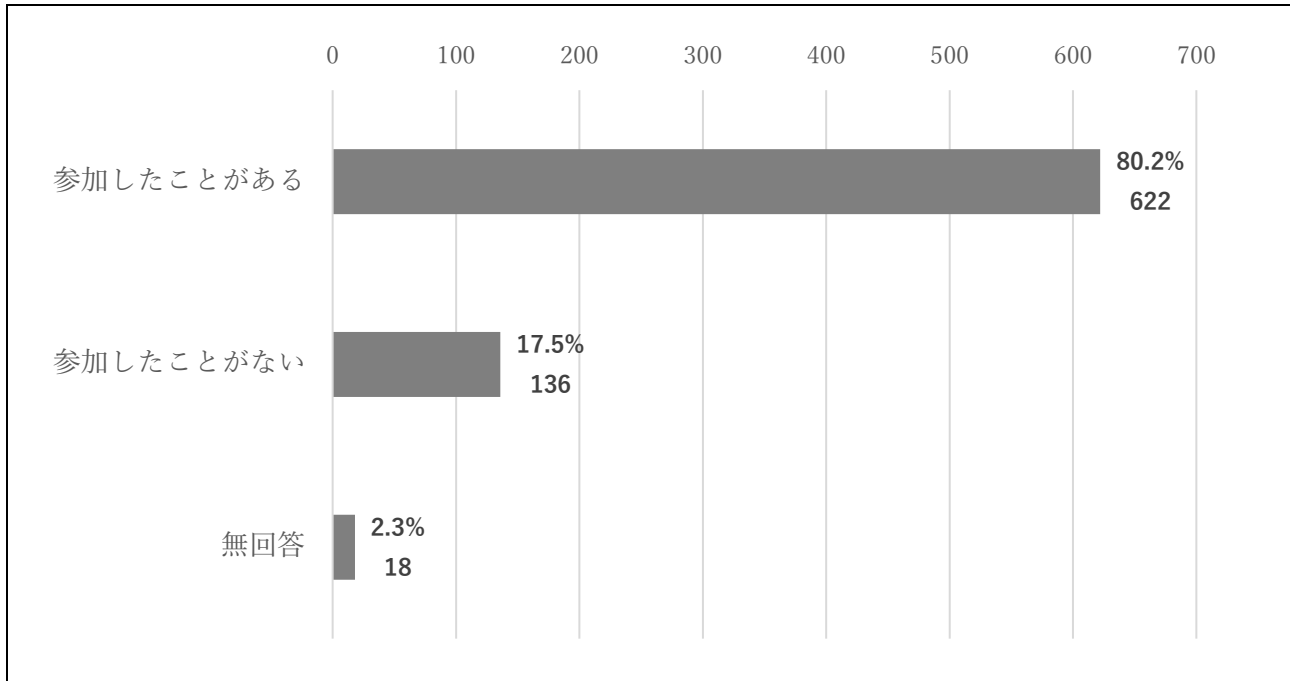
### 【居住地区別】



## 問 18-1 これまで、どのような町民活動やボランティア活動に参加したことがありますか（参加の有無について）（1つだけ○）

### 【全体の傾向】

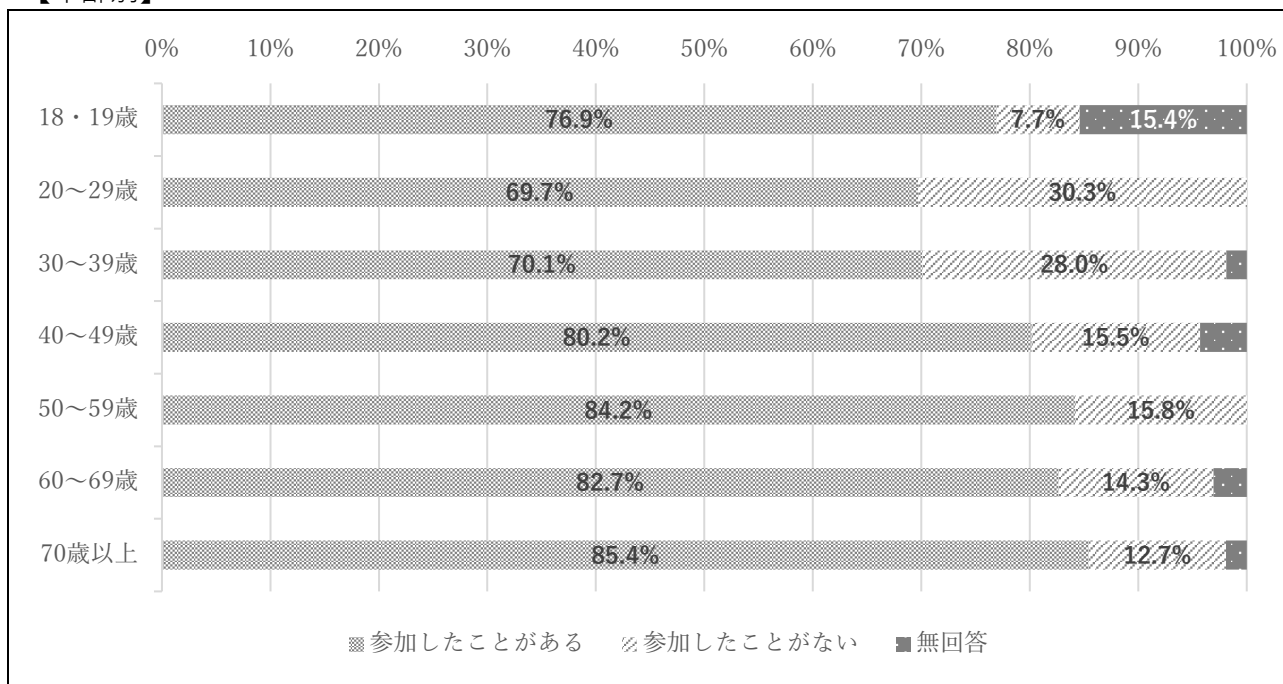
- ・「町民活動やボランティア活動に参加したことがある」と回答した割合は 80.2%で、「参加したことがない」と回答した割合は 17.5%となっている。



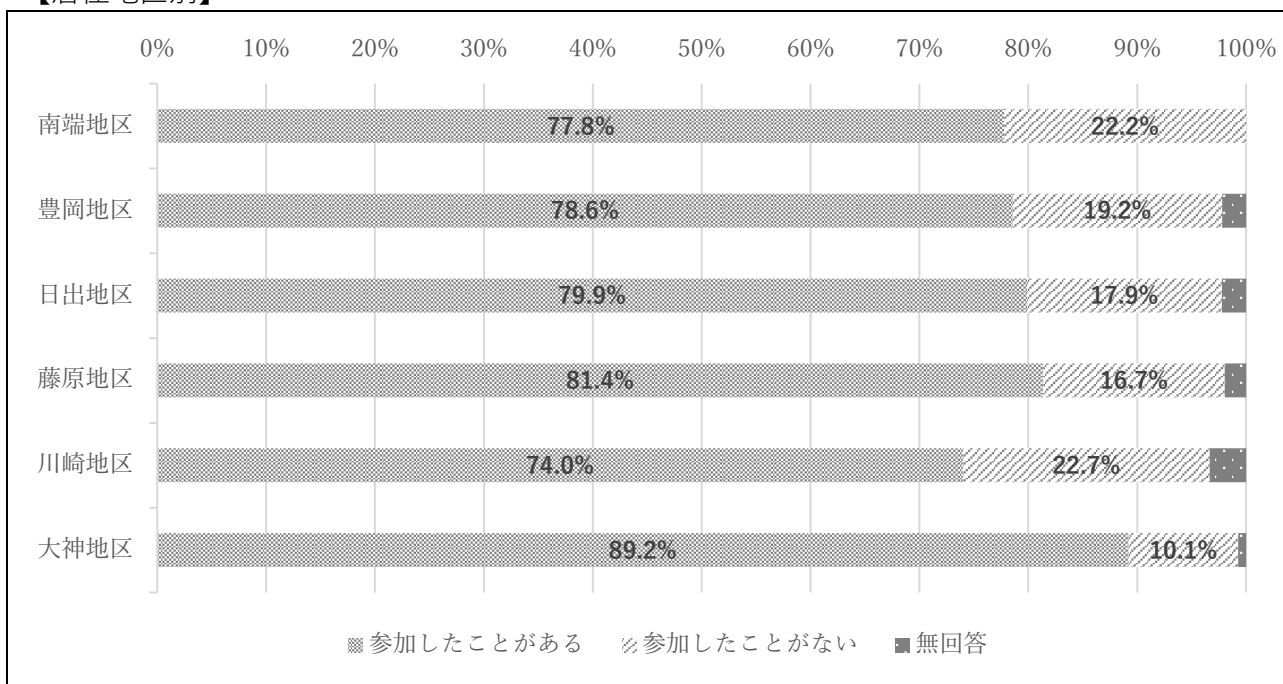
【属性別の傾向】

- ・年齢別で見ると、40～49歳、50～59歳、60～69歳、70歳以上が「町民活動やボランティア活動に参加したことがある」の回答割合が8割を超えているのに対し、18・19歳、20～29歳、30～39歳は8割を切る結果となっており、20～29歳は、「参加したことがない」が30.3%で各年代の中で最も高くなっている。
- ・地区別で見ると、大神地区の「町民活動やボランティア活動に参加したことがある」の回答割合が89.2%で各地区の中で最も高い。

【年齢別】



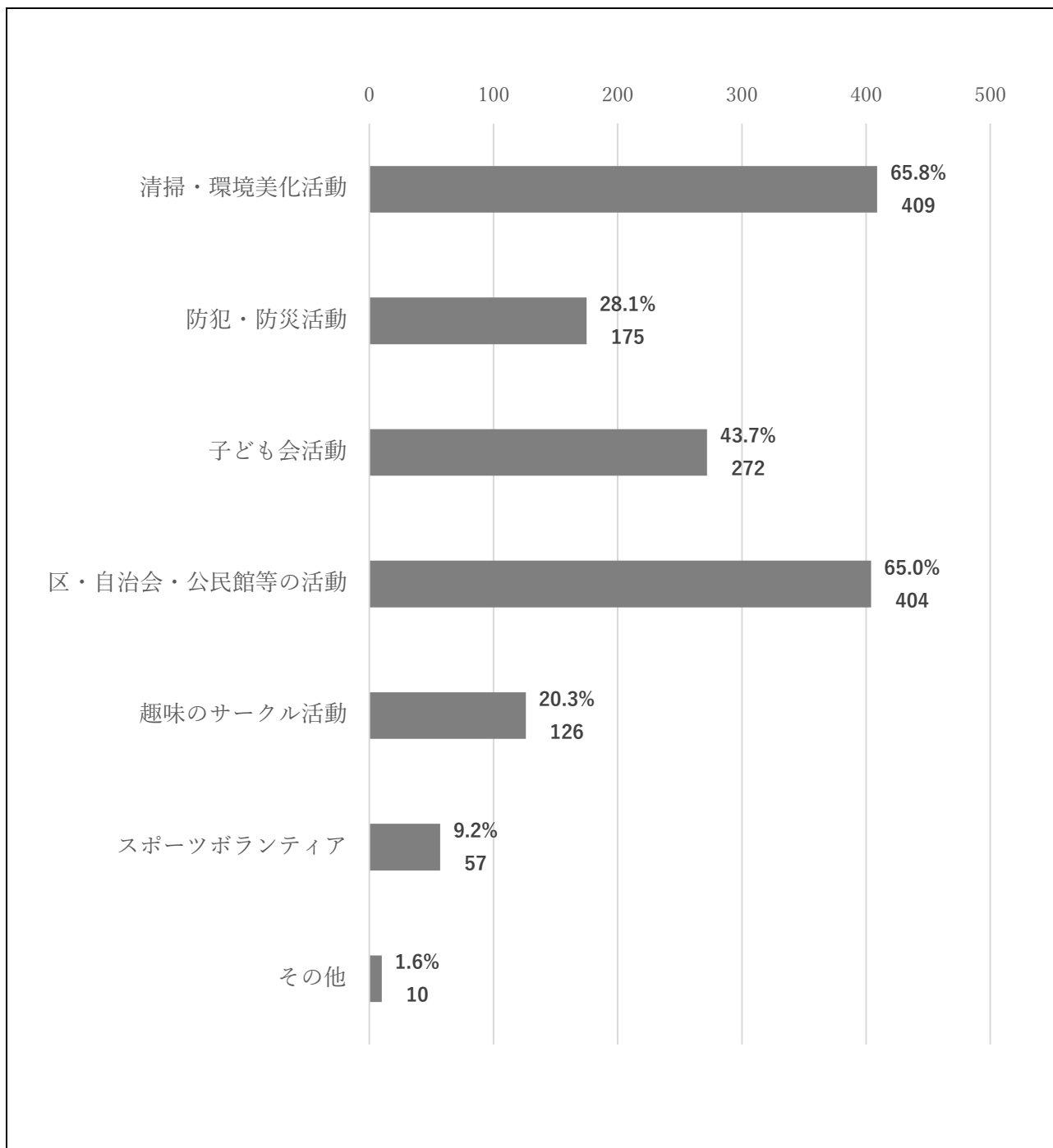
【居住地区別】



## 問 18-2 これまで、どのような町民活動やボランティア活動に参加したことがありますか（あてはまるものすべてに○）

### 【全体の傾向】

- ・「清掃・環境美化活動」と回答した割合が 65.8%で最も高く、次いで「区・自治会・公民館等の活動」と回答した割合が 65.0%、「子ども会活動」と回答した割合が 43.7%となっている。



【属性別の傾向】

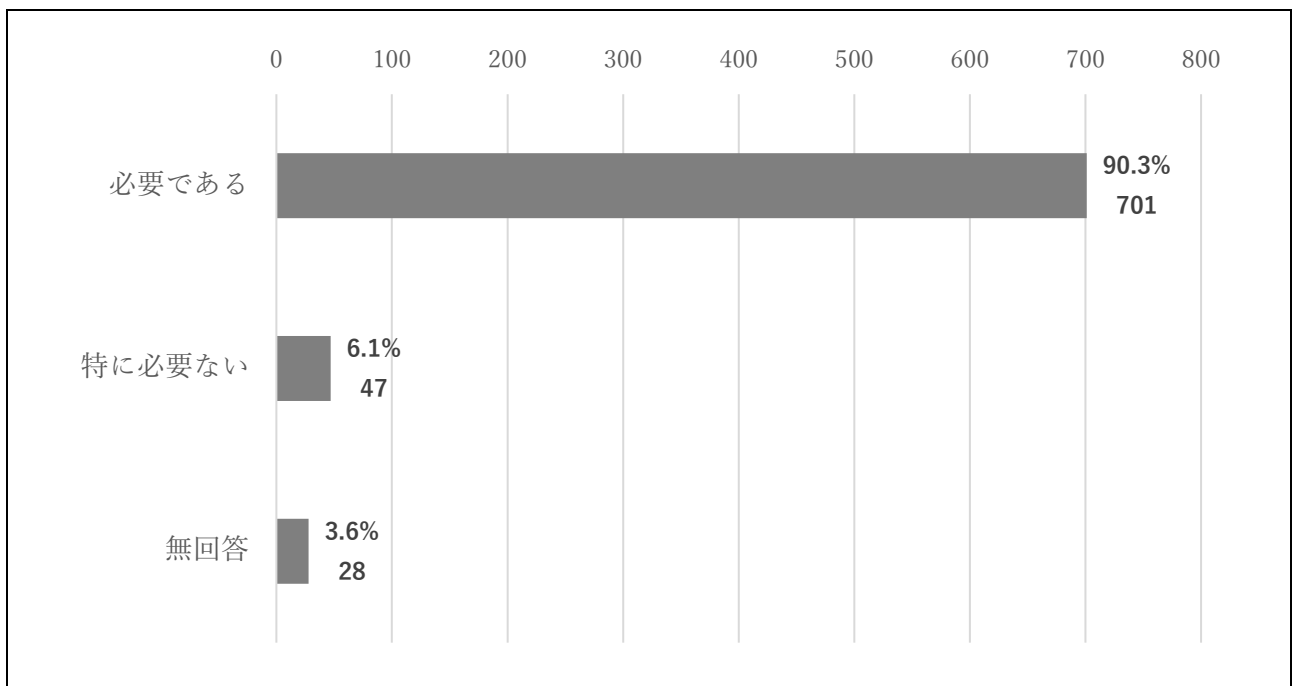
- ・年齢別でみると、18・19歳、20～29歳が「子ども会活動」と回答した割合が最も高いのに対し、30～39歳、40～49歳、50～59歳、60～69歳の「子ども会活動」は第3位となっている。
- ・居住地区別でみると、南端地区、豊岡地区、日出地区が「清掃・環境美化活動」と回答した割合が最も高かったのに対し、藤原地区、川崎地区、大神地区は「区・自治会・公民館等の活動」と回答した割合が最も高くなっている。

		1位		2位		3位	
全体		清掃・環境美化活動	65.8%	区・自治会・公民館等の活動	65.0%	子ども会活動	43.7%
年齢別	18・19歳	子ども会活動	90.0%	区・自治会・公民館等の活動	60.0%	趣味のサークル活動	50.0%
	20～29歳	子ども会活動	60.9%	清掃・環境美化活動	47.8%	区・自治会・公民館等の活動	39.1%
	30～39歳	清掃・環境美化活動	52.0%	区・自治会・公民館等の活動	52.0%	子ども会活動	46.7%
	40～49歳	清掃・環境美化活動	73.1%	区・自治会・公民館等の活動	71.0%	子ども会活動	63.4%
	50～59歳	区・自治会・公民館等の活動	73.3%	清掃・環境美化活動	70.3%	子ども会活動	63.4%
	60～69歳	区・自治会・公民館等の活動	69.1%	清掃・環境美化活動	68.5%	子ども会活動	34.6%
	70歳以上	清掃・環境美化活動	70.4%	区・自治会・公民館等の活動	65.9%	防犯・防災活動	34.1%
居住地区別	南端地区	清掃・環境美化活動	71.4%	区・自治会・公民館等の活動	64.3%	防犯・防災活動	28.6%
	豊岡地区	清掃・環境美化活動	62.9%	区・自治会・公民館等の活動	57.3%	子ども会活動	36.4%
	日出地区	清掃・環境美化活動	67.8%	区・自治会・公民館等の活動	60.1%	子ども会活動	49.7%
	藤原地区	区・自治会・公民館等の活動	73.5%	清掃・環境美化活動	69.9%	子ども会活動	42.2%
	川崎地区	区・自治会・公民館等の活動	66.7%	清掃・環境美化活動	64.9%	子ども会活動	48.6%
	大神地区	区・自治会・公民館等の活動	71.8%	清掃・環境美化活動	64.5%	子ども会活動	45.2%

**問 19-1 地域（まち）にあったほうがよいと思う町民活動やボランティア活動は何ですか（必要性の有無について）  
（1つだけ○）**

**【全体の傾向】**

- ・「町民活動やボランティア活動は必要である」と回答した割合は 90.3%に対し、「特に必要ない」と回答した割合は 6.1%となっている。

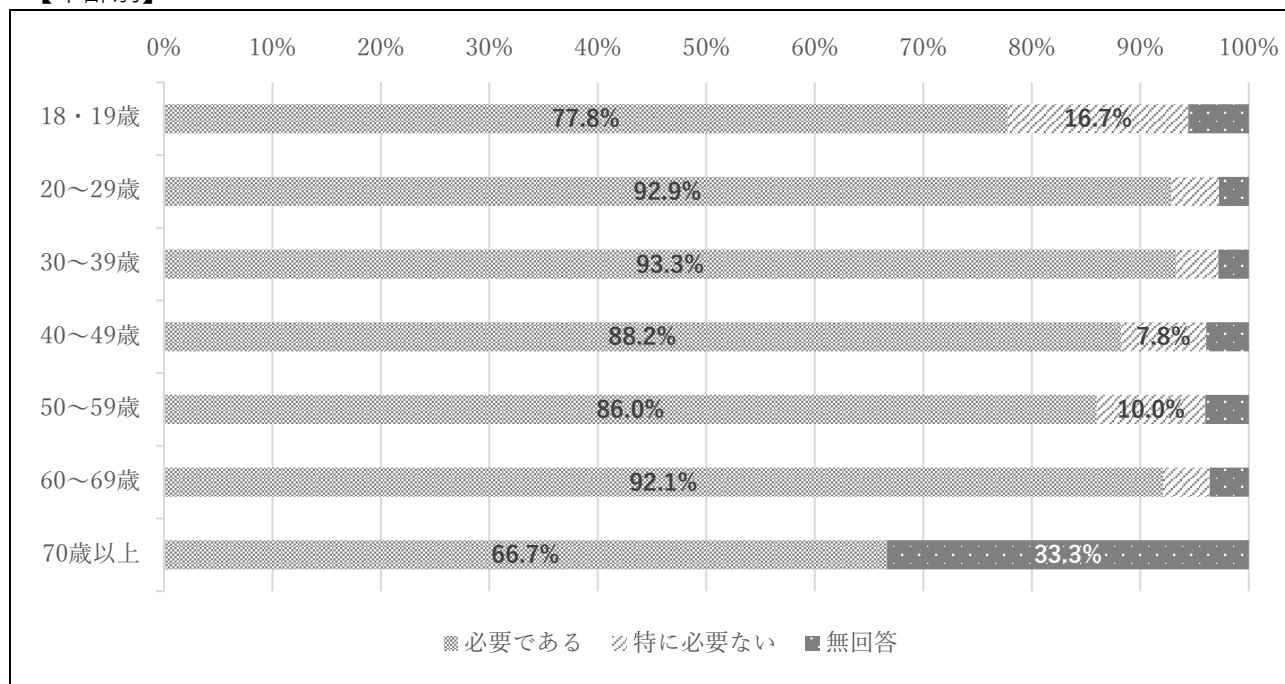




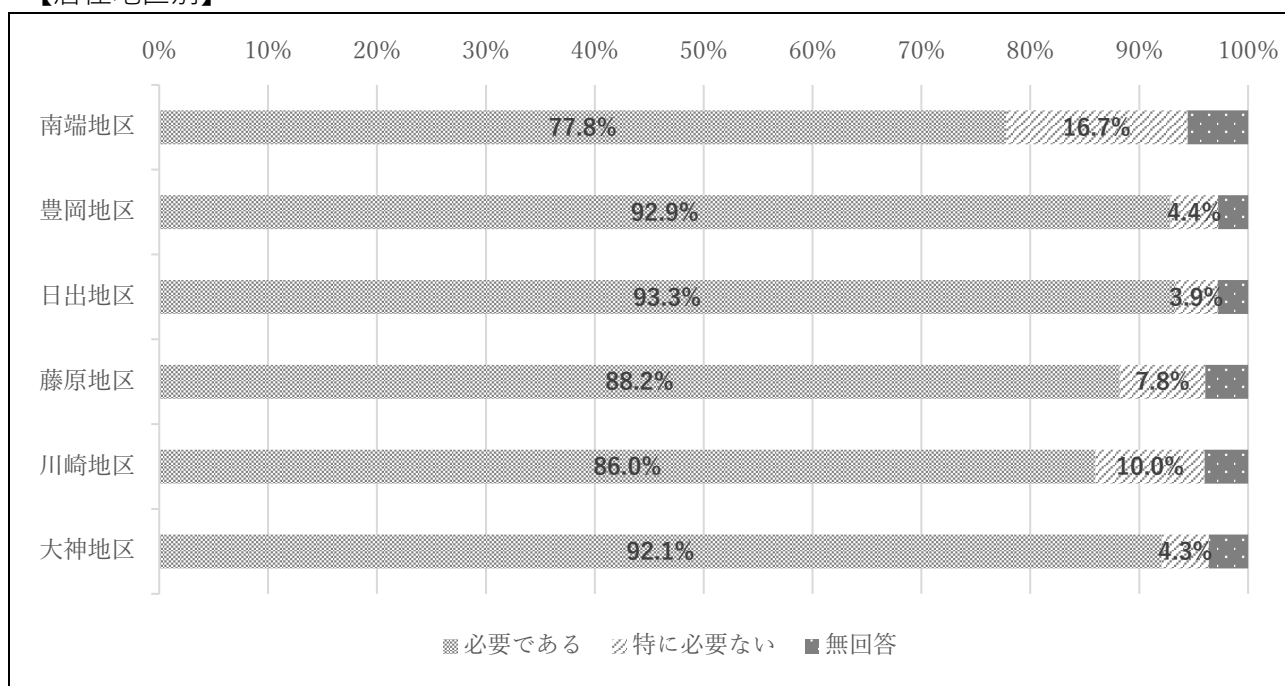
### 【属性別の傾向】

- ・年齢別で見ると、30～39歳が「町民活動やボランティア活動は必要である」と回答した割合が93.3%で最も高いのに対し、70歳以上は66.7%で各年代の中で最も低くなっている。
- ・居住地区別で見ると、南端地区が「町民活動やボランティア活動は必要である」と回答した割合が77.8%で各年代の中で最も低くなっている。

### 【年齢別】



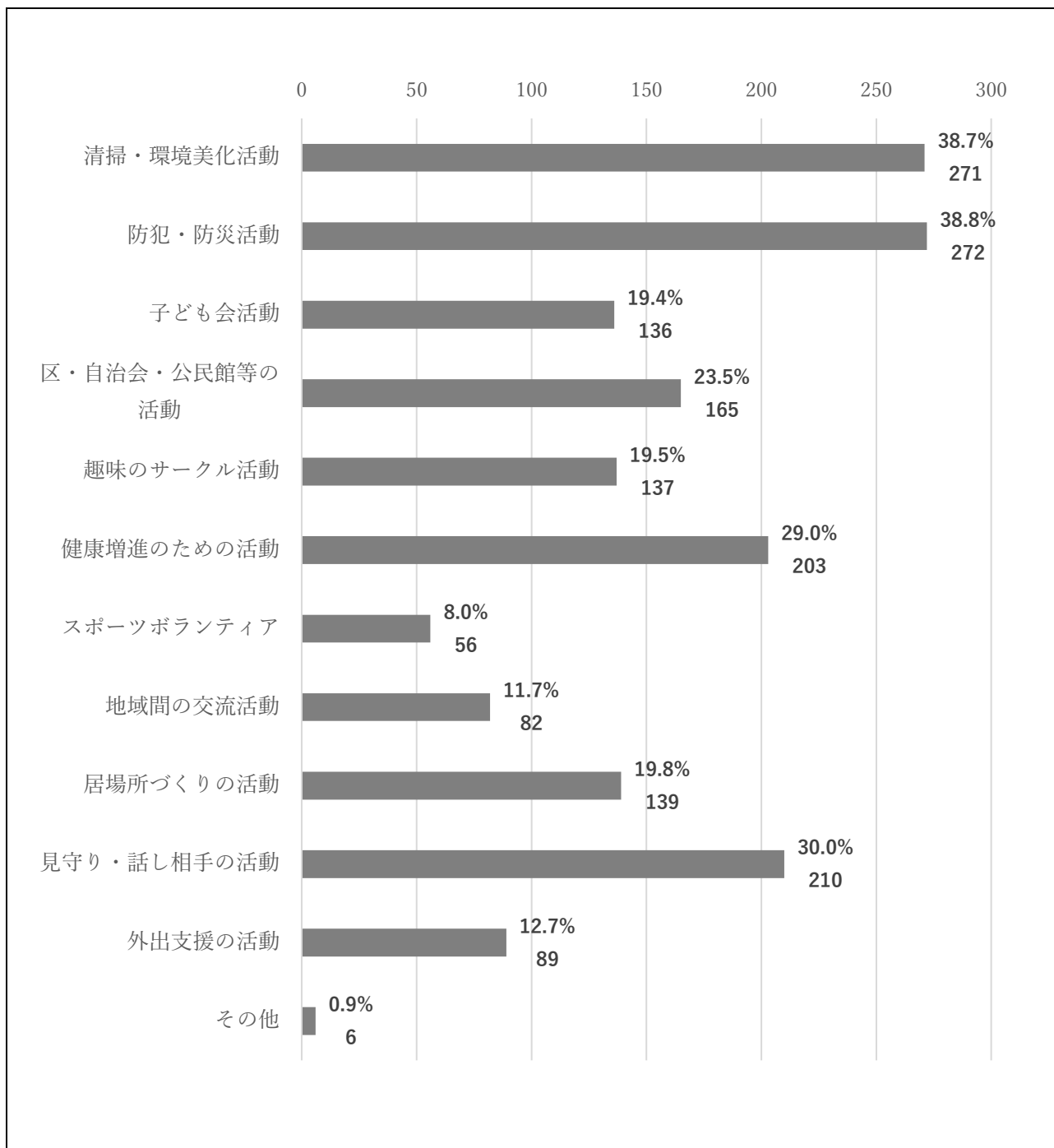
### 【居住地区別】



## 問 19-2 地域（まち）にあったほうがよいと思う町民活動やボランティア活動は何ですか（あてはまるものすべてに○）

### 【全体の傾向】

・「防犯・防災活動」と回答した割合が 38.8%で最も高く、次いで「清掃・環境美化活動」と回答した割合が 38.7%、「見守り・話し相手の活動」と回答した割合が 30.0%となっている。



【属性別の傾向】

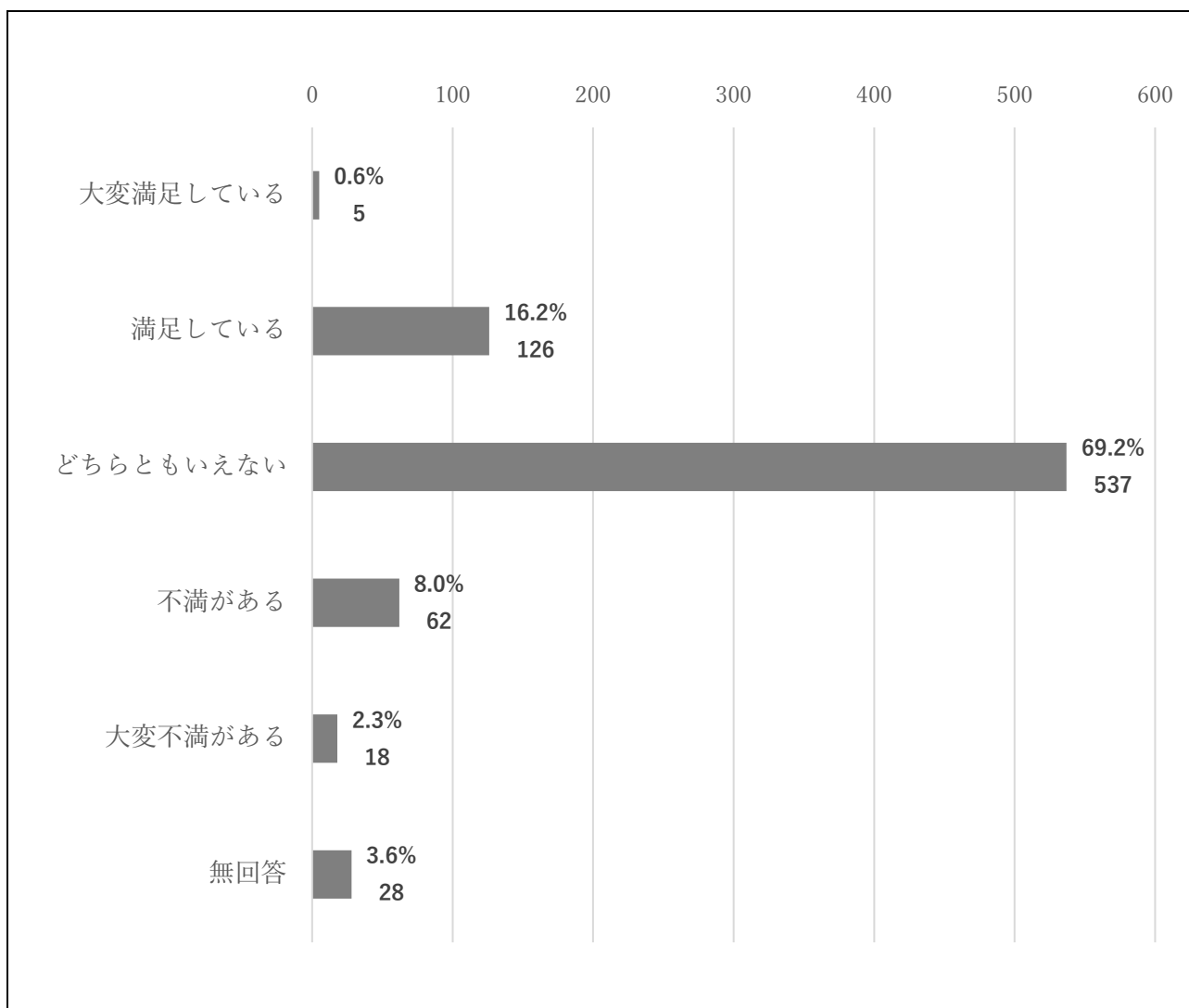
- ・年齢別でみると、40～49歳、50～59歳が「防犯・防災活動」と回答した割合が最も高いのに対し、20～29歳、60～69歳、70歳以上は「清掃・環境美化活動」と回答した割合が最も高い。
- ・居住地区別でみると、南端地区、豊岡地区、川崎地区が「防犯・防災活動」と回答した割合が最も高いのに対し、藤原地区は「健康増進のための活動」が最も高くなっている。

		1位		2位		3位	
全体		防犯・防災活動	38.8%	清掃・環境美化活動	38.7%	見守り・話し相手の活動	30.0%
年齢別	18・19歳	趣味のサークル活動	40.0%	防犯・防災活動	30.0%	区・自治会・公民館等の活動	30.0%
	20～29歳	清掃・環境美化活動	42.4%	防犯・防災活動	35.6%	趣味のサークル活動	28.8%
	30～39歳	見守り・話し相手の活動	36.5%	清掃・環境美化活動	34.4%	防犯・防災活動	32.3%
	40～49歳	防犯・防災活動	43.4%	清掃・環境美化活動	40.6%	見守り・話し相手の活動	26.4%
	50～59歳	防犯・防災活動	49.5%	清掃・環境美化活動	37.8%	見守り・話し相手の活動	28.8%
	60～69歳	清掃・環境美化活動	38.4%	防犯・防災活動	37.2%	健康増進のための活動	36.6%
	70歳以上	清掃・環境美化活動	40.8%	防犯・防災活動	35.4%	区・自治会・公民館等の活動	34.7%
居住地区別	南端地区	防犯・防災活動	42.9%	区・自治会・公民館等の活動	42.9%	清掃・環境美化活動	35.7%
	豊岡地区	防犯・防災活動	45.0%	清掃・環境美化活動	40.8%	健康増進のための活動	28.4%
	日出地区	清掃・環境美化活動	41.3%	防犯・防災活動	40.1%	見守り・話し相手の活動	31.1%
	藤原地区	健康増進のための活動	32.2%	清掃・環境美化活動	31.1%	防犯・防災活動	28.9%
	川崎地区	防犯・防災活動	39.5%	清掃・環境美化活動	38.8%	見守り・話し相手の活動	36.4%
	大神地区	清掃・環境美化活動	39.1%	防犯・防災活動	35.9%	区・自治会・公民館等の活動	34.4%

## 問 20 町民参加の取組について、現在の町政への意見・提言の機会や手段・方法に満足していますか（1つだけ○）

### 【全体の傾向】

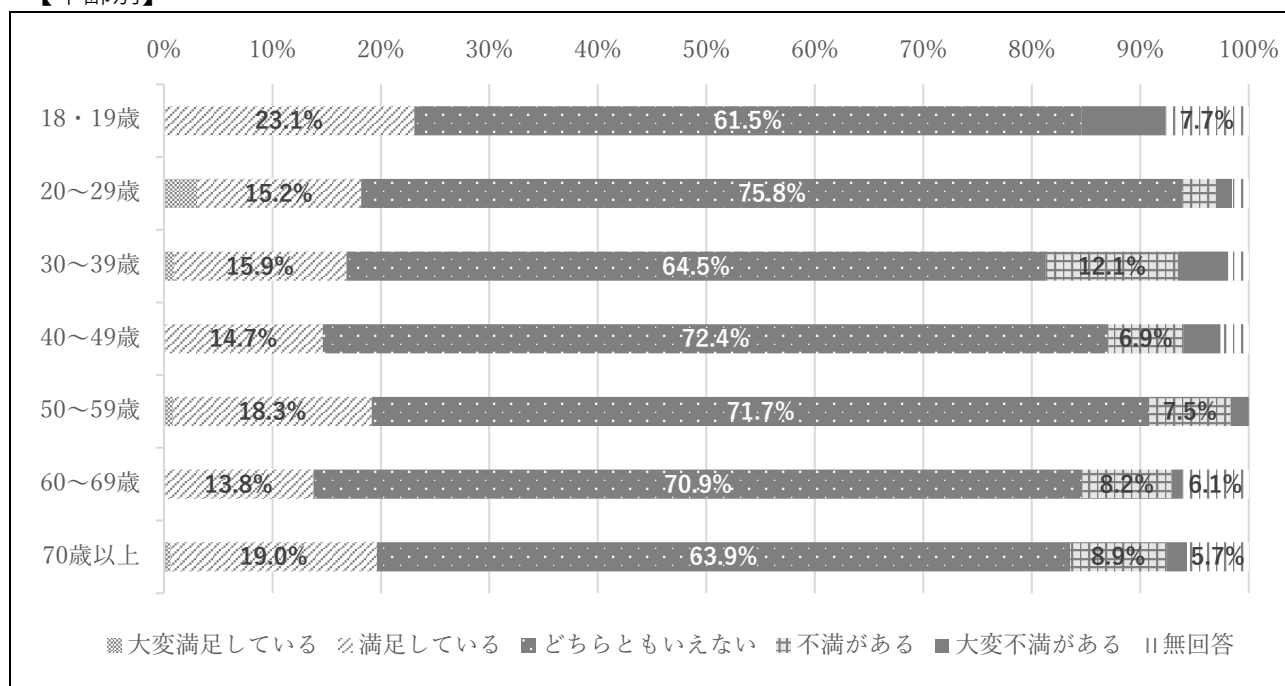
- ・「町民参加の取組について、現在の町政への意見・提言の機会や手段・方法に大変満足している」と回答した割合が0.6%、「満足している」が16.2%となっており、「どちらともいえない」と回答した割合が69.2%で最も高い結果となっている。
- ・「町民参加の取組について、現在の町政への意見・提言の機会や手段・方法に不満がある」と回答した割合が8.0%で、「大変不満がある」は、2.3%となっている。



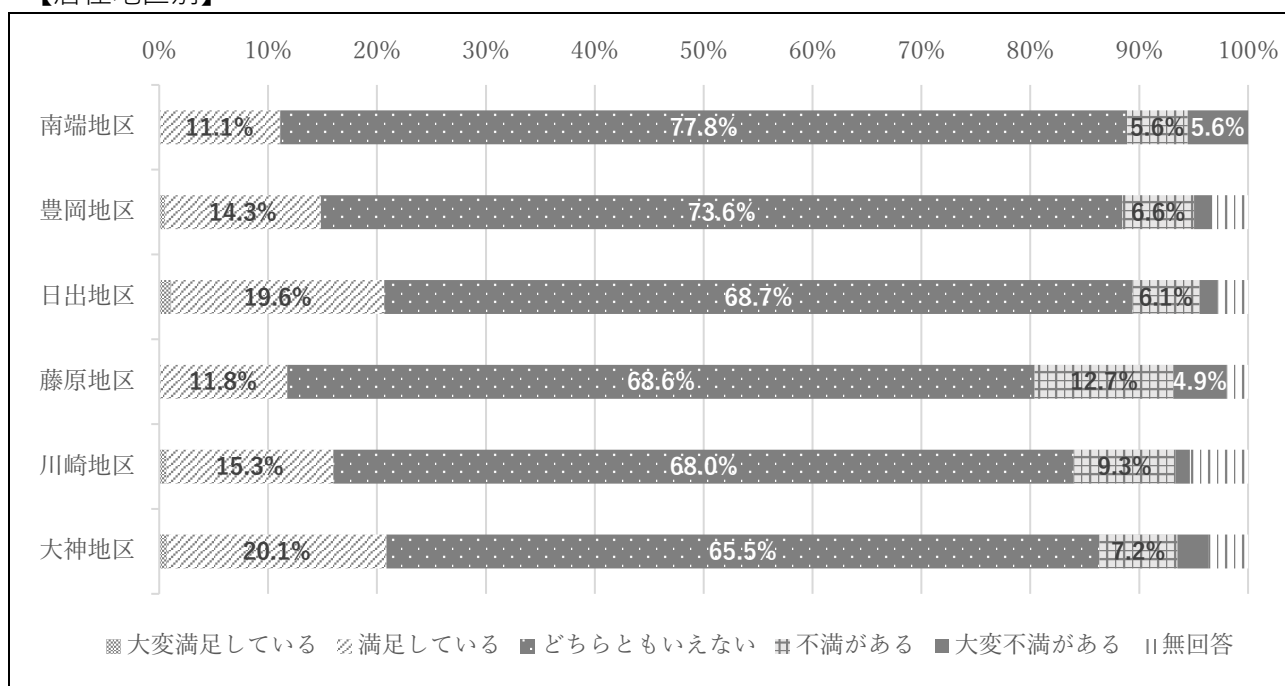
### 【属性別の傾向】

- ・年齢別でみると、18・19歳が「町民参加の取組について、現在の町政への意見・提言の機会や手段・方法に満足している」と回答した割合が23.1%で最も高いが、30～39歳は「満足していない」と回答した割合は12.1%で最も高い。
- ・居住地区別でみると、大神地区が「満足している」と回答した割合が20.1%で最も高いが、藤原地区は「満足していない」と回答した割合が12.7%で最も高い。

### 【年齢別】



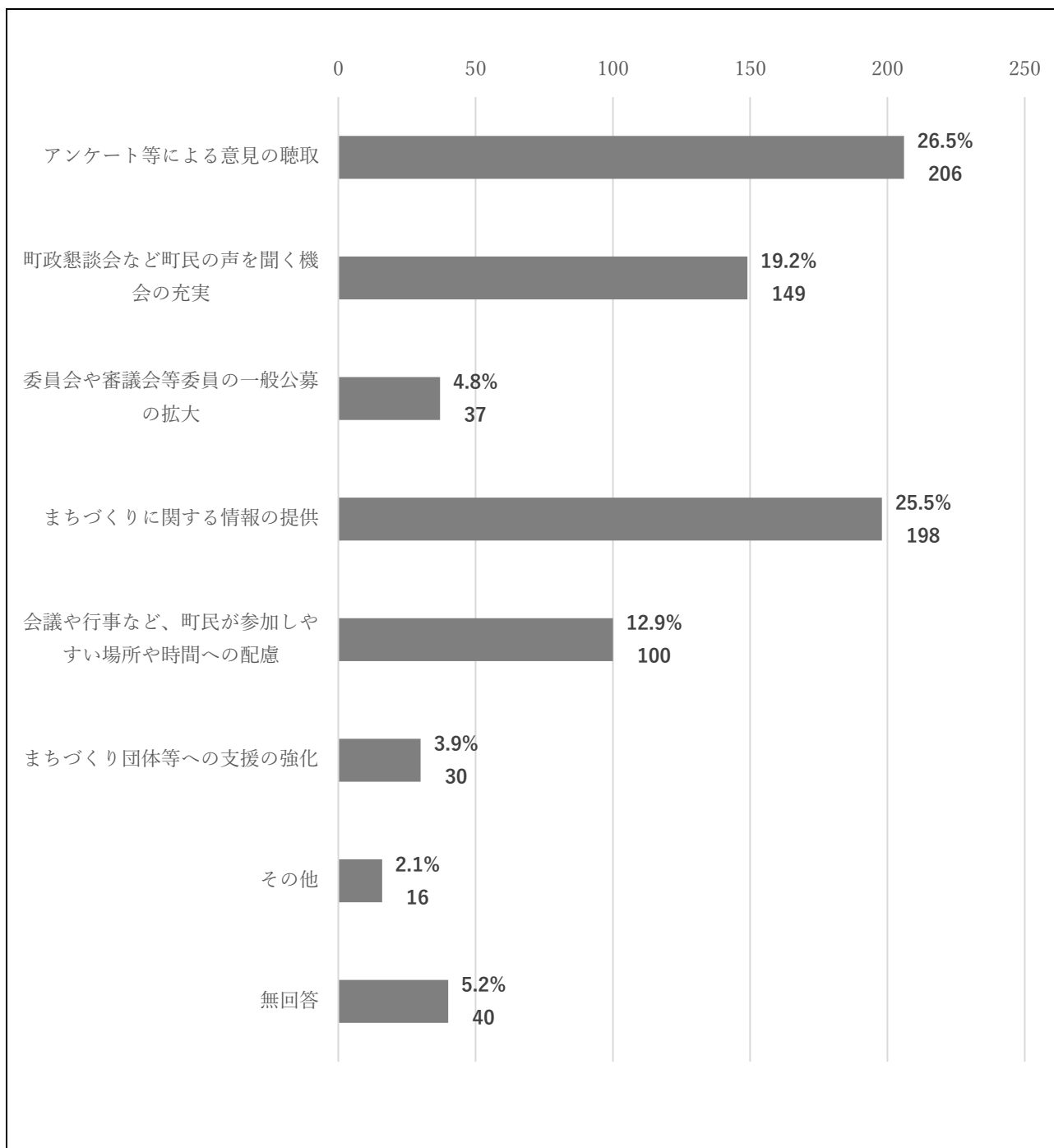
### 【居住地区別】



## 問 21 町民参加を推進するうえで、今後どのようなことに力を注ぐべきだと思いますか（1つだけ○）

### 【全体の傾向】

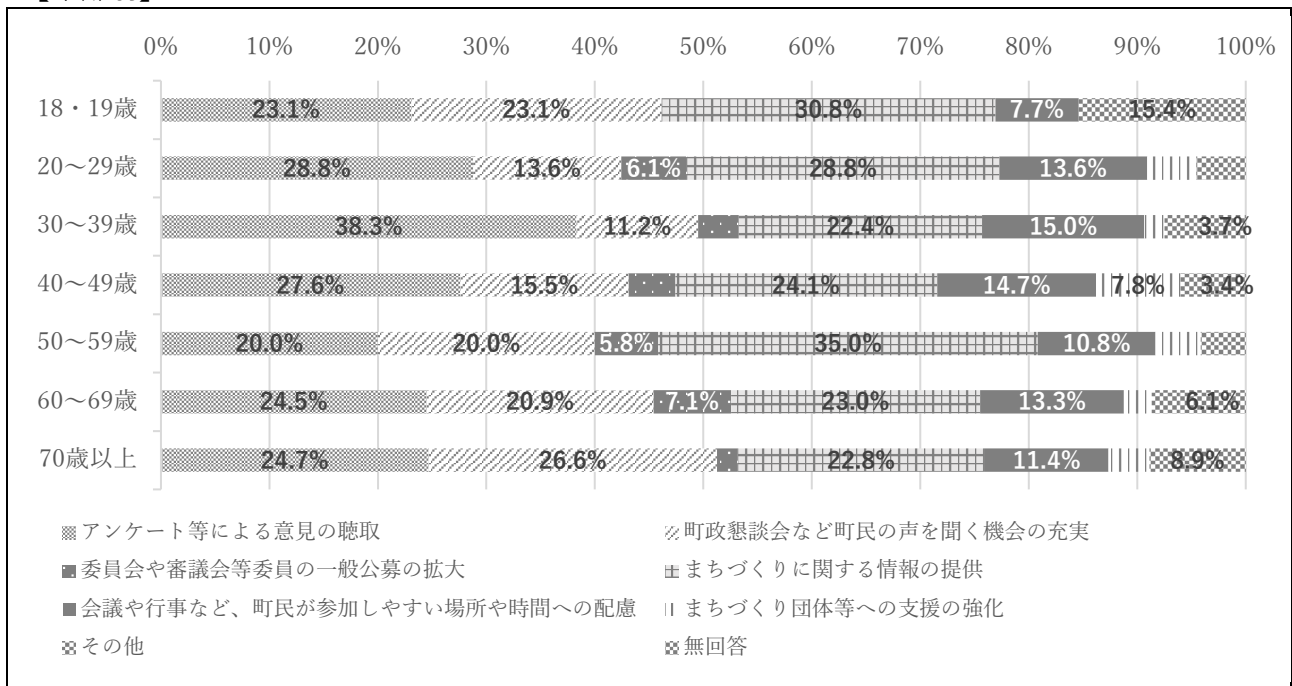
・「アンケート等による意見の聴取」と回答した割合が26.5%で最も高く、次いで「まちづくりに関する情報の提供」が25.5%、「町政懇談会など町民の声を聞く機会の充実」が19.2%となっている。



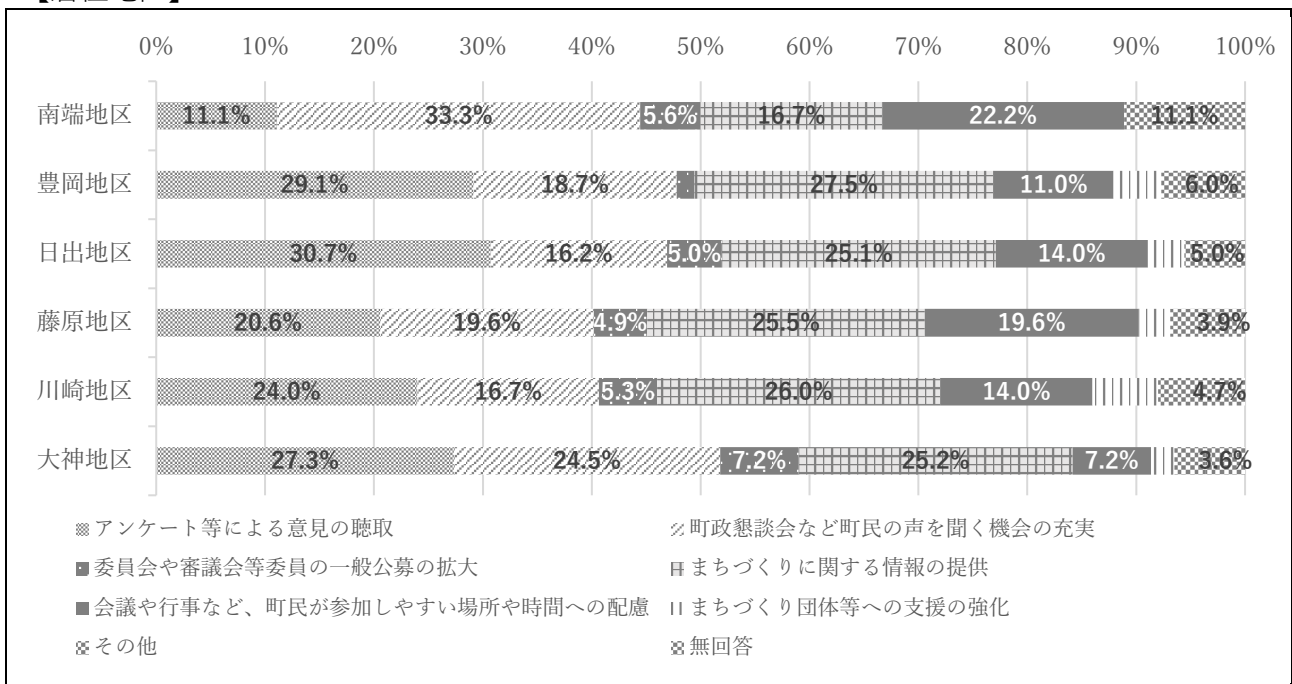
### 【属性別の傾向】

- ・年齢別でみると、18・19歳、50～59歳は「まちづくりに関する情報の提供」と回答した割合が最も高いのに対し、30～39歳は「アンケート等による意見の聴取」と回答した割合が最も高い。
- ・居住地区別でみると、南端地区は「町政懇談会など町民の声を聞く機会の充実」と回答した割合が33.3%で最も高いのに対し、豊岡地区、日出地区、大神地区は「アンケート等による意見の聴取」と回答した割合が最も高い

### 【年齢別】



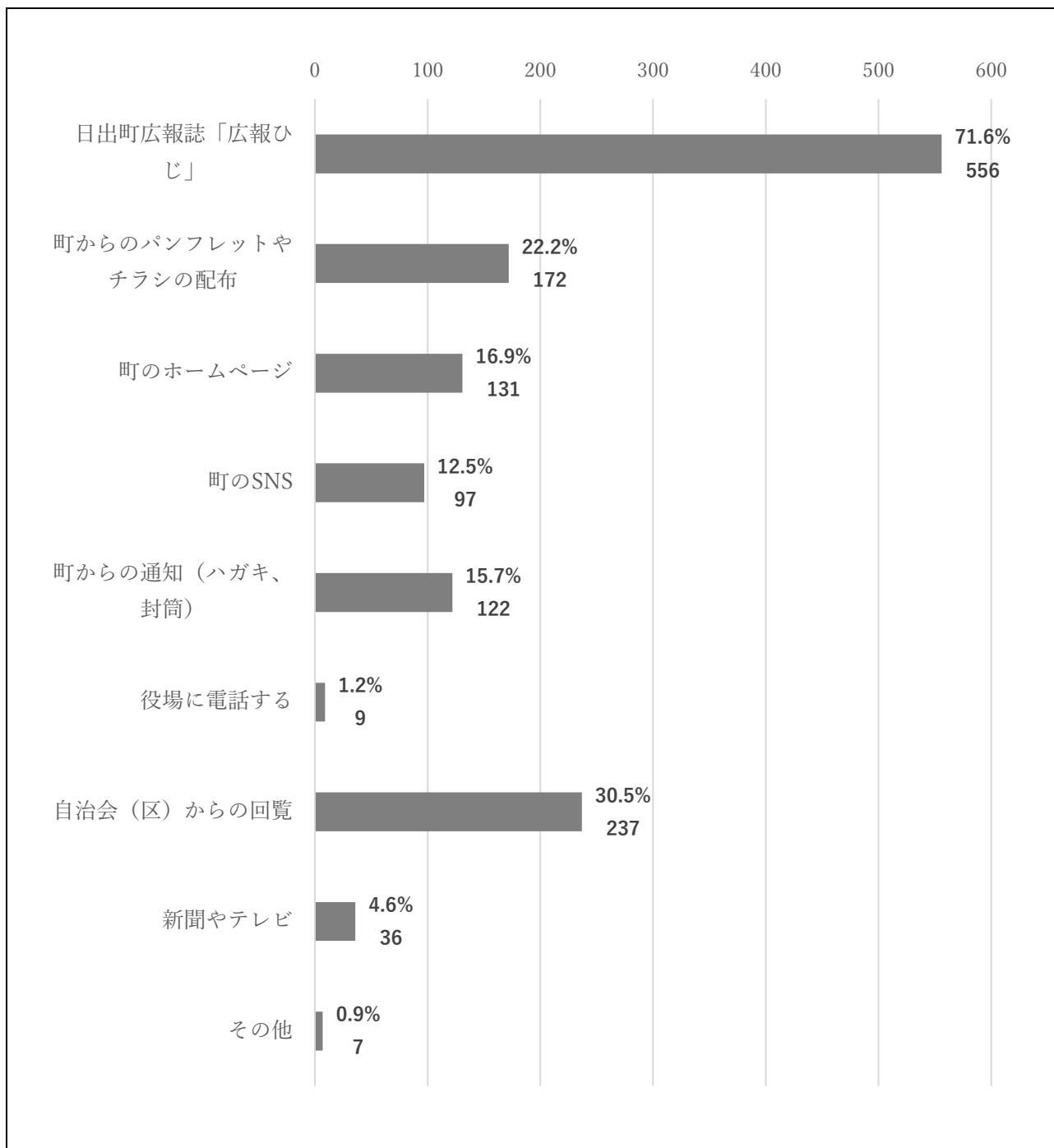
### 【居住地区】



## 問 22 町からの情報やお知らせを主にどのようにして受け取りたいですか（2つまで○）

### 【全体の傾向】

・「日出町広報誌（広報ひじ）」と回答した割合が71.6%で最も高く、次いで「自治会（区）からの回覧」が30.5%、「町からのパンフレットやチラシの配布」が22.2%となっている。





【属性別の傾向】

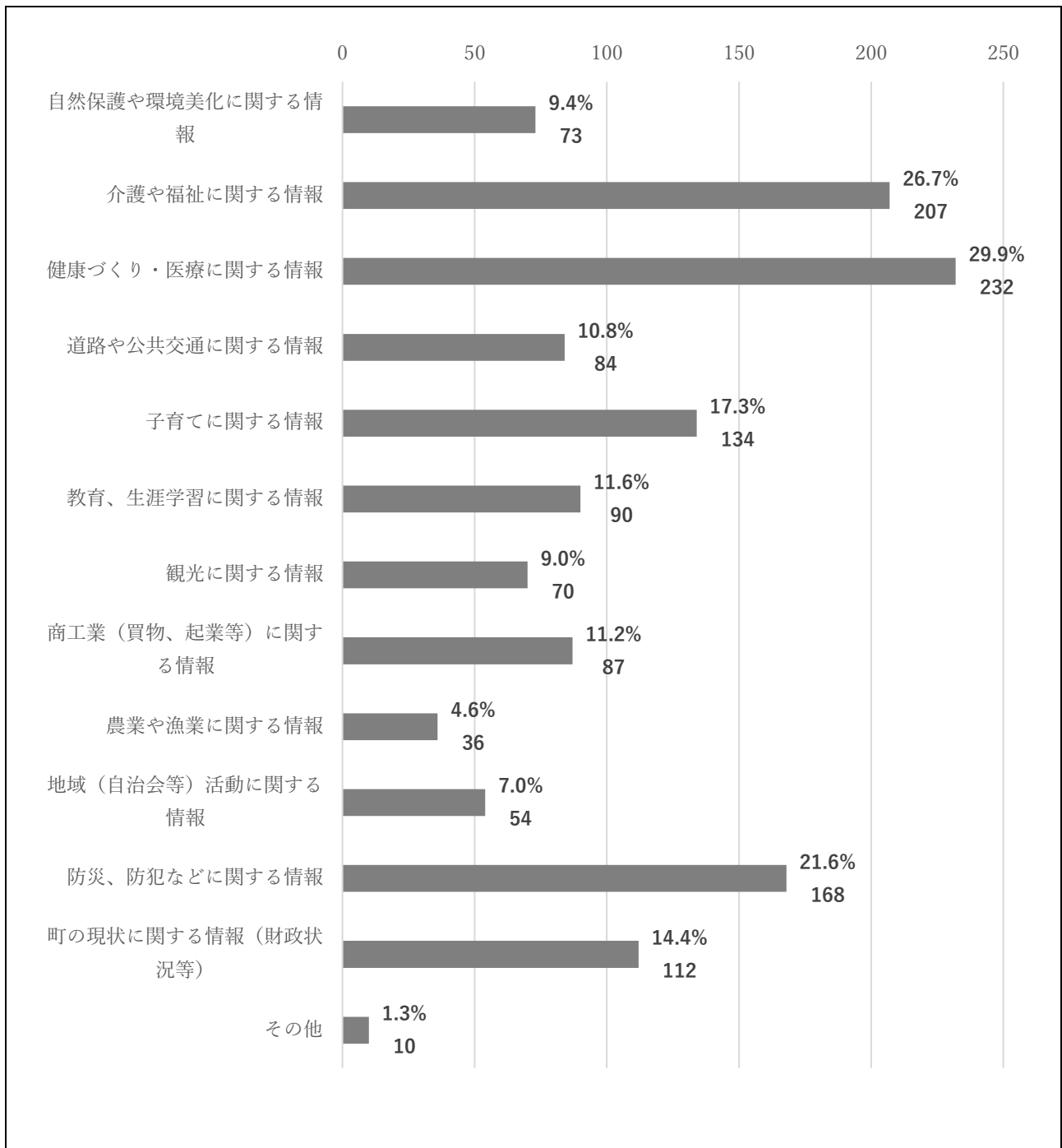
- ・年齢別にみると、各年代全てが「日出町広報誌（広報ひじ）」と回答した割合が最も高い。また、20～29歳、30～39歳、40～49歳は、「町のホームページ」や「町のSNS」を通じて情報を受け取りたいと回答しているのに対し、50～59歳、60～69歳、70歳以上は、「自治会からの回覧」や「町からのパンフレットやチラシの配布」で情報を受け取りたいという回答結果となっている。
- ・居住地区別にみると、各地区全てが「日出町広報誌（広報ひじ）」と回答した割合が最も高くなっている。

		1位		2位		3位	
全体		日出町広報誌「広報ひじ」	71.6%	自治会（区）からの回覧	30.5%	町からのパンフレットやチラシの配布	22.2%
年齢別	18・19歳	日出町広報誌「広報ひじ」	53.8%	町のホームページ	38.5%	町からのパンフレットやチラシの配布	23.1%
	20～29歳	日出町広報誌「広報ひじ」	65.2%	町のSNS	28.8%	町からの通知（ハガキ、封筒）	25.8%
	30～39歳	日出町広報誌「広報ひじ」	70.1%	町のホームページ	22.4%	町のSNS	21.5%
	40～49歳	日出町広報誌「広報ひじ」	75.0%	町のホームページ	20.7%	町のSNS	20.7%
	50～59歳	日出町広報誌「広報ひじ」	71.7%	町からのパンフレットやチラシの配布	28.3%	自治会（区）からの回覧	25.0%
	60～69歳	日出町広報誌「広報ひじ」	72.4%	自治会（区）からの回覧	40.3%	町からのパンフレットやチラシの配布	24.0%
	70歳以上	日出町広報誌「広報ひじ」	73.4%	自治会（区）からの回覧	51.9%	町からの通知（ハガキ、封筒）	19.6%
居住地区	南端地区	日出町広報誌「広報ひじ」	66.7%	自治会（区）からの回覧	22.2%	町からのパンフレットやチラシの配布	16.7%
	豊岡地区	日出町広報誌「広報ひじ」	72.5%	町からのパンフレットやチラシの配布	26.4%	自治会（区）からの回覧	25.8%
	日出地区	日出町広報誌「広報ひじ」	74.3%	自治会（区）からの回覧	32.4%	町からのパンフレットやチラシの配布	22.9%
	藤原地区	日出町広報誌「広報ひじ」	66.7%	自治会（区）からの回覧	34.3%	町のホームページ	21.6%
	川崎地区	日出町広報誌「広報ひじ」	74.0%	自治会（区）からの回覧	23.3%	町のホームページ	22.7%
	大神地区	日出町広報誌「広報ひじ」	70.5%	自治会（区）からの回覧	40.3%	町からのパンフレットやチラシの配布	24.5%

問 23 あなたが、もっと町から発信してもらいたいと思う情報は何か(2つまで○)

【全体の傾向】

・「健康づくり・医療に関する情報」と回答した割合が 29.9%で最も高く、次いで「介護や福祉に関する情報」が 26.7%、「防災・防犯などに関する情報」が 21.6%となっている。



【属性別の傾向】

- ・年齢別にみると、20～29歳、30～39歳が「子育てに関する情報」と回答した割合が最も高いのに対し、50～59歳、60～69歳、70歳以上は「介護や福祉に関する情報」と回答した割合が最も高い。
- ・居住地区別にみると、南端地区、豊岡地区、日出地区が「健康づくり・医療に関する情報」と回答した割合が最も高いのに対し、藤原地区、川崎地区は「介護や福祉に関する情報」と回答した割合が最も高い。

		1位		2位		3位	
全体		健康づくり・医療に関する情報	29.9%	介護や福祉に関する情報	26.7%	防災、防犯などに関する情報	21.6%
年齢別	18・19歳	教育、生涯学習に関する情報	30.8%	商工業（買物、起業等）に関する情報	30.8%	道路や公共交通に関する情報	23.1%
	20～29歳	子育てに関する情報	50.0%	健康づくり・医療に関する情報	18.2%	教育、生涯学習に関する情報	18.2%
	30～39歳	子育てに関する情報	49.5%	健康づくり・医療に関する情報	21.5%	防災、防犯などに関する情報	21.5%
	40～49歳	健康づくり・医療に関する情報	25.0%	子育てに関する情報	20.7%	教育、生涯学習に関する情報	19.0%
	50～59歳	介護や福祉に関する情報	34.2%	健康づくり・医療に関する情報	33.3%	防災、防犯などに関する情報	22.5%
	60～69歳	介護や福祉に関する情報	34.2%	健康づくり・医療に関する情報	33.2%	防災、防犯などに関する情報	24.5%
	70歳以上	介護や福祉に関する情報	42.4%	健康づくり・医療に関する情報	38.6%	防災、防犯などに関する情報	23.4%
居住地区	南端地区	健康づくり・医療に関する情報	27.8%	観光に関する情報	27.8%	自然保護や環境美化に関する情報	22.2%
	豊岡地区	健康づくり・医療に関する情報	32.4%	防災、防犯などに関する情報	24.2%	介護や福祉に関する情報	22.5%
	日出地区	健康づくり・医療に関する情報	32.4%	介護や福祉に関する情報	25.1%	防災、防犯などに関する情報	19.6%
	藤原地区	介護や福祉に関する情報	26.5%	町の現状に関する情報（財政状況等）	23.5%	防災、防犯などに関する情報	21.6%
	川崎地区	介護や福祉に関する情報	32.7%	健康づくり・医療に関する情報	30.0%	防災、防犯などに関する情報	23.3%
	大神地区	健康づくり・医療に関する情報	30.9%	介護や福祉に関する情報	30.2%	防災、防犯などに関する情報	20.1%